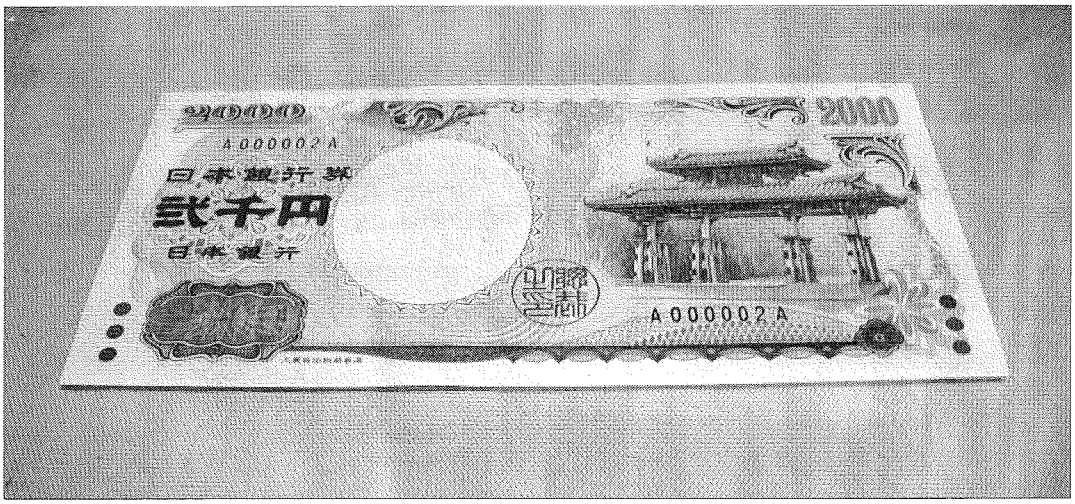
ISSN 0385-0293

沖縄県立博物館年報

No.34



2001

沖縄県立博物館

表紙：九州・沖縄サミット開催を記念して発行された新弐千円日本銀行券。沖縄県は
A000002Aという２番券を平成12年７月28日に日本銀行からご寄贈いただいた。

序

昨年度は様々な方面で新世紀前夜を体験した１年でした。本県にとっては九州・沖縄サミット開催を経験し、新世紀に向けた新たな風が感じられた１年でありました。当館にとっても55年目の館史の一頁を飾るにふさわしく、展示事業では２本の特別展と３本の企画展をはじめ文化講座などの教育普及事業や総合調査などの博物館事業が充実した１年でありました。

九州・沖縄サミット開催を記念した特別展「大琉球展」では全館的な改装を試み、施設の装いを整えるとともに、展示装置の新設や資料の入れ替えを行いました。また、沖縄からのハワイ移民100周年を記念して開催した特別展「日系移民１世紀展」は、米国ロスアンゼルスの全米日系人博物館との共催で、２部構成で展示を実施しました。米国の博物館と連携することによって米国流の教育プログラムの導入や展示会全体のコーディネイター「エバリュエーター」という職種など今後の博物館活動を行う上で多くの示唆を得た展示会でした。企画展では、恒例の「新収蔵品展」、「沖縄の繊維・染料植物展」、「工芸王国―人・技・心」展の３つの展示会を開催しました。

博物館活動の大きな柱の一つである教育普及事業では25回目を数える移動博物館を伊江村で開催しました。また、伝統の文化講座は大台の300回記念から310回まで11回開催いたしました。年々充実してきた子ども体験学習教室は、「豆とサトウキビづくり」をはじめの５つのメニューを実施し、延べ284人の子どもたちなどが参加しました。さらに、博物館シアターでは、沖縄をテーマにした映像、なつかしの名作を合わせて３本の上映を行いました。

博物館活動の推進のためには学芸員の日常的な調査研究が不可欠です。この一環として、当館職員の総力をあげて実施している西表島総合調査は、３年間の調査を終了し、その成果をまとめることができました。調査にご協力いただきました関係各位に心から感謝申し上げますとともに、本書が西表島の学術調査に少しでも役立てば幸いに思います。

当館は戦後まもなく開設された石川の沖縄陳列館、首里の首里市立郷土博物館を前身として、その礎に55年間の歴史を加え、施設、スタッフの充実を図ってまいりました。21世紀の初年度にあたり、県民に夢と希望を与える特別展、企画展をはじめ文化講座、体験学習教室などを展開し、県民に対しより親しまれる博物館づくりに今後とも努力していく所存であります。今後ともより一層のご指導、ご協力をお願い申しあげます。

平成13年６月５日

沖縄県立博物館
館長　平　田　與　進

目　次

序 …… 館長平田與進
Ⅰ　概　要
1　沿　革 …… 1
2　日誌（抄） …… 3
3　施設・設備 …… 5
4　組　織 …… 7
5　沖縄県立博物館協議会 …… 9
6　予　算 …… 10
Ⅱ　入館者数
1　入館者数 …… 11
2　県内外児童生徒学生団体見学者 …… 14
Ⅲ　調査研究等の活動
1　調査研究の概要 …… 16
2　調査研究 …… 18
3　講演等 …… 19
4　著作論文等 …… 20
5　職員研修 …… 22
Ⅳ　展示活動
1　展示活動の概要 …… 22
2　常設展 …… 22
3　特別展 …… 26
4　企画展 …… 34
5　移動博物館 …… 40
Ⅴ　教育普及活動
1　教育普及活動の概要 …… 45
2　博物館文化講座 …… 46
3　親子文化講座 …… 48
4　衛星放送を利用した子供放送局 …… 49
5　博物館シアター …… 50
6　子ども体験学習教室 …… 50
7　ボランティア活動 …… 54
8　支援活動 …… 56
Ⅵ　博物館実習 …… 57
Ⅶ　資料の収集・保存管理
1　収蔵資料現在高 …… 59
2　2000（平成12）年度新収蔵資料高 …… 59
3　2000（平成12）年度収蔵資料目録 …… 60
4　所蔵の指定文化財 …… 61
5　収蔵資料整理事業 …… 62
6　資料貸出 …… 63
7　燻蒸処理 …… 64
Ⅷ　刊行物 …… 65
Ⅸ　その他の活動
1　沖縄県博物館協会 …… 66
2　沖縄県立博物館友の会 …… 66
Ⅹ　関係法規抄録 …… 69

Ⅰ 概 要

1 沿 革

〔前 史〕

昭和11年（1936）旧首里城北殿を利用し沖縄縣教育會附設「郷土博物館」として創設されたが、昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年８月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し、石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。一方、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、昭和21年３月頃首里の汀良に「首里市立郷土博物館」が設立された。

〔創 設〕

昭和21年（1946）４月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、「東恩納博物館」と改称して、新発足。これが当館の創立にあたる。

〔発 展〕

昭和28年(1953)東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年（1955）には「琉球政府立博物館」に改称する。また、同41年（1966）には現敷地に新館を建設して移転する。同47年(1972）の日本復帰に伴い名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年（1973)、２階部を増築し展示スペースを拡充し、現在に至る。

〔あゆみ〕

昭和21年（1946）４月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。

昭和22年（1947）12月、前年３月に首里汀良町に設立された首里市立郷土博物館も同民政府に移管。「沖縄民政府立首里博物館」に改称される。

昭和28年（1953）３月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。５月、首里博物館は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館完成。米民政府によりペルリー来琉百周年記念事業の一環としてとペルリ記念 館同博物館に附設して落成、贈呈される。

昭和30年（1955）９月「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称。

昭和40年（1965）大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）を購入。

昭和41年（1966）10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し、移転。11月に開館。

昭和47年（1972）２月、サントリー美術館との共催で、「50年前の沖縄」写真展を開催。５月、日本復帰に伴い「沖縄県立博物館」に改称。

昭和48年（1973）２月、国庫補助により２階部を増築し、展示室を３室増設。

昭和51年（1976）４月、創立30周年記念式典を行う。

昭和55年（1980）１月、特別展「日本の美―救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」開催。

２月、「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後毎年離島市町村で実施。

11月、特別展「失われた生物たち―大恐竜展」開催。

昭和56年（1981）３月30日付け、博物館法に基づき、沖縄県の「登録博物館」として登録。

10月、特別展「沖縄の美―日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」開催。

昭和57年（1982）５月、新たに常設展として自然部門を設置。

10月、特別展「熊本県・沖縄県交流展－熊本の歴史と文化」開催。

昭和58年（1983）11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展－沖縄の美―風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催。

昭和60年（1985）11月、特別展「グスクーグスクが語る古代琉球の歴史とロマン」開催。

昭和61年（1986）２月、特別展「美術工芸の美を求めて－大嶺薫コレクション」開催。

昭和62年（1987）10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画―物

故作家」開催。
12月、企画展「田名家収蔵品展—ある首里士族の400年」開催。
12月、企画展「現代沖縄の陶芸—天野鉄夫コレクション」開催。
昭和63年（1988）８月、特別展「ヤンバルの自然」開催。
11月、特別展「三線名器100挺展」開催。
平成元年（1989）11月、特別展「インドネシア更紗展」開催。
平成２年（1990）１月、特別展「大アンデス文明展」開催。
平成３年（1991）10月、特別展「アジアの祭りと芸能」開催。
平成４年（1992）６月、特別展「古代メキシコ至宝展」開催。
８月、特別展「沖縄の貝類展」開催。
10月、特別展「琉球王国展」開催。
平成５年（1993）１月、特別展「尚家継承琉球王文化遺産展」開催。
８月、特別展「沖縄の川と生きもの」開催。
平成６年（1994）７月、特別展「子どもの世界」開催。
平成７年（1995）６月、戦後50周年記念特別展「甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」開催。
平成８年（1996）７月、特別展「大久米島展」開催。
12月、企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」開催。
創立50周年式典を行う。
平成９年（1997）４月、特別展「アルゼンチンの大恐竜展」開催。
平成10年（1998）７月、企画展「琉球王国時代の植物標本展」開催。
11月、特別展「包むこころ　ふろしき展」開催。
平成11年（1999）８月、特別展「三線のひろがりと可能性展」開催。
10月、企画展「日本の技－伝統のかたち」（第７回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」巡回展）開催。
平成12年（2000）２月、企画展「工芸王国—きらめく手わざの世界を沖縄から」展 開催。
７月、九州・沖縄サミット開催記念特別展「大琉球展」開催
11月、ハワイ移民百周年記念記念特別展「日系移民１世紀展－From Bentō to Mixed Plate」開催。
平成13年（2001）２月、企画展「沖縄の繊維・染料植物展」開催。
３月、企画展「工芸王国展－人・技・心」開催。

〔歴代館長〕

東恩納博物館・首里博物館

大嶺　　薫（昭和21年４月～28年３月・東恩納博物館）
豊平　良顕（昭和22年12月～23年３月・首里博物館）
原田　貞吉（昭和23年８月～28年３月・　〃　）

沖縄民政府立首里博物館

原田　貞吉（昭和28年　３月～30年5月）

琉球政府立博物館

山里　永吉（昭和30年５月～33年８月）
金城増太郎（昭和33年９月～36年12月）
大城　知善（昭和37年２月～44年11月）
外間　正幸（昭和44年12月～47年５月）

沖縄県立博物館

外間　正幸（昭和47年５月～56年３月）

大城徳次郎（昭和56年４月　～58年３月）
大城　立裕（昭和58年４月　～61年３月）
大城　宗清（昭和61年４月～平成４年３月）
宜保榮治郎（平成４年４月～６年３月）
糸数　兼治（平成６年４月～８年３月）
當間　一郎（平成８年４月～11年３月）
大城　将保（平成11年４月～12年３月）
平田　與進（平成12年４月～）

2　日誌抄

（平成12年４月１日～平成13年３月31日）

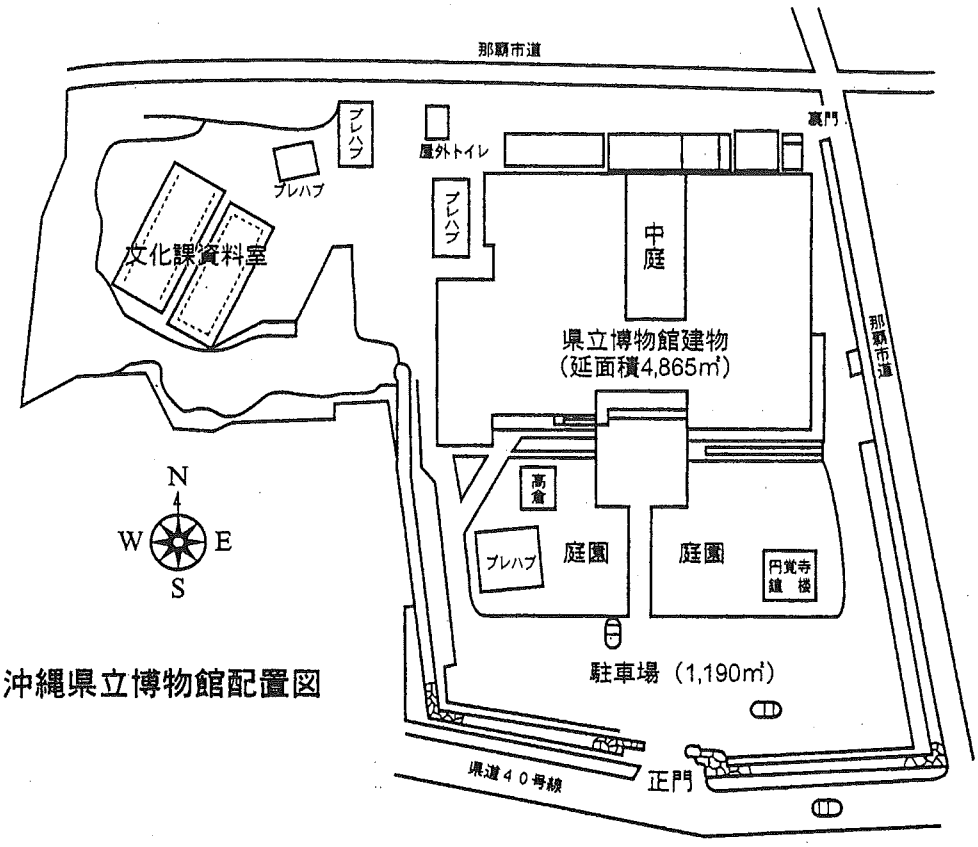
平成12年

４月12日　国立歴史民俗博物館研究部教授比嘉政夫氏来館
24日　県定期監査（職員監査）～25日実施（宮城副参事、松永主幹）
５月16日　県定期監査（委員監査）仲地清純委員、黒木美智参事
22日　閉館し、館内燻蒸を実施（～５月26日）
25日　沖縄県博物館協会の総会・春期研修会（那覇市、～26日）
６月11日　ハワイ州教育局ポールＧ・メヒュー局長来館
12日　内閣審議官武田真甲子氏来館
７月７日　東京国立博物館館長佐々木利和氏来館
11日　九州・沖縄サミット開催記念特別展「大琉球展」開会式典（～８月27日）
17日　NHK福岡放送局視聴者センター広報チーフディレクター金城紀昭氏来館
８月３日　中国第一歴史档案館副館長馮伯群氏来館
９日　沖縄ハワイ協会事務局長眞喜屋明氏来館
21日　博物館学芸員実習（～９月１日）
30日　県立博物館ボランテア新会員入会式
９月６日　神奈川県議会文教常任委員会一行来館
９日　中国社会科学院考古研究所所長一行来館
12日　暴風雨のため臨時休館（台風１４号）～13日
14日　企画展「新収蔵品展」開会式典（～10月22日）
16日　ワシントン・タイムス紙ポンピアン記者一行来館
10月６日　アーキオロジカル・考古学ツアー一行来館
文部省委嘱事業「親しむ博物館づくり事業」実行委員委嘱状交付式
12日　沖縄県博物館協会の秋期研修会（宜野座村、～13日）
15日　神奈川県歴史博物館ボランティア一行来館（交流会）
16日　博物館学芸員実習（～10月27日）
25日　大韓民国済州道研修交流団一行来館
26日　全国図書館大会関係者（韓国・朝鮮民主主義人民共和国代表）一行来館
11月２日　地下空調機等改修工事（～13年２月19日）
５日　琉球中国歴史関係国際学術会議一行来館
10日　特別展ハワイ移民百周年記念「日系移民１世紀展」開会式典（～12月10日）
式典参加のためトーマス・S・フォーリー駐日アメリカ合衆国大使、ダニエル・K・イノウエ全米日系人博物館名誉理事会会長、メイジー・K・ヒロノ米国ハワイ州副知事、アイリーン・Y・ヒラノ全米日系人博物館館長他関係者一行来館
24日　移動博物館（伊江村開催・～26日）
国立済州博物館館長趙現鐘氏来館
27日　博物館学芸員実習（～12月８日）
29日　県教育委員一行来館

12月８日　国立民族学博物館館長石毛直道氏来館
　　26日　平成12年度第１回沖縄県立博物館協議会
平成13年
　１月17日　消防訓練実施
　２月６日　企画展「沖縄の繊維・染料植物展」開会式典（～３月４日）
　３月13日　企画展「工芸王国展ー人・技・心」開会式典（～３月25日）
　　14日　文化庁長官官房審議官林幸秀氏来館
　　17日　東京国立近代美術館館長辻村哲夫氏来館

特別展「日系移民１世紀展」開会式後の特別観覧

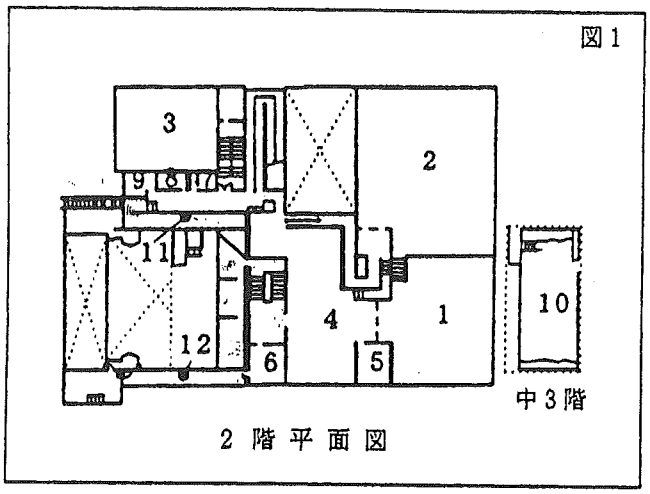
3　施設・設備



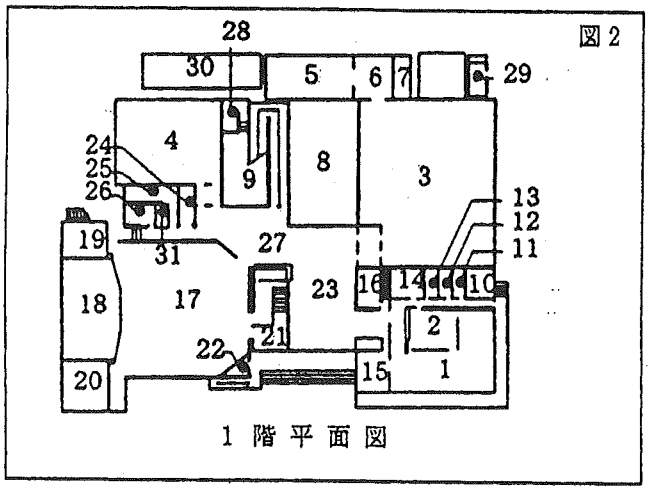
沖縄県立博物館配置図

施設規模

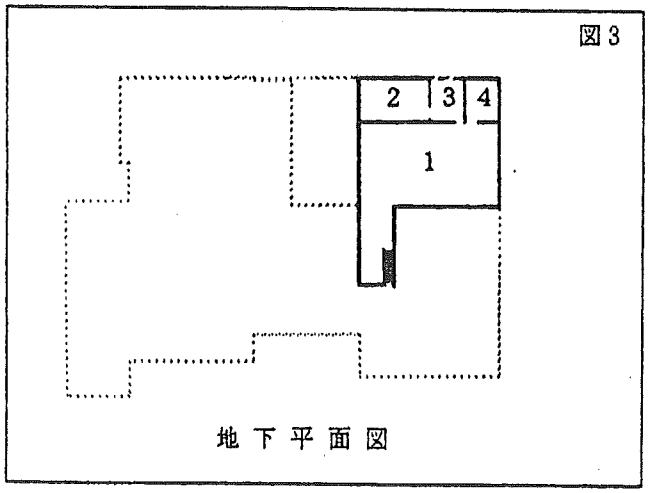
●敷地面積 ……11,267㎡
●建物延べ面積 ……4,6865㎡
　1階及び講堂部分……2,893㎡
　2階部分……1,571㎡
　地下部分……401㎡
●展示面積……1,590㎡
　1階……632㎡
　2階……958㎡
●ロビー面積……256㎡
●収蔵庫面積……1,048㎡
●駐車場面積……1,190㎡
●庭園面積……1,612㎡
●講　　堂……632㎡
　客席数215席
●空調機能力
　空冷冷専チリングユニット
　125,000Kcal／h×2基
　エアハンドリングユニット　6基
　パッケージ型ユニット
　56,000Kcal／h×1基
　28,000Kcal／h×1基
　20,000Kcal／h×1基
　8,400Kcal／h×1基
　7,100Kcal／h×2基
　5,000Kcal／h×2基
　2,000Kcal／h×1基
　1,200Kcal／h×1基
●受変電設置
　電灯 Tr　1φ3W　30KVA×1基
　電灯・動力Tr　3φ4W　100KVA×1基
　動力　3φ3W　250KVA×1基
●契約電力　195KW



2 階 平 面 図



1 階 平 面 図



地 下 平 面 図

【2階】

番号	室　名	
1	美術工芸展示室	265m²
2	民俗展示室	436m²
3	漆器収蔵庫	170m²
4	企画展示室	257m²
5	空調機械室	29m²
6	コンピューター室	59m²
7	化粧室（女）	6m²
8	化粧室（男）	11m²
9	空調機械室	12m²
10	化石収蔵庫（中3階）	120m²
11	貝類収蔵室	25m²
12	陶器収蔵室	36m²
13	その他	145m²

【1階】

番号	室　名	
1	事務室	115m²
2	会議室	96m²
3	考古・歴史展示室	462m²
4	自然史展示室	170m²
5	収蔵庫	120m²
6	荷解場	32m²
7	陶磁器収蔵庫	11m²
8	中　庭	152m²
9	厨子甕収蔵庫	91m²
10	休憩室	11m²
11	湯湧室	8m²
12	化粧室（女）	7m²
13	化粧室（男）	9m²
14	図書室	28m²
15	館長室兼応接室	28m²
16	案内コーナー	18m²
17	講堂（客席）	428m²
18	ステージ	116m²
19	控　室	19m²
20	控　室	32m²
21	講堂出入口	37m²
22	守衛室	14m²
23	ロビー	256m²
24	倉　庫	14m²
25	化粧室（女）	21m²
26	化粧室（男）	11m²
27	友の会売店	10m²
28	空調機械室	11m²
29	消火栓ポンプ室	5m²
30	厨子甕収蔵室	75m²
31	身障者用トイレ	6m²

【地階】

番号	室　名	
1	収蔵庫	285m²
2	空調機械室	58m²
3	荷解場	28m²
4	受変電設備	30m²

4　組　織（平成13年４月１日現在）

(1)　組　織

館　長 ┄┄ 博物館協議会
館　長 ── 副館長 ┬ 庶　務　課（庶務、施設管理、予算・決算等、その他会計事務）
　　├ 学　芸　課（資料収集・保管、展示、調査研究等）
　　└ 教育普及課（教育普及、博物館学習、教育普及資料、広報、文化講座等）

(2)　職員構成

職　名	氏　名	担　当　業　務
館　長	平　田　與　進	博物館業務の総理に関すること。
副館長兼庶務課長	森　山　晃	館長の補佐、庶務課・学芸課・教育普及課との調整に関すること。庶務課の総括、予算・決算、財産管理（財産・鍵・公印の保管等）、会計監査、沖縄県立博物館協議会、全国及び九州ブロック博物館協議会、その他庶務に関すること。

庶務課

庶務課長（副館長兼務）	森　山　晃	庶務課の総括、予算・決算、財産管理（財産・鍵・公印の保管等）、会計監査、沖縄県立博物館協議会、全国及び九州ブロック博物館協議会、その他庶務に関すること
主　査	外　間　廣　子	歳出事務、決算事務、全国及び九州ブロック博物館協議会、その他庶務に関すること。
主　事	木　村　達	給与、歳入、諸手当の認定、出勤簿整理、非常勤職員の任用申請、入館料免除に関すること。図書類、消耗品受け入れ、文書等の収受、切手等の管理、その他庶務に関すること。
主　任	平　良　盛　明	施設設備の保守管理、車両の管理、防火管理補助、備品・その他庶務に関すること。

学芸課

主幹兼課長	千　木　良　芳　範	学芸業務全般の総括、考古資料、学芸員会議、学芸員研修、博物館学芸員実習、沖博協に関すること。
主任学芸員	與　那　嶺　一　子	美術工芸資料（染織・書跡）、収蔵品台帳、博物館資料・写真資料貸出、レプリカ作成、博物館資料購入・修理に関すること。特別展「かざりとかたち」。
主　任	園　原　謙	歴史資料、レプリカ作成、博物館資料購入・修理、博物館年報の発行に関すること。
指導主事	宮　城　勉	自然史資料（地質・化石）、化石資料整理、沖博協の書記・会計に関すること。
指導主事（充）	与　那　城　義　春	自然史資料（植物・動物）、総合調査、図書資料購入、教育普及書・博物館紀要の発行、新収蔵品展に関すること。
〃	嵩　原　建　二	自然史資料（植物・動物）、収蔵資料整理（管理システム）に関すること。
〃	津　波　古　聰	美術工芸資料（絵画・漆器・陶器）、収蔵資料整理（写真等）、新収蔵品展、資料購入に関すること。
主任指導主事（充）	桃　原　茂　夫	民俗資料、収蔵資料整理に関すること。

教育普及課

課　　長	前田真之	教育普及業務の総括、ボランティア活動事業(登録含む)、友の会への指導に関すること
指導主事（充）	瑞慶山　昇	美術工芸資料（彫刻）、移動博物館、博物館シアター、全館燻蒸、ポスター・チラシ等の作成、視聴覚器材（ソフト）の保全・管理。行事案内・リーフレットの作成。団体見学（中学校）の対応に関すること。
指導主事	玉城善哲	子ども体験学習教室、博物館学習の助言・調整、団体見学（小学校）の対応、博物館展示リーフレットの作成、図書購入、子供からの手紙相談に関すること、団体見学・質問等（小学校）の対応に関すること。
学芸員（臨任）	赤嶺新子	文化講座、広報活動（マスコミ記者会見等）、親子文化講座、博物館だよりの発行、アンケート調査・回答、教育普及に関する情報・提供（行事案内）団体見学（高校・一般）の対応、ホームページに関すること。

委託職員

教育普及補助員	上原敏子 喜久川智子	教育普及、展示解説、寄贈図書受入れに関すること。
監視員	金城民子 小橋川敏子 島袋千恵子 當眞哲子 伊波芙美子 大城弘子	受付補助及び展示場監視に関すること。
緑化整備員	金城朝正	緑化整備に関すること。

沖縄県立博物館友の会

書記・会計	池宮城啓子	博物館友の会の庶務会計に関すること。

3）人事異動　　平成13年4月1日現在

職　名	氏　名	摘　要
【転出】		
副館長	新垣末子	糸満青年の家所長へ
主幹兼庶務課長	比嘉敏子	教育庁財務課主幹兼学校予算係長へ
主任技師	真保栄勝	下水道管理事務所へ
主査	平安名寿賀子	島尻教育事務所へ
主幹兼学芸課長	大城慧	教育庁文化課課長補佐へ
指導主事	神谷厚昭	真和志高等学校教諭へ
指導主事（充）	太田健一	北部工業高等学校教諭へ
〃	伊波悦子	首里高等学校教諭へ
指導主事	仲底善章	石垣市立平真小学校教頭へ
【転入】		
副館長兼庶務課長	森山晃	保健体育課主幹から（昇任）
主任	平良盛明	下水道管理事務所から
主査	外間廣子	県立図書館から
主幹兼学芸課長	千木良芳範	教育庁文化課課長補佐から
主任指導主事（充）	桃原茂夫	沖縄県公文書館資料課長から
指導主事	宮城勉	那覇国際高等学校教諭から
〃	玉城善哲	東風平小学校教諭から

5　沖縄県立博物館協議会

第１回　　日　時：平成12年12月26日（火）（14:00 ～ 16:00）
場　所：県立博物館会議室
会議事項
(1) 博物館の概要について
(2) その他

第２回　　日　時：平成13年３月12日（月）（15:00 ～ 17:00）
場　所：県立博物館会議室
会議事項
(1) 平成13年度当初予算（案）について
(2) 平成13年度事業計画（案）について
(3) その他

沖縄県立博物館協議会委員会名簿（平成12年12月15日～平成14年12月14日）

	氏　名	所　　属	職　名
学識経験者	翁　長　自　修	元琉球大学教授　（美術工芸）	元　教　授
	新　城　和　治	元琉球大学教授　（自然史）	元　教　授
	金　城　正　篤	沖縄大学教授　（歴史）	教　　授
	嵩　元　政　秀	沖縄考古学会　（考古学）	会　　長
	津　波　高　志	琉球大学教授　（民俗）	教　　授
学校関係者	前　城　文　彦	沖縄県小学校長会	副　会　長
	大　城　忠　一	沖縄県中学校長会	副　会　長
社会教育関係者	仲　地　朝　明	沖縄県社会教育委員会会議	議　　長
	喜　納　兼　功	沖縄県ＰＴＡ連合会	会　　長
	小　禄　亮　子	沖縄県子ども育成連絡協議会	事務局長

6　予　算

平成12年度博物館費（決算）　（単位：円）

	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博　物　館　費
報　　酬	176,700	0	176,700
賃　　金	0	4,256,100	4,256,100
報　償　費	0	644,500	644,500
旅　　費	853,749	3,170,978	4,024,727
需　用　費	21,709,000	8,546,751	30,255,751
役　務　費	865,978	2,756,657	3,622,635
委　託　料	16,902,000	37,690,306	54,592,306
使用料及び賃借料	292,320	947,064	1,239,384
工　事　請　負　費	25,725,000	0	25,725,000
備　品　購　入　費	190,000	0	190,000
負担金補助及び交付金	75,000	0	75,000
公　課　費	18,900	0	18,900
合　　計	66,808,647	58,012,356	124,821,003

平成12年度歳入状況　（単位：円）

	友　の　会　等	特　別　展　等	合　　計
博　物　館　使　用　料	0	10,848,860	10,848,860
土　地　使　用　料	83,446	0	83,446
建　物　使　用　料	47,835	0	47,835
雑　　入	140,692	0	140,692
合　　計	271,973	10,848,860	11,120,833

Ⅱ　入館者数

1　入館者数（平成12年４月１日～平成13年３月31日）

入館者者月別集計

		個人入館者数				団体入館者数				合計				開館日数	一日平均入館者
		大人	高大生	小中生	合計	大人	高大生	小中生	合計	大人	高大生	小中生	合計		
		有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)		
12年	4月	1,996 (0)	129 (0)	239 (5)	2,364 (5)	45 (51)	54 (0)	317 (355)	416 (406)	2,041 (51)	183 (0)	556 (360)	2,780 (411)	25	128
	5月	1,746 (0)	143 (0)	179 (9)	2,068 (9)	165 (4)	25 (0)	119 (373)	309 (377)	1,911 (4)	168 (0)	298 (382)	2,377 (386)	20	138
	6月	1,527 (0)	253 (1)	72 (18)	1,852 (19)	189 (56)	1,623 (25)	294 (233)	2,106 (314)	1,716 (56)	1,876 (26)	366 (251)	3,958 (333)	25	172
	7月	2,122 (145)	235 (0)	348 (0)	2,705 (145)	588 (48)	115 (0)	257 (80)	960 (128)	2,710 (193)	350 (0)	605 (80)	3,665 (273)	19	207
	8月	4,224 (458)	654 (0)	1,513 (0)	6,391 (458)	107 (35)	1 (0)	272 (112)	380 (147)	4,331 (493)	655 (0)	1,785 (112)	6,771 (605)	27	273
	9月	2,039 (6)	353 (0)	101 (7)	2,493 (13)	490 (18)	238 (23)	30 (850)	758 (891)	2,529 (24)	591 (23)	131 (857)	3,251 (904)	22	189
	10月	1,590 (0)	273 (0)	96 (12)	1,959 (12)	307 (122)	1,654 (7)	458(1,090)	2,419(1,219)	1,897 (122)	1,927 (7)	554(1,102)	4,378 (1,231)	21	267
	11月	2,382 (188)	296 (0)	142 (0)	2,820 (188)	320 (146)	717 (0)	802 (121)	1,839 (267)	2,702 (334)	1,013 (0)	944 (121)	4,659 (455)	17	301
	12月	1,870 (428)	295 (0)	123 (0)	2,288 (428)	244 (0)	448 (0)	467 (110)	1,159 (110)	2,114 (428)	743 (0)	590 (110)	3,447 (538)	16	249
13年	1月	1,811 (0)	180 (0)	104 (9)	2,095 (9)	224 (12)	159 (0)	0(1,882)	383(1,894)	2,035 (12)	339 (0)	104(1,891)	2,478 (1,903)	22	199
	2月	2,513 (6)	386 (2)	96 (65)	2,995 (73)	320 (100)	103 (6)	108(3,198)	531(3,304)	2,833 (106)	489 (8)	204(3,263)	3,526 (3,377)	23	300
	3月	3,153 (47)	438 (0)	309 (23)	3,900 (70)	468 (3)	1,060 (66)	255 (707)	1,783 (776)	3,621 (50)	1,498 (66)	564 (730)	5,683 (846)	26	251
合計		26,973(1,278)	3,635 (3)	3,322 (148)	33,930(1,429)	3,467 (595)	6,197 (127)	3,379(9,111)	13,043(9,833)	30,440(1,873)	9,832 (130)	6,701(9,259)	46,973 (11,262)	263	221
総計		28,251	3,638	3,470	35,359	4,062	6,324	12,490	22,876	32,313	9,962	15,960	58,235	263	221

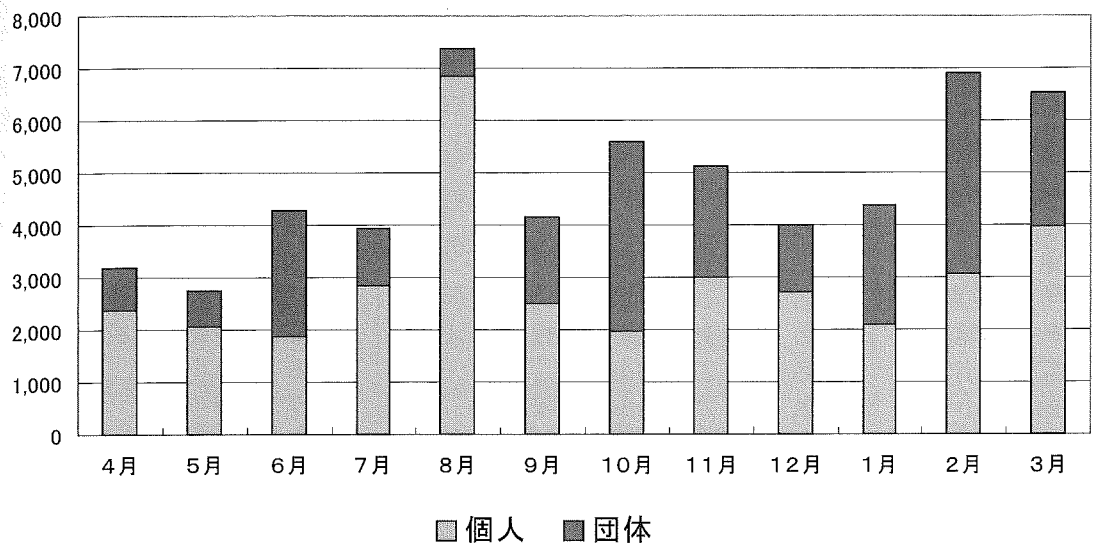
入館者曜日別集計

	個人入館者数				団体入館者数				合計				開館日数	一日平均入館者
	大人	高大生	小中生	合計	大人	高大生	小中生	合計	大人	高大生	小中生	合計		
	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)		
月	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
火	3,711 (191)	593 (0)	500 (0)	4,804 (191)	315 (19)	1,711 (25)	1,042(1,712)	3,068(1,756)	4,026 (210)	2,304 (25)	1,542(1,712)	7,872 (1,947)	42	234
水	3,917 (134)	654 (0)	382 (0)	4,953 (134)	615 (113)	1,326 (31)	157(1,742)	2,098(1,886)	4,532 (247)	1,980 (31)	539(1,742)	7,051 (2,020)	44	206
木	3,363 (91)	686 (0)	470 (0)	4,519 (91)	448 (263)	1,298 (7)	995(1,939)	2,741(2,209)	3,811 (354)	1,984 (7)	1,465(1,939)	7,260 (2,300)	42	228
金	4,055 (223)	555 (0)	408 (0)	5,018 (223)	609 (40)	1,277 (6)	696(2,665)	2,582(2,711)	4,664 (263)	1,832 (6)	1,104(2,665)	7,600 (2,934)	44	239
土	5,524 (272)	576 (3)	658 (148)	6,758 (423)	1,160 (55)	380 (58)	370 (822)	1,910 (935)	6,684 (327)	956 (61)	1,028 (970)	8,668 (1,358)	45	223
日	6,403 (367)	571 (0)	904 (0)	7,878 (367)	320 (105)	205 (0)	119 (231)	644 (336)	6,723 (472)	776 (0)	1,023 (231)	8,522 (703)	46	201
合計	26,973(1,278)	3,635 (3)	3,322 (148)	33,930(1,429)	3,467 (595)	6,197 (127)	3,379(9,111)	13,043(9,833)	30,440(1,873)	9,832 (130)	6,701(9,259)	46,973 (11,262)	263	221

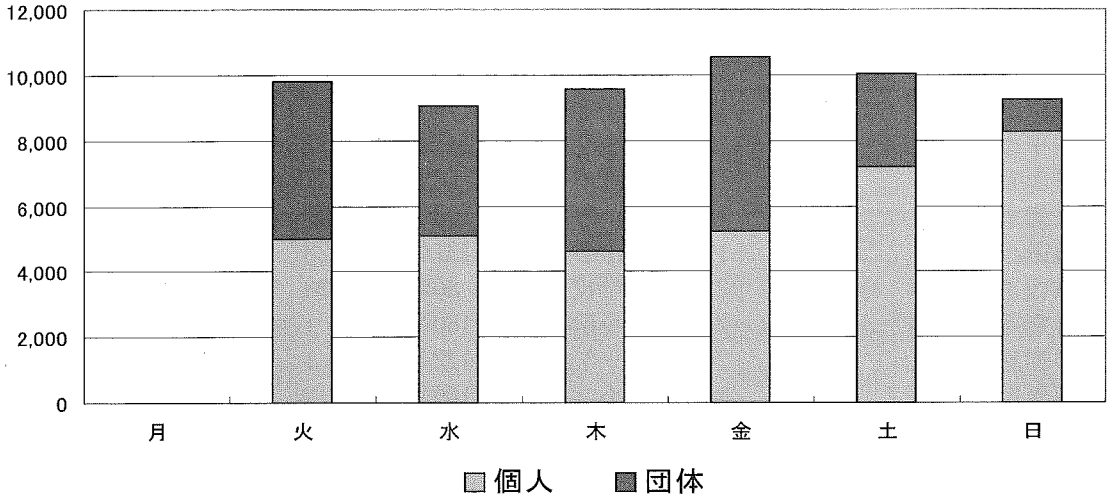
団体入館者数（有料）

	県内								県外								国外								合計	
	大人		高大生		小中生		小計		大人		高大生		小中生		小計		大人		高大生		小中生		小計			
年月	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
平成12年4月											1	29	2	317	3	346	2	45	1	25			3	70	6	416
5月	2	66	1	25	1	17	4	108	3	99			4	102	7	201									11	309
6月	1	26			2	57	3	83	2	83	8	1,623	1	237	11	1,943	1	80					1	80	15	2,106
7月	3	111	1	36	5	164	9	311	1	464		3	1	67	2	534		13	2	76	1	26	3	115	14	960
8月	3	76		1	7	233	10	310		13			2	35	2	48	1	18				4	1	22	13	380
9月	2	157					2	157	8	286	8	238	1	30	17	554	1	47					1	47	20	758
10月	1	42					1	42	4	198	12	1,654	5	458	21	2,310	2	67					2	67	24	2,419
11月	6	190	1	20	12	574	19	784	2	105	5	697	2	228	9	1,030	1	25					1	25	29	1,839
12月	2	109	3	267	5	449	10	825	3	118	2	144			5	262	2	52		2		18	2	72	17	1,159
平成13年1月									4	224	2	159			6	383									6	383
2月	2	50	1	34			3	84	11	270	1	69	1	108	13	447									16	531
3月	4	98			1	16	5	114	11	311	10	1,060	1	239	22	1,610	1	59					1	59	28	1,783
合計	26	925	7	383	33	1,510	66	2,818	49	2,171	49	5,676	20	1,821	118	9,668	11	406	3	103	1	48	15	557	199	13,043

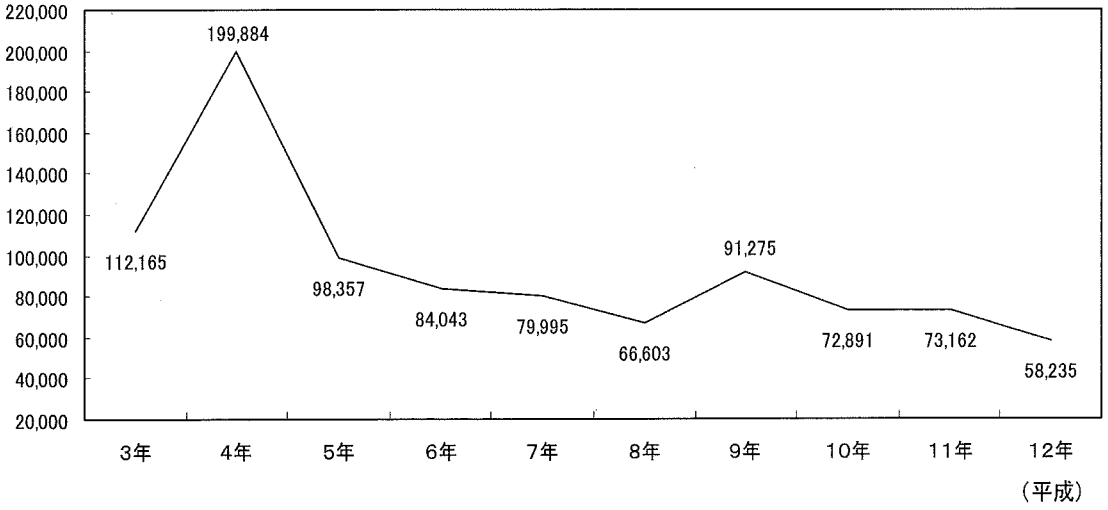
平成12年度月別入館者数



平成12年度曜日別入館者数



年間入館者数の年次推移(過去10年間)



2　県内外児童生徒学生団体見学者

（小学校）　9,604名

月	日	学校名		月	日	学校名		月	日	学校名	
4	14	松島小学校	140名	10	24	大山小学校	177名	2	9	沢岻小学校	103名
	28	光洋小学校	93名		24	仲里小学校	32名		9	宇栄原小学校	96名
	28	南風原小学校	110名		24	鶴川小学校	76名		13	光洋小学校	101名
5	9	城西小学校	145名		26	伊豆味小学校	11名		14	松島小学校	135名
	12	上田小学校	155名		26	金武小学校	91名		15	兼城小学校	94名
	16	亀徳小学校	24名	11	16	美崎小学校	30名		15	大名小学校	45名
6	3	平良市立東小学校	109名		16	清水小学校	43名		16	真和志小学校	118名
	6	砂川小学校	26名		19	城東小学校	176名		16	慶留間小学校	4名
	8	宜野座小学校	31名		21	泊小学校	41名		16	長嶺小学校	113名
	8	西原南小学校	69名		22	稲田小学校	28名		17	城南小学校	93名
	21	伊平屋小学校	22名		24	美東小学校	146名		17	城東小学校	93名
	21	久米島小学校	35名		24	大道小学校	20名		20	前島小学校	51名
	30	中城小学校	107名		28	内間小学校	109名		20	神森小学校	92名
7	1	名蔵小学校	17名	12	2	与那原小学校	88名		21	城岳小学校	105名
	12	城西小学校	31名		3	城東小学校	110名		21	坂田小学校	140名
	28	ベクトル小学校	37名		7	松田小学校	24名		22	北中城小学校	124名
9	14	大里南小学校	153名		8	羽地小学校	85名		22	小禄南小学校	135名
	14	佐敷小学校	75名	1	10	西原小学校	70名		22	中城小学校	105名
	20	内間小学校	91名		11	西原小学校	68名		23	屋我地小学校	19名
	22	馬天小学校	100名		12	金城小学校	200名		23	潮平小学校	140名
	28	松川小学校	120名		16	識名小学校	110名		23	沢岻小学校	109名
	29	川平小学校	14名		17	当山小学校	141名		27	屋部小学校	56名
	29	具志頭小学校	76名		18	西原南小学校	56名		27	さつき小学校	97名
	30	石嶺小学校	147名		18	神原小学校	116名		27	西原東小学校	99名
10	6	塩屋小学校	13名		19	古蔵小学校	137名		28	与儀小学校	109名
	6	城西小学校	117名		23	曙小学校	80名		28	安謝小学校	100名
	12	与那原東小学校	120名		24	高良小学校	160名	3	1	城北小学校	133名
	12	与那原小学校	92名		24	座安小学校	122名		1	天妃小学校	94名
	12	平敷屋小学校	66名		25	大道小学校	100名		2	若狭小学校	82名
	13	屋良小学校	55名		26	伊良波小学校	100名		2	開南小学校	68名
	13	新城小学校	36名		30	上間小学校	138名		3	泊小学校	144名
	14	天底小学校	39名		31	城西小学校	130名		3	真嘉比小学校	46名
	14	久辺小学校	42名	2	2	真壁小学校	44名		3	壺屋小学校	43名
	20	西小学校	36名		3	宮城小学校	135名		6	浦添小学校	35名
	20	上本部小学校	44名		6	垣花小学校	63名		7	小禄小学校	64名
	21	今帰仁小学校	64名		7	西崎小学校	136名		7	知念小学校	76名
	21	和光小学校	78名		7	仲井真小学校	113名				
	24	津嘉山小学校	10名		8	前田小学校	98名				

（中学校）　2,054名

月	日	学校名		月	日	学校名		月	日	学校名	
4	25	下関市立長府中学校	219名	9	8	大分市立植田東中学校	30名	11	21	清水ヶ丘中学校	111名
	28	阿東連合中学校	98名		16	首里中学校	37名		22	レスターミドルスクール	25名
5	9	東風平中学校	12名	10	3	倉岳中学校	43名		28	矢部中学校	135名
	12	御所市立葛中学校	35名		12	富山大学教育学部附属中学校	154名	12	5	高江洲中学校	134名
	18	深田村立深田中学校	20名		12	小国町立小国中学校	111名		8	東江中学校	147名
	19	安富町立安富中学校	23名		17	三和中学校	24名	3	24	玉陵中学校	108名
6	1	本渡市立本渡中学校	237名		20	普天間中学校	6名		8	成城中学校	225名
8	26	市川市立第一中学校	20名	11	17	兼城中学校	100名				

（高等学校）6,305名

月	日	学　校　名		月	日	学　校　名		月	日	学　校　名	
4	1	山陽女子高等学校	29名	10	13	埼玉県立狭山高等学校	206名	12	22	神奈川総合高等学校	35名
6	6	金沢伏見高等学校	157名		17	埼玉県立朝霞西高等学校	354名	1	31	鳥取西工業高等学校	139名
	9	開成高等学校	408名		17	清心女子高等学校	139名	2	2	諏訪実業高等学校	34名
	20	明法高等学校	147名		19	那須高等学校	165名		16	竹田南高等学校	68名
	21	春日部女子高等学校	358名		25	草加高等学校	319名	3	2	大阪産業大学付属高等学校	80名
	25	九州産業高等学校	144名		26	中津高等学校	22名		2	潤徳女史高等学校	116名
	27	九州産業高等学校	119名	11	15	日本大学明誠高等学校	326名		3	首里高等学校	35名
	27	真和志高等学校	25名		16	高田農業高等学校	206名		6	流通経済大学付属高等学校	29名
	28	九州産業高等学校	143名		18	三豊工業高等学校	124名		8	保善高等学校	125名
	29	九州産業高等学校	147名		21	木更津高等学校	41名		9	保善高等学校	158名
9	17	大社高等学校佐田分校	26名		30	川越工業高等学校	38名		13	愛知産業大三河高等学校	314名
	19	福島県立川口高等学校	42名	12	2	沖縄女子短大附属高等学校	44名		13	愛知産業大三河高等学校	489名
	26	安房農業高等学校	39名		7	西原高等学校	90名		17	同志社国際高等学校	28名
10	5	橘女子高等学校	74名		8	高崎工業高等学校	38名		21	知念高等学校	31名
	12	高知県立城山高等学校	55名		8	黒羽高等学校	133名		31	山陽女子高等学校	35名
	12	大宮市立大宮北高等学校	324名		19	神戸高等学校	107名				

（大学・専門学校）350名

月	日	学　校　名		月	日	学　校　名		月	日	学　校　名	
4	1	台湾師範大学	25名	9	2	追手門学院大学	25名	9	27	山口大学	20名
5	18	代々木アニメーション学院	25名		2	京都精華大学	22名	11	18	沖縄国際大学	21名
7	2	メリーランド大学	26名		5	津田塾大学	29名	1	16	京都造形芸術大学	20名
	13	沖縄国際大学	44名		16	沖縄県立芸術大学	23名				
	29	琉球大学	35名		27	愛地淑徳大学	35名				

（特殊学校・その他）779名

月	日	学　校　名		月	日	学　校　名		月	日	学　校　名	
4	27	ゆい保育園	12名	7	29	みやび学童クラブ	8名	8	29	いずみ児童クラブ	35名
5	9	石川県立ろう学校	9名	8	2	南風原保育園	11名		31	ＹＭＣＡ幼稚園	13名
	12	京都教育大付属養護学校	10名		3	高良学童クラブ	64名	9	22	大平養護学校	37名
	19	さつき幼児学園	28名		3	高良学童クラブ	64名	11	25	石川市中央区子供会	23名
	20	室川子ども会	20名		3	西区子供会育成会	55名	1	18	報恩幼稚園	23名
	31	泡瀬養護学校	14名		10	むーみん自然のこ（学童）	12名		25	ゆい保育園	14名
7	18	慈愛幼稚園	18名		16	海星学園学童組	60名	3	2	大名保育所	20名
	25	長田保育園学童保育所	36名		22	青空学童クラブ	47名		8	当蔵保育所	22名
	25	津嘉山学童	31名		23	ゆい保育園	13名		16	ＭＯＡ沖縄幼児学園	13名
	28	津嘉山幼稚園	22名		29	いしだ丘保育園学童	25名		28	北丘学童クラブ	20名

Ⅲ　調査研究等の活動

1　調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料収集、資料の整理保管、資料の展示、教育普及活動という５つの大きな柱によって構成されている。これらの各機能は互いに相関性をもって存在するものである。

当館における従来の調査研究には、統一テーマを設定して全学芸員が一地域を定めて調査研究に取り組む共同研究と、学芸員各自が専門分野について調査研究を目的とする個別研究がある。

共同研究は、各離島における総合調査を実施しており、自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築の各専門分野にわたっている。これまでに久米島総合調査（平成５年度・６年度に実施）を皮切りに、波照間島総合調査（平成８年度・９年度）を実施し報告書を刊行している。平成10年度からは西表島総合調査を３ヶ年計画で（平成10年度・11年度・12年度）実施した。

個別研究については、各学芸員が専門分野別に研究を進めているもので、平成11年度も多様な研究が行われた。研究成果については、平成12年度に刊行した『沖縄県立博物館紀要』第27号に研究論文・調査報告という形で掲載している。

また、『紀要』への掲載の他に専門的な学会誌や研究機関誌への発表も行っている。

以下、各学芸員が平成12年度に行った調査・研究活動の状況を調査研究、講演等、著作論文等別に報告する。

西表島総合調査（担当：与那城　義春）

１．博物館総合調査の趣旨

沖縄県は多数の島々から成り、各島には亜熱帯特有の自然・風土に関連する独自性の高い社会・文化が育まれている。これまでにも県内の離島調査は幾度か実施されており、島毎に調査報告書も作成されているが、各離島地域の自然、文化、社会に関する基礎的なデータ収集は未だ不充分なようである。

近年、沖縄県内の多くの島々で各種開発事業が活発化しており、そのために自然や地域社会を含めた環境等が激変の様相を呈しているようである。更に地域住民の生活や伝統行事等の文化的側面も改変されそうな状況であり、特に離島地域では自然、文化、社会等に関する貴重な諸資料等も含めて殆ど消失する可能性がある。

本事業は県内の離島毎の自然、文化、社会について各分野から可能な限り調査研究を実施し、その成果をまとめて総合調査報告書を刊行するほか、各分野の資料を当館の展示等に活用する事で離島の実態を多くの県民に正しく理解させるとともに保護管理の促進を図り、各地域の活性化を目指している。また、離島の各地域で自然、文化、社会等に関する理解を深めつつ、各島内における独自性や伝統行事等の維持・継承の促進と今後の充実・発展を目的としている。

２．西表島総合調査の選定理由

これまでの西表島調査は自然(野生生物相、地質・地形等)、文化、社会等に関して実施、報告されている。しかし、西表島の面積は本県内で沖縄本島に次いで二番目に広大なため、各分野の基礎的なデータは未だ不充分のようである。目下、県内の各種開発事業が各地で活発化しているために楽観できない状況であり、総合調査の必要性と緊急性を痛感させられている。従って、今回の西表島総合調査は島内各地に現存する貴重な資料収集等を主目的に選定されたのである。

３．調査方法

当館の総合調査は自然、考古、歴史、民俗、美術工芸の5分野であり、分野毎に調査地域や対象が異なっているために各担当者で事前に検討するが、具体的な調査方法は各調査員に一任されている。現地調査は分野毎に各自の業務を調整して調査日程(2泊3日)を確保し、年度内に調査研究を実施している。

なお、事前に現地の教育委員会等の関係各機関に当館から総合調査の協力依頼文書を送付し、

調査期間中に各分野の全調査員が島内の各地で絶えず容易に調査できるようにしている。

4．総合調査の成果

西表島総合調査は、平成10年度から平成11年度までの2年間を現地で実施し、平成12年度には調査員の研究分野である自然、考古、歴史、民俗、美術工芸の収集資料等に基づいて報告書が作成されている。2年間の調査成果として西表島総合調査報告書に掲載されている各調査員の調査研究テーマは下記の通りである。

総　論

西表島総合調査にあたって……石垣　金星（西表をほりおこす会）

自　然

西表島の地形と地質－露頭の紹介を中心として…神谷　厚昭（沖縄県立博物館 指導主事）

西表島の鳥類調査……与那城義春（沖縄県立博物館 指導主事）

西表島・鳩間島及び新城島における動植物の方言名について

……石垣　金星（西表をほりおこす会）

嵩原　建二（沖縄県立博物館指導主事）・他

考　古

西表島の遺跡……大城　　慧（沖縄県立博物館 学芸課長）

歴　史

船浮湾の戦争遺跡……大城　将保（沖縄県立博物館 前館長）

西表島癩村設置構想……前田　真之（沖縄県立博物館 教育普及課長）

西表島における戦後宿泊施設の概略史……園原　　謙（沖縄県立博物館 主任）

民　俗

西表島祖納・星立の節祭（シィティ）……當間　一郎（沖縄県立博物館 元館長）

西表島におけるカキィ（魚垣）について……仲底　善章（沖縄県立博物館 指導主事）

美術工芸

戦前期(大正期～昭和初期)における西表島の織物

……與那嶺一子（沖縄県立博物館 主任学芸員）

節祭の衣装考……伊波　悦子（沖縄県立博物館 指導主事）

西表島のパナリ焼……瑞慶山　昇（沖縄県立博物館 指導主事）

2　調査研究

與那嶺　一　子（主任学芸員）

○サミット特別展借用資料調査
　期　間：2000年４月25日～27日
　調査地：東京都（東京国立博物館）

○尚家関係資料総合調査事業・東京資料の予備調査
　期　間：2000年７月26日～28日
　調査地：東京都
　依頼機関：那覇市

○経浮花織（知花花織）調査
　期　間：2000年12月27日
　調査地：沖縄市

○無形文化財（工芸技術）「読谷花織」「知花花織」調査
　期　間：2001年３月14日・15日・30日
　調査地：読谷村・沖縄市
　依頼機関：文化庁文化財部伝統文化課

与那城　義　春（充指導主事）

○沖縄総合事務局北部ダム事務所「ノグチゲラ専門部会」委員
　期　間：2000年7月18日～2001年3月31日
　依頼機関：沖縄建設弘済会

○「西原の自然」専門部会委員
　期　間：1999年8月26日～2002年3月31日
　依頼機関：西原町教育委員会

○「西原の文化財保護審議会」委員
　期　間：2000年4月1日～2002年3月31日
　依頼機関：西原町教育委員会

○「斎場御嶽の生物(鳥類)調査」委員
　期　間：1999年12月1日～2002年3月31日
　依頼機関：知念村教育委員会

○「沖縄市史・自然(鳥類)調査」専門委員
　期　間：2000年11月27日～2003年3月31日
　依頼機関：沖縄市史編集委員会

○沖縄県文化環境部自然保護課「沖縄県版RDB検討委員会」委員
　期　間：1995年6月14日～2001年3月31日
　依頼機関：(株)イーエーシー(E A C)

神　谷　厚　昭（指導主事）

○古宇利島及び今帰仁村地域の露頭調査
　期　日：2000年12月17日
　依頼機関：沖縄県高等学校地学教育研究会

○化石資料の現地調査
　本　島：2000年12月12日～13日
　久米島：2001年２月13日～14日
　伊江島：2001年３月７日～８日
　宮古島：2001年３月13日～14日

○沖縄市市史編集「自然」の調査
　期　　日：2001年３月３日
　依頼機関：沖縄市

津波古　　聰（充指導主事）

○尚家遺産関係資料調査
　期　　間：2000年７月25日～28日
　　2000年10月11日～13日
　場　　所：東京
　依頼機関：那覇市歴史資料室

○沖縄の陶器類関係資料調査
　期　　間：2000年９月22日
　場　　所：具志川市、沖縄市
　依頼機関：沖縄県教育委員会

○琉球絵画の調査
　期　　間：2001年３月14日～16日
　場　　所：東京国立博物館
　依頼機関：東京国立博物館

嵩　原　建　二（充指導主事）

○名護市動植物総合調査
　期　間：2000年4月1日～2001年3月31日
　依頼機関：名護市教育委員会
　調査地：名護市一円

○名護市屋部区字史編集委員
　期　間：2000年4月1日～2001年３月31日
　依頼機関：名護市屋部区
　調査地：名護市屋部一円

○亜熱帯林における希少野生生物とその生息環境維持機構に関する調査研究（環境庁委託）
　期　間：2000年4月1日～2001年３月31日
　依頼機関：（財）自然環境研究センター
　場　所：沖縄島北部国頭村

○ノグチゲラ保護増殖事業調査研究ワーキンググループ委員
　期　間：2000年7月14日～2001年3月31日
　依頼機関：環境庁沖縄地区国立公園管理事務所
　場　所：沖縄島北部

○ノグチゲラ調査検討専門部会委員
　期　間：2000年7月18日～2001年3月31日
　依頼機関：(財)沖縄建設弘済会（北部ダム事務所委託）

伊　波　悦　子（充指導主事）
○アイヌ染織調査
期　間：2000年６月22日～24日
調査地：北海道静内、白老
○アイヌ染織調査
期　間：2000年９月22日～25日
調査地：北海道静内、白老
○台湾民族衣装調査
期　間：2000年10月５日～10日
調査地：台湾台東、蘭嶼島、高雄
○インド藍調査
期　間：2001年３月８日～10日
調査地：石垣市・小浜島

3　講演等

園　原　　謙（主　任）
○市町村新採用職員研修
期　間：2000年６月15日
2000年８月31日
依頼機関：沖縄県自治研修所

神　谷　厚　昭（指導主事）
○ボランティア養成講座
期　日：2000年６月14日
○シルバーガイド講座「沖縄の自然」
期　日：2000年７月４日（北谷町）
2000年９月19日（浦添市）
2000年11月29日（糸満市）
依頼機関：観光人材開発協会
○第40回児童・生徒科学作品展審査
期　日：2000年10月20日
依頼機関：沖縄県理科教育協会
○粟国村ふるさと資料館の展示指導
期　日：2000年８月15日～17日
依頼機関：粟国村教育委員会
○市民大学講座「琉球列島のおいたち」
期　日：2000年10月26日～11月19日
第１回：沖縄の島じまの成り立ち
第２回：サンゴ礁と人との関わり
第３回：ハブのいる島いない島
第４回：ウチナーンチュはどこから
第５回：野外巡検
依頼機関：沖縄市中央公民館
○遺跡出土の石器の石質鑑定
期　日：2000年12月22日
2001年１月19日
2001年２月７日
依頼機関：沖縄県埋蔵文化財センター
○第23回沖縄青少年化学作品展審査
期　日：2001年２月２日
依頼機関：沖縄県教育委員会・沖縄電力
○沖縄地学会での報告：
「沖縄県高等学校地学教育の現状」
期　日：2001年２月11日
場　所：琉球大学
○大堂原貝塚発掘調査の指導助言
期　日：2001年２月15日
依頼機関：名護市教育委員会
○親子自然観察会
期　日：2001年３月10日
依頼機関：粟国村教育委員会

与那城　義　春（充指導主事）
○平成12年度愛鳥週間の「野鳥講演会」
期　日：2000年５月10日
場　所：豊見城村立とよみ小学校
依頼機関：沖縄県文化環境部自然保護課
○平成12年度「自然環境学特殊講義」臨任講師
期　日：2000年10月１日～12月20日
場　所：琉球大学
依頼機関：琉球大学教育学部
○第40回 沖縄県児童・生徒科学作品展の審査員
期　日：2000年10月20日
場　所：嘉手納町中央公民館
依頼機関：沖縄県理科教育協会
○第23回 沖縄県青少年科学作品展審査員
期　日：2001年２月２日
場　所：(株)沖縄電力
依頼機関：沖縄県教育委員会
○第８回 楽しい自然教室(野鳥観察)
期　日：2001年２月24日
場　所：沖縄市比屋根湿地
依頼機関：沖縄県立教育センター

嵩　原　建　二（充指導主事）
○主催事業に伴う自然観察会
期　日：2000年５月28日
依頼機関：沖縄県立名護青年の家
場　所：名護岳周辺
○職員研修に伴う自然観察会
期　日：2000年８月21日
依頼機関：沖縄県立名護養護学校

場　　所：国頭村・大宜味村
○環境教育に関わる野鳥観察会
期　　日：2001年３月７日
依頼機関：具志川村立大岳小学校
場　　所：具志川村・仲里村

太　田　健　一
平成12年度那覇市立壷屋焼物博物館
第5回焼物文化講座「暮らしの中の陶器」
期　　日：2001年２月10日
依頼機関：那覇市立壷屋焼物博物館
場　　所：那覇市立壷屋焼物博物館

前　田　真　之（教育普及課長）
○「博物館をめぐるアメリカの動向－来館者主権の実際」
期　　日：2000年７月５日
依頼機関：県立博物館
○「総合的な学習における博物館の活用」
期　　日：2000年８月21日
依頼機関：首里中学校

伊　波　悦　子（充指導主事）
○講演「博物館ってどんなところ」
期　　日：2000年６月７日
依頼機関：県立博物館
備　　考：県立博物館講堂
○講演「博物館のボランティアの役割」
期　　日：2000年６月10日
依頼機関：那覇市立壺屋博物館
備　　考：那覇市立壺屋博物館講堂

○講演「絣の源流を求めて」
期　　日：2000年６月21日
依頼機関：県立博物館
備　　考：県立博物館講堂
○講演「沖縄の魅力ある観光資源」
期　　日：2000年７月11日
依頼機関：観光人材開発協会
備　　考：ポリテクセンター
○講演「沖縄の魅力ある観光資源」
期　　日：2000年９月８日
依頼機関：観光人材開発協会
備　　考：浦添ハーモニーセンター
○講演「沖縄の魅力ある観光資源」
期　　日：2000年12月５日
依頼機関：観光人材開発協会
備　　考：糸満青年の家
○講演「博物館ボランティア」について
期　　日：2001年３月３日
依頼機関：宜野座中学校ＰＴＡ
備　　考：県立博物館講堂

4　著作論文等

大　城　　慧（学芸課長）
○「西表島の遺跡」『西表総合調査報告書』2001年３月

與那嶺　一　子（主任学芸員）
○「県博の染織資料－経浮花織－」（共著）『沖縄県立博物館紀要第27号』　2001年３月
○「戦前期（大正～昭和初期）における西表島の織物（聞き書き）」『西表島総合調査報告書』2001年３月

園　原　　謙（主　任）
○「『ウルマ（うるま）新報』にみる戦後文化財保護胎動期の記事について」『沖縄県立博物館紀要第27号』2001年３月
○「戦後西表島における宿泊施設の概略史」『西表島総合調査報告書』2001年３月

神　谷　厚　昭（指導主事）
○「東村の地形と地質について」、『地学教育研究会誌23号』2000年5月
○「屋我地島の地形と地質」、『沖縄県立博物館紀要第27号』2001年3月
○「西表島の地形と地質－露頭の紹介を中心として－」『西表島総合調査報告書』2001年 3月

与那城　義春（充指導主事）
○「硫黄鳥島総合学術調査－鳥類（共著）－」『沖縄県史資料編』（財）沖縄県文化振興会公文書館管理部史料編集室 2000年４月
○「西表島の鳥類調査」『西表島総合調査報告書』2000年３月

嵩　原　建　二（充指導主事）
○「名護市屋我地島の鳥類について」企画展「屋我地島展」図録.名護博物館　2000年10月
○「南大東島の鳥類の保全について」（共著）『南大東島の保全』沖縄大学地域研究所報.
○「沖縄の繊維・染料植物」（共著）企画展「沖縄の繊維・染料植物展」図録　沖縄県立博物館　2001年２月
○「読谷村伊良皆サシジャーガーのトンボ類(予報)」『読谷村歴史民俗資料館紀要第25号』読谷村立歴史民俗資料館　2001年３月
○「沖縄島中南部で繁殖したツミとリュウキュウサンショウクイの２種について」『沖縄県立博物館紀要第27号』沖縄県立博物館　2001年３月
○「南大東島産鳥類目録」（共著）『沖縄県立博物館紀要第27号』沖縄県立博物館　2001年３月
○「西表島及び周辺離島の動植物方言名について」（共著）『西表島総合調査報告書』沖縄県立博物館　2001年３月
○「久米島で最近記録された鳥類について」（共著）『久米島自然文化センター紀要創刊号』　2001年３月
○「那覇市天久新都心地域の鳥類」『沖縄大学地域研究年報』沖縄大学　2001年３月

○学会発表（共同研究）
「ノグチゲラの保全生態」日本鳥学会2000年度大会（札幌）　2000年９月

前　田　真　之（教育普及課長）
○「沖縄県福祉のまちづくり条例と博物館」『沖縄県立博物館紀要第２７号』　2001年３月
○「西表島癩村設置構想 」『西表島総合調査報告書』　2001年３月

伊　波　悦　子（充指導主事）
○「節祭の衣装考」『西表島総合調査報告書』　2001年３月

瑞慶山　　昇（充指導主事）
○「西表島のパナリ焼」『西表島総合調査報告書』　2001年３月

仲　底　善　章（指導主事）
○「西表島におけるカキィ(魚垣)について」『西表島総合調査報告書』2001年３月

5　職員研修

博物館の学芸員は、「博物館資料の収集、保管、展示、及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」（博物館法　第４条４）こととなっていて、学問の専門性が要求されている。そのため学芸員一人びとりがこれらに必要な最先端の知識と技術を習得し、生涯学習時代における新しい博物館の展望を持つことが求められている。この目的を達成するために職員研修を実施している。

平成12年度は、文部省・国立教育会館社会教育研修所が主催する学芸員資格取得のための博物館職員講習や文化庁（文化財部美術学芸課）が主催する第３回美術刀剣類取扱講習会（赤羽刀）を受講した。

(1)　平成12年度博物館職員講習　太田健一

平成12・13年度に行われる博物館職員講習は、博物館等に勤務する職員を対象に学芸員の資格取得を目的として行われている。講習期間は修了に要する全科目を２ヶ年間にわたり実施し、平成12年度はこのうち「博物館学」の６単位分が実施された。講習参加者は23名（自然科学系12名、人文科学系11名）で、前年度からの受講者５名、本年度受講者は18名であった。期間は平成12年６月19日(月)～７月12日(火)までの日程で行われた。研修の内容は以下の通りであった。

平成12年度博物館職員講習の研修内容

６月19日(月)「開講式」／「生涯学習・社会教育の基礎」中垣英明

20日（火）「博物館と博物館学」加藤有次／「地域博物館論」金山喜昭
21日（水）「我が国の博物館史」大塚和義／「海外の博物館史」新井重三
22日（木）「人文系博物館の現状」里見親幸／「自然系博物館の現状」吉武弘喜
23日（金）「博物館倫理」中川志郎／「博物館関係法規」佐々木亨
26日（月）「博物館と地域社会」濱田隆士／「博物館とボランティア」石川　昇
27日（火）テスト「博物館概論」／「博物館の行財政制度」中根孝司
28日（水）「博物館における情報の意義」西野嘉章／「博物館の職員及び施設・設備」高安礼士
29日（木）「博物館における教育普及活動の意義」奥岡茂雄・小川　聖・岩渕成紀
30日（金）「博物館における情報提供と活用の方法」戸田　孝／「ミュージアム・マネージメント」大堀　哲
7月3日（月）「博物館における情報提供と活用の方法（現地研修）」株式会社玄翁堂・株式会社ココロ
4日（火）「博物館における情報機器」高橋信裕／テスト「博物館経営論・博物館情報論」
5日（水）「博物館資料の収集」倉田公裕
6日（木）「自然系展示の実際（現地研修）」山下浩之・今永　勇
7日（金）「人文系展示の実際（現地研修）」武田　厚・三ッ山一志
10日（月）「資料の整理・保管（現地研修）」青木　豊
11日（火）「博物館資料に関する調査研究活動の意義と方法」矢島國雄
12日（水）テスト「博物館資料論」／「閉講式」

県立博物館に学校現場から異動してきて、6年目にして博物館学を学ぶことができた。県立博物館での仕事は諸先輩方から実践を習ってきたが、今回、学問的に理論を集中して学ぶ機会を得たことは私のこれからの実践に役立つだろう。

講義ばかりではなく、パネルディスカッション、ワークショップ、現地研修とメリハリのあるプログラムであったため、24日間の講習期間は充実して過ごすことができた。現地研修では、東京在の模型やレプリカ等の製作会社である株式会社玄翁堂、株式会社ココロ、神奈川県立生命の星・地球博物館、横浜美術館、國學院大學の実践をみることができた。

今回の講習で、学芸員は理論と実践を兼ね備える必要があることを、改めて認識させられた。

(2) 第3回美術刀剣取扱講習会　園原　謙

接収刀剣類（いわゆる「赤羽刀」）の活用を推進するため、美術刀剣類の保管、手入れ、展示等についての講習会に参加した。当館は平成11年度に30口の赤羽刀を文化庁より譲渡いただいた。期間は平成13年2月27日（火）～28日（水）。会場は福岡市博物館で開催された。1日目は、赤羽刀の歴史、日本刀の制作工程や研磨技術、日本刀の取扱いと保管方法、2日目は手入れの実技を行った。

Ⅳ 展示活動

1 展示活動の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料の収集、資料の整理保管、教育普及活動という４つの大きな柱によって構成されている。展示活動については、学芸業務の所掌事務として学芸課がその任にあたり、常設展を基本にして特別展を年に１回程度、企画展を１、２回程度実施しているところである。

特別展と企画展の実施にあたっては、専用の特別展示室と企画展示室が確保されていないため展示企画に合わせて第１展示室の歴史展示室や第３展示室の美術工芸展示室や企画展示室を利用している。その度毎にそれぞれの展示物を撤収し展示スペースを確保している状況である。そのために「沖縄の自然・歴史・文化」をテーマとした常設展が観覧できない等、来館者からの要望期待に応えられない状況となっている。特に本土からの修学旅行の中に沖縄の歴史を学ぶ機会として当館を訪れることが多いが修学旅行期間中常設展が見られず苦情を受けることもある。

今後、特別展示室や企画展示室を設置していくことが、急務の課題となっている。

平成12年度は、「沖縄の自然・歴史・文化」をメインテーマとした常設展示を中心に、九州・沖縄サミット開催を記念した特別展「大琉球展―シマ・島・海」、またハワイ移民百周年を記念した特別展「日系移民１世紀―From Bento tō Mixed Plate」、企画展として「新収蔵品展」、「沖縄の繊維・染料植物展」、「工芸王国展―人・技・心」を開催した。

以下、平成12年度の展示活動について具体的に述べる。

2 常設展

環太平洋の西側を縁取り、亜熱帯気候の中にある沖縄県は、東西南北の文化が交差する特色ある地域として我が国の中でも個性豊かな文化を造りあげてきた。その歴史は、琉球王国を誕生させ日本や中国を中心とするアジア諸国と盛んに交易を行って海洋国家として興隆したという歴史的経緯を有している。

当館はこうした特色のある歴史と文化に関する資料を収集して整理・保管しながら調査・研究を行い、その成果を展示する総合博物館である。よくいわれることだが、沖縄の素顔はいくつかの特徴をもっているとされている。常設展示のメインテーマは「沖縄の歴史と文化」であるが、この常設展示を一巡することで沖縄の素顔がよく理解できるように工夫されているのが展示内容の大きな特徴になっている。

展示室は、１階の第１室と第２室、２階の企画展示室と第３室、さらに中３階の第４室がある。

第１室が考古・歴史で、ここでは琉球列島の形成から日本復帰まで、沖縄の歴史と文化について、小テーマごとに短い時間でも理解できるよう展示してある。たとえば、港川人に代表される沖縄の初期人類、九州縄文文化の南下や独自の展開を見せる新石器時代の文化、そして沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山先史時代の姿など。12世紀から13世紀になると按司と呼ばれる在地の小領主が出現しグスク時代が始まる。各グスクから出土した遺物が展示されている。ここまでが考古資料の展示となっている。

次のコーナーでは、琉球王国が誕生する様相が紹介されている。15世紀前半には沖縄本島南部を拠点として琉球王国が誕生する。琉球は「大交易時代」の国際交流によって国家の興隆期を迎えるが、17世紀の初頭には島津氏の侵攻をうけその支配下にはいり、やがて幕藩体制下に組み込まれていく。続いて幕末の開国の動き、琉球処分、明治・大正・昭和を経て、沖縄戦から戦後の米軍統治時代にいたるまでのユニークな沖縄歴史の諸相が展開されている。

第２室の自然史の展示は、沖縄の島々が約２億年以上の時間をかけて出来上がったことを教えてくれるアンモナイトやハロビア、あるいは絶滅して今では見られないリュウキュウシカやリュウキュウムカシキョンなどの化石から始まって、亜熱帯地域に広がる沖縄の自然についてテーマごとに展示してある。左側から順に見て回ると、海岸の生きもの、珊瑚礁の生きもの、河口の生きもの、マングローブの生きもの、湿地や沼の生きもの、山地森林に住む生きもの、源流の生きものと続く。また、沖縄のハブについても分類して展示してある。特に大自然の宝庫といわれる沖縄本島北部（ヤンバル）と西表島に生息する国・県指定の天然記念物については特設コーナーを設けて展示してある。

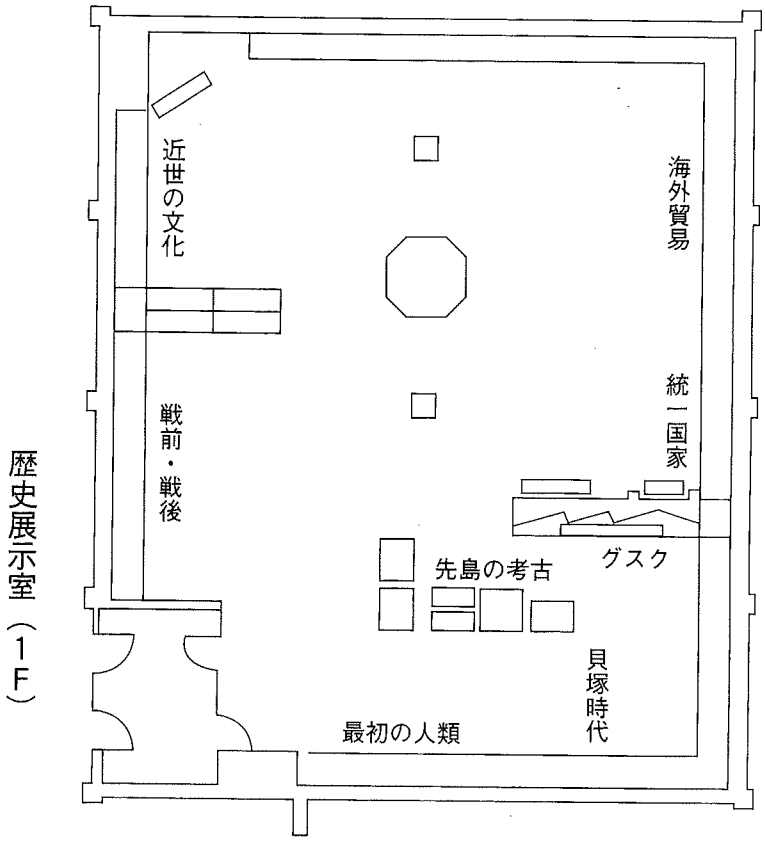
自然室を出ると２階に至るスロープがあり、スロープ右壁上部には那覇大綱挽時の首里代表旗「瑞雲」が展示されている。スロープの側壁には大正12年に撮影された貴重な沖縄の風物や風景の写真パネルが展示されており、写真を見ながら企画展示室に導かれる。
この展示室は、通常「大嶺薫コレクション」が展示されている。また、その一角を利用して沖縄の染織のルーツともいわれる「東南アジアの染織」も展示してある。毎年、企画展として行う新収蔵品展に使われている。

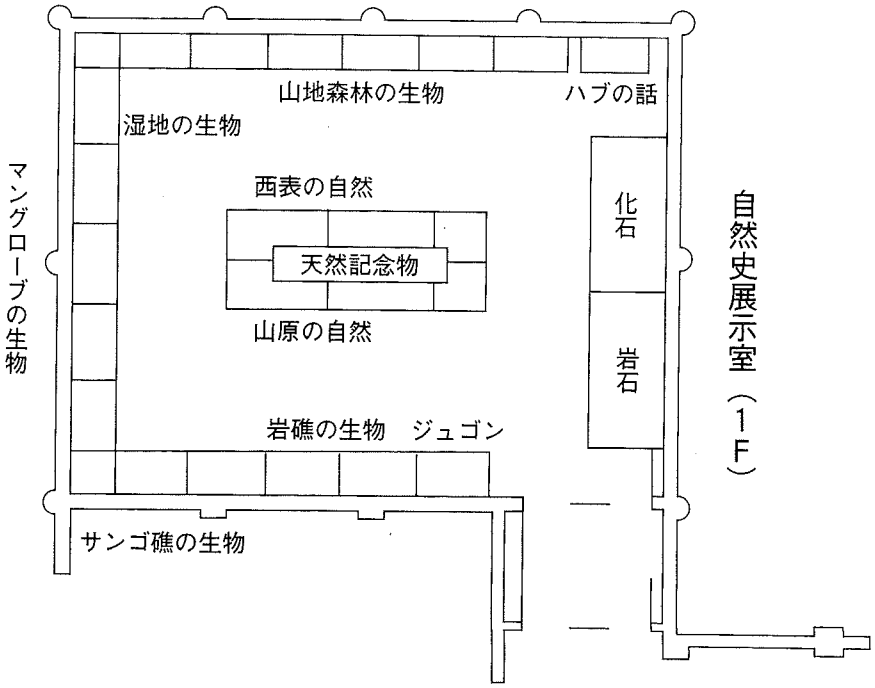
第３室美術工芸の展示室には、日本や中国をはじめとする東南アジア諸国との交渉を背景にして生まれた絵画、書跡、染織、漆器などが展示されている。中国との関係をうかがわせる絵画や書跡、独特な技術や意匠を表現した染織、螺鈿・沈金・堆錦等の高度な技法をみせる琉球漆器、そして壷屋を中心として発展してきた琉球陶器など、亜熱帯の風土と海外文化交流で生み出された美術工芸品は、沖縄の個性的な芸術世界を表現している。

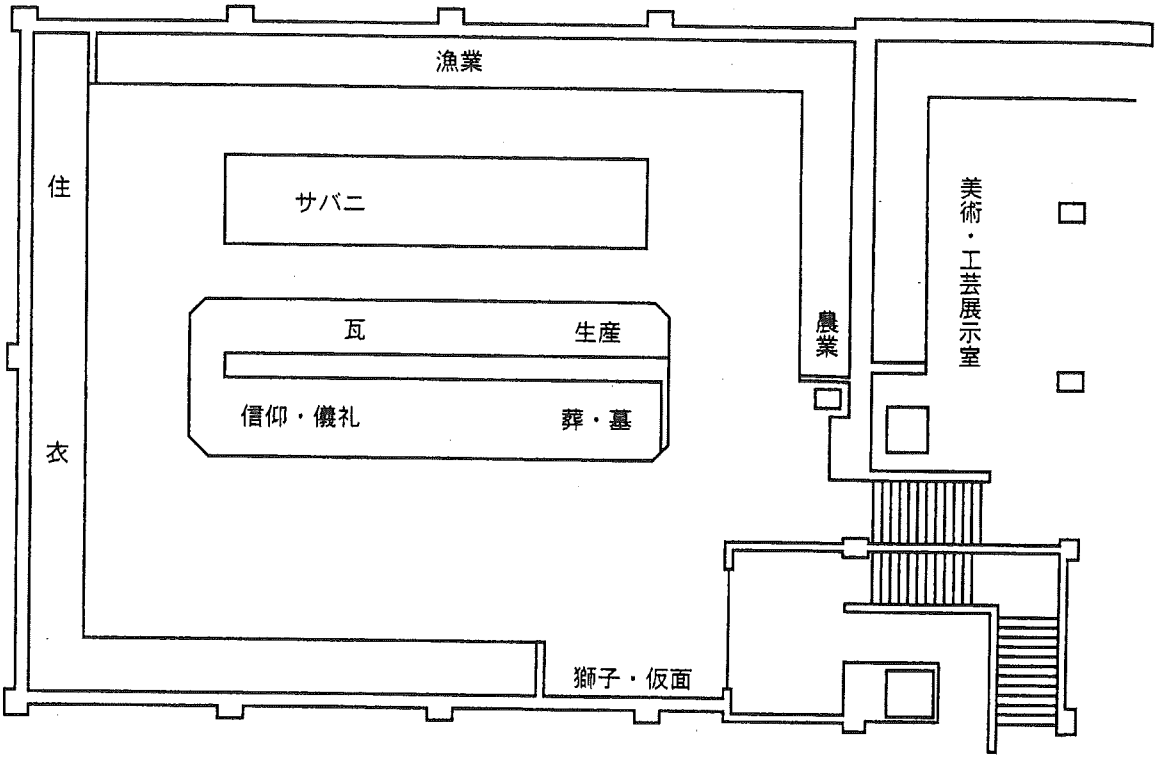
第４室の民俗展示室には、琉球列島の民俗資料を、農業・漁業・衣食住・芸能など、テーマごとに整理・分類して展示してある。また、庶民の生活用具である民具を通して、昔の人々が工夫して築いてきた沖縄の生活文化の特色を知る資料も展示してある。なかでも、他府県では見られない沖縄独特の生活習俗や信仰・墓制などが紹介展示されているのはこの室の特徴ある展示の一つになっている。

ところで、当博物館の敷地は、もともと琉球国王世子の屋敷跡であり中城御殿と呼ばれていたところである。相方積みという琉球石灰岩の独特な工法で築かれた石ショウは、前方の龍潭や首里城の眺めと調和して往時の古都をしのばせる歴史的景観を呈している。館のロビーに入ると、首里城正殿の模型を中心に、戦災でその一部しか残らなかった首里城正殿前の大龍柱の頭、)、「徳高」・「徳聲」などの扁額によって琉球王国のイメージを象徴的に展示してある。

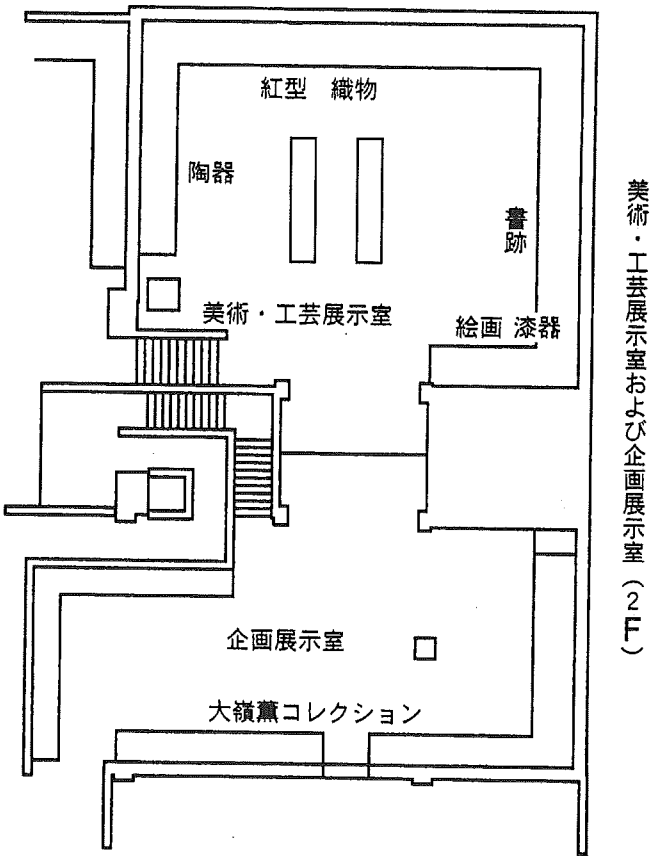
また、野外展示の一環にもなっている前庭に目を転じてみると、旧円覚寺楼鐘（重文）や沖永良部から移築された高倉をはじめ、亜熱帯の樹木の下や芝生の中にひっそりと立っている石灯篭や石敢當とともに石獅子、壷屋の窯で焼かれた獅子頭などが展示されており、館を訪れる人々へ館の内外から沖縄の歴史・文化を紹介している。


歴史展示室（1F）
近世の文化
海外貿易
戦前・戦後
統一国家
グスク
先島の考古
貝塚時代
最初の人類


自然史展示室（1F）
山地森林の生物
ハブの話
湿地の生物
マングローブの生物
西表の自然
天然記念物
山原の自然
化石
岩石
岩礁の生物
ジュゴン
サンゴ礁の生物



民俗展示室（2F）



美術・工芸展示室および企画展示室（2F）

3　特別展

サミット開催記念特別展

「大琉球―シマ・島・海―展」（担当：大城　慧、園原　謙、津波古　聰、與那嶺 一子
太田健一、神谷厚昭、嵩原建二）

会　期：平成12年７月11日（火）～平成12年８月27日（日）

※休館日：毎月曜日及び「海の日」（実質30日間開館）

会　場：沖縄県立博物館（第一展示室、第二展示室、第三展示室、第四展示室、企画展示室）

予算額：25,110千円

【趣　　旨】

琉球列島は日本列島の南端に位置し、アジア大陸の東側を縁取り、東洋のガラパゴスともいわれる独特な自然に恵まれている。「海」に囲まれ点在する琉球の「島」は、その地理的条件により古くから東アジアと東南アジアを結ぶ海上交通の要衝であった。

「シマ」は、独自の歴史をあゆみ、海を媒体とした海外貿易の拠点として琉球王国が形成され繁栄してきた。日本本土をはじめ、中国やアジア各国との交流の中で導入された優れた文化・文物は、「シマ」の歴史の中で育まれ特色あるものへとつくりあげられてきた。

この展覧会では、「海」と「島」の豊かな自然の過去と今、また「海」を介し育まれた「シマ」の人々の歴史と生活、「シマ」に息づく琉球文化の精華を紹介しながら、独自の歴史と文化を創造してきた琉球の民のあゆみを見つめるものである。

特に本年は九州・沖縄サミットの開催に当たり、沖縄を訪れる多くのサミット関係者が本展覧をとおして琉球の自然と歴史、文化に触れ、琉球の心に接する機会となるとともに、新たな交流と文化創造の契機とする。

【開催形式】

主催：沖縄県立博物館

共催：那覇市・沖縄タイムス社

後援：琉球放送、琉球朝日放送、沖縄テレビ、沖縄ケーブルネットワーク、ラジオ沖縄、FM沖縄、ＮＨＫ沖縄放送局、沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄県サミット推進県民会議

協力：東京国立博物館

【展示内容】

「シマ・島・海」のテーマに沿い、県立博物館の全展示室を琉球の独自の自然、人々の歴史と生活、琉球文化の精華を柱に構成し展開した。

①琉球の歴史

琉球列島の形成から原始・古代・古琉球の様相、さらに琉球王国の成立、海外貿易の様相、日本との関係、近世の琉球、近現代までを展示した。また、世界遺産に登録された沖縄のグスクについても写真パネル等で展示紹介した。

②琉球の自然

亜熱帯地域に広がる琉球の自然を紹介した。東洋のガラパゴスともいわれる独特な生物の標本を展示するとともに、化石・岩石などについても紹介した。

③シマに生きる民俗

琉球列島の民俗資料を農業・漁業・衣食住などに分けて展示した。先人たちの知恵と技術

が残された庶民の生活道具である民具を通して琉球の生活文化の特色を展示紹介した。

④琉球のかたちと色

1）王国時代のかたちと色

琉球王国時代の工芸品を通して、琉球文化の精華をアピールするとともに、往時の人々がかたちと色をどのように見て、感じ、そして育んできたかを検証した。

2）現代のかたちと色

王国時代に造り上げられたかたちと色は、現代にどのように受け継がれているか、匠ー人間国宝ーの技を通して紹介した。

【関連催事】

文化講演会

① 第１回講演会「アジアの中の琉球」

講　師：高良倉吉（琉球大学法文学部教授）

日　時：平成12年７月29日（土）　午後２時～午後４時

場　所：県立博物館講堂

入場料：無料

入場者：１２０人

内　容：各島々を支配下に治めていた琉球王府の行政手法を解説し、アジアとの華々しい交流だけに目を奪われずに、王府内部で何が行われていたかを見ることが大切であると指摘したうえで、系図を持たない慶良間の人々の交易、自発的に中国を学ぶ人々がいたことを紹介し、沖縄がアジアの架け橋となるためには、いかにして人材や組織を築き上げていくかが重要であるとした。

② 第２回講演会「海外所在の琉球の染織について」

講　師：祝嶺恭子（沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会会長）

日　時：平成12年８月12日（土）　午後２時～午後４時

場　所：県立博物館講堂

入場料：無料

入場者：８０人

内　容：ヨーロッパにおける沖縄関係染織品の調査結果を踏まえ、調査の目的や調査方法、石化の分析等について紹介した。また、博物館等の施設における現状等を紹介しながら、海外における沖縄関係資料の調査結果をデータベースとしてまとめることや、復元の資料とすることの重要性を紹介した。

【入館料金】

使　用　者	入　館　料
一　　般	５００円
大学生及び高校生	２００円
中学生及び小学生	１００円
団体（20人以上）	一人につきそれぞれ上記入館料の２割引

ハワイ移民百周年記念特別展

「日系移民１世紀展―From Bentō to Mixed Plate」

（担当：園原　謙、太田健一、仲底善章、上江田常実）

会　期：平成12年11月10日（金）～12月10日（日）

※休館日：月曜日（実質30日間開館）

会　場：当館（歴史展示室、スロープ、企画展示室、美術工芸展示室）

予算額：9,942千円

【趣　　旨】

本県は日本国内でも移民が多く、移民県と呼ばれる。現在、本県出身者は米国の日系人社会において重要な社会的地位を占めるまでにいたっている。沖縄からの本格的な集団移民は、明治32年(1899）にハワイへ向けての移民団30人（うち上陸者は26人）が翌年１月に上陸したことにはじまる。

ハワイの沖縄県人会は、戦後間もないころ母県への救済を目的にいち早く「沖縄救済更生会」を設立し、米本土や南米各地の沖縄救済会設立の牽引役を担い、戦後沖縄の教育・経済・文化の復興を図ることに努めた。

本展覧は、ハワイ移民１００周年を記念して開催する。ハワイをはじめ北米、南米、東南アジア諸国に移民した人びとの母県文化に対する思慕の深さを実感するとともに、当該国民としてそれぞれの文化へ同化していった状況など日系移民や沖縄移民の100年の足跡をとおして、「移民」について総合的な追体験学習を行うことを目的とする。

本展覧は、二部により展示を構成する。第１部は、米国ロス在の全米日系人博物館の巡回展「From Bentō　to Mixed Plate」。そして、第２部は「沖縄移民の百年史」である。

本県がポストサミットの国際交流の拠点として21世紀へ向けて国際化を推進するにあたり、今一度自らの文化について移民した人びとの目と心を通して学び、沖縄の文化の再確認と他文化を尊重する国際感覚を体験する機会となれば幸いである。

【開催形式】

主催：沖縄県立博物館、全米日系人博物館

共催：琉球新報社

後援：NHK沖縄放送局、琉球朝日放送、沖縄テレビ、沖縄ケーブルネットワーク、ラジオ沖縄、エフエム沖縄

協力：沖縄アルゼンチン協会、沖縄インドネシア友好協会、沖縄カナダ協会、沖縄ハワイ協会、沖縄フィリピン協会、沖縄ブラジル協会、沖縄ペルー協会、沖縄ボリビア協会、沖縄メキシコ協会、財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団、南洋群島帰還者会

【展示内容】

展示を２部構成とした。

第１部　From Bentō to Mixed Plate（弁当からミックスプレイトまで）

① ハワイに到着した１世とその後の生活状況

② ２世の子供たち(日系人の宗教観、学校の生活、家庭の生活)

③ 戦時中における生活

④ 戦後の生活

⑤ 日系人の政治社会へ参画

⑥　中流階級のプランテーション

⑦　今日の日系人

以上の資料は、全米日系人博物館の巡回展資料

第２部沖縄移民の百年史

①　沖縄の移民

沖縄における移民とは沖縄関連移民年表

②　移民地でのくらし

ハワイ・北米、中南米、東南アジア、旧南洋群島

③　戦争と移民

移民先での戦争体験記録

④　戦後沖縄と移民

移民先からの手助け、琉球政府の移民政策

⑤　もうひとつの沖縄社会と文化

文化の受容と変容

⑥　オキナワから世界へ

世界のウチナーンチュ、移民と国際交流

【関連催事】

講演・シンポジウム

①基調講演とシンポジウム

○基調講演：「魅力ある博物館・美術館づくり―評価・助言者としてのエバリュエーターとその役割―」　　２時～３時

講　　師：三木美裕（全米日系人博物館教育部部長補佐）

○シンポジウム：親しむ博物館づくり―21世紀型の博物館像を求める―

３時15分～４時30分

司　会：前田真之（沖縄県立博物館教育普及課長）

パネリスト：三木美裕（全米日系人博物館）、仲底善章（沖縄県立博物館指導主事）、山本英康（名護博物館学芸員）平良次子（南風原町立南風原文化センター学芸員）

日　　時：平成12年11月11日（土）午後２時～４時30分

場　　所：県立博物館講堂

主　　催：沖縄県立博物館・全米日系人博物館

共　　催：沖縄県博物館協会

入場者数：８５人

内　　容：「魅力ある博物館・美術館づくり―評価・助言者としてのエバリュエーターとその役割―」と題した全米日系人博物館教育部部長補佐の三木美裕氏による講演は、米国で80年代から出始めたトータルコディネイターとしてのエバリュエーターの役割について、同氏の実践例を踏まえて紹介された。

展示計画を立案する学芸員、展示に合わせた教育普及のアイテムを考案する教育普及担当者らとの調整を行うエバリュエーター。観覧者の視点でどのような展示や展示構成が展示会の趣旨を最大限生かすことができるのかを考え、さらに地域に密着し親しめる博物館づくりを行う役割も担って

いる。米国ではその職種が博物館の新たな役割として脚光を浴びつつある。
引き続き行われたシンポジウムでは、県内で活発な活動を実践する博物館の実践例を紹介しながら、地域に密着した博物館づくりをパネリストを交えながら討議した。

②特別文化講座「沖縄の移民」
講　師：石川友紀（琉球大学教授）
日　時：平成12年11月18日（土）午後２時～４時
場所：県立博物館講堂
入場料：無料
入場者：１００人
内　容：沖縄移民研究の第一人者的存在である琉球大学教授石川友紀先生の沖縄移民の体系的なお話で、南米をはじめとする移民各地をスライドで紹介しながら、ウチナーンチュのバイタリティを紹介した。

【関連事業】
教育普及事業
①教育プログラム
【事業趣旨】
従来、博物館事業は、展示活動を中心とするものであったが、近年の地域学習や生涯学習の中でその社会教育施設としての多様な役割が求められている。教育プログラムの先進的な米国の全米日系人博物館の協力を得て、初の本格的な学校と連携した博物館の教育プログラムを実施し、展示に対する理解促進及び展示の背景にある歴史的・文化的なものを含めた総合的な学習を試み、博物館と教育関係団体の有機的関連をめざす契機とする。

【開催形式】
主催：沖縄県立博物館、全米日系人博物館
後援：那覇市教育委員会・金武町教育委員会・沖縄県小学校社会科研究会

【事業方法】
ハワイ移民100周年記念「日系移民１世紀展」の展示会を活用した授業内容とする。授業やその指導案作成については、当館学芸員と参画する各教育機関（小・中・高等学校及び児童館や公民館など）の職員と個別に行う。
授業は、事前学習・展示会学習・総括学習で構成し、所要時間は各教育機関の状況に応じて弾力的に設定する。実際の学習においては、当館学芸員及び当館教育ボランティアと各教育機関の担当者が連携を図り、児童・生徒の実態や学習内容に応じて様々な形のティームティーチングを試みる。
参加教育機関：那覇市立城北小学校、那覇市立久場川児童館
②博物館スタディツアー
【事業趣旨】
社会教育団体の引率者を対象に、特別展「日系移民１世紀展」の事前の学習会を開催することによって、教育プログラムのより効果的な活用を図ることを目的とする。

【開催形式】

主　催：沖縄県立博物館・全米日系人博物館

後　援：沖縄県小学校社会科研究会

対　象：県内の小・中・高等学校の教諭、児童館や子供会等社会教育施設の指導者

期　日：平成12年11月５日（日)午後２：００～４：００

場　所：沖縄県立博物館講堂及び展示室

日　程：

(1)　受付　　午後１：４５　～　２：００

(2)　開会式　　午後２：００　～　２：１０

司会（仲底）

開会のことば……前田教育普及課長

館長あいさつ……平田與進館長

(3)　博物館スタディツアー　　午後２：１０　～　４：００

教育プログラムの趣旨……仲底善章指導主事

特別展の内容及び展示概要説明……園原　謙学芸員

質疑・応答……園原　謙学芸員

閉会のことば……仲底善章指導主事

②展示解説ボランティア養成プログラム

特別展開催期間中、展示解説を担当する展示解説ボランティアを養成するために、担当学芸員と展示会開催の以前に事前学習を３回実施した。

【入館料金】

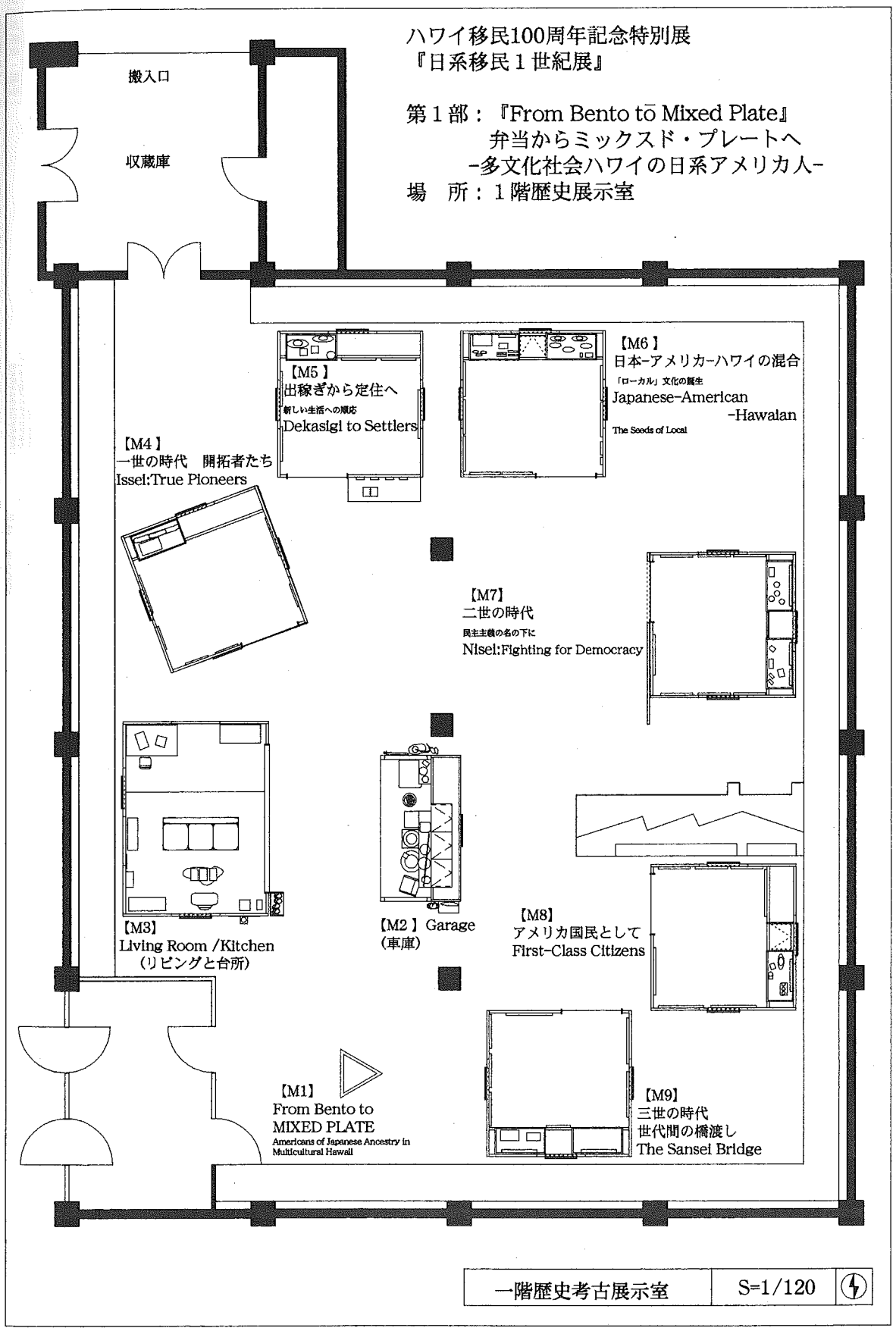
使　用　者	入　館　料
一　　般	５００円
大学生及び高校生	２００円
中学生及び小学生	１００円
団体（20人以上）	一人につきそれぞれ上記入館料の２割引

▲開会式テープカットの模様

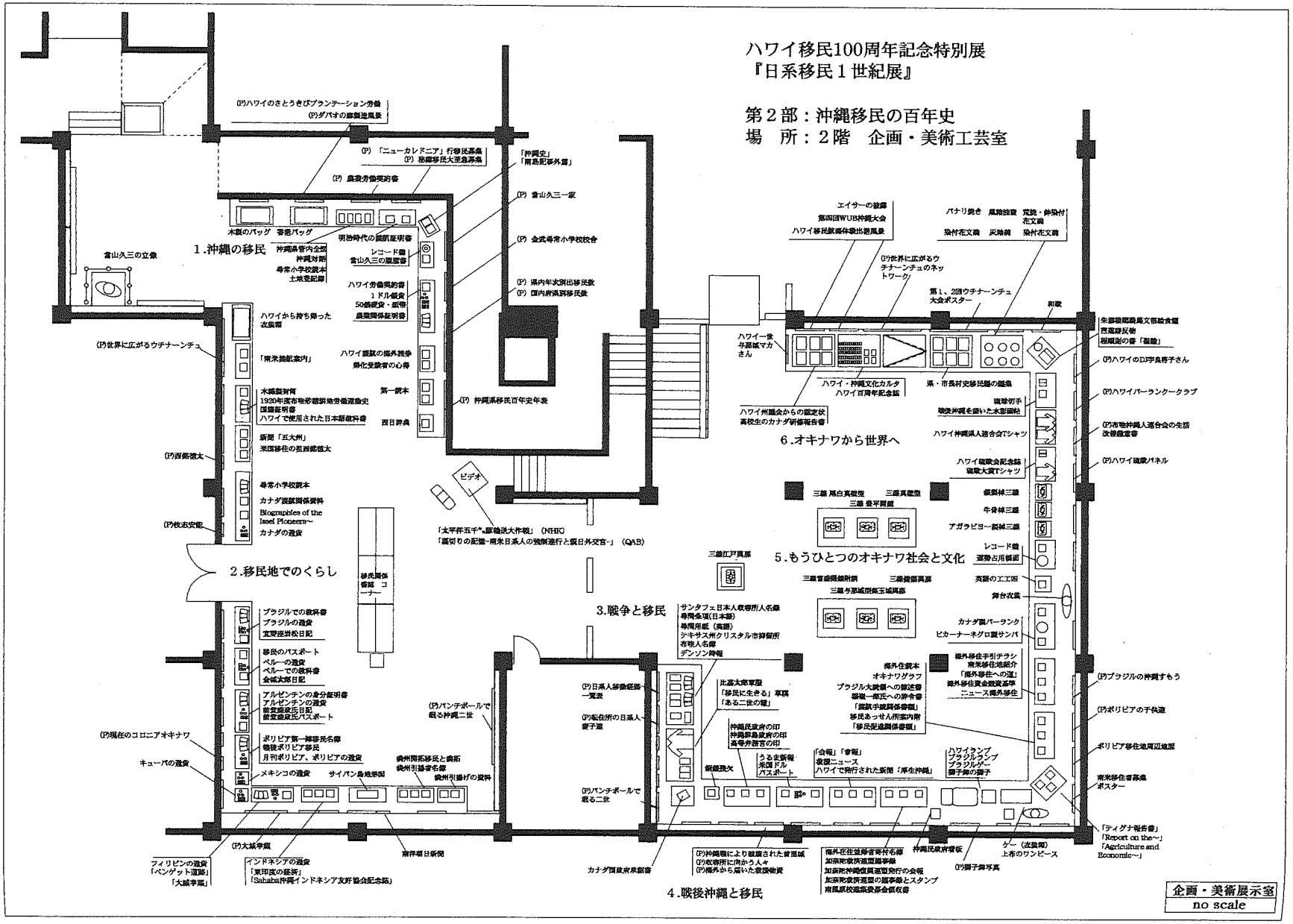
シンポジウム▶

ハワイ移民100周年記念特別展
『日系移民１世紀展』

第１部：『From Bento tō Mixed Plate』
弁当からミックスド・プレートへ
-多文化社会ハワイの日系アメリカ人-
場　所：１階歴史展示室



一階歴史考古展示室	S=1/120


ハワイ移民100周年記念特別展
『日系移民１世紀展』
第２部：沖縄移民の百年史
場　所：２階　企画・美術工芸室
1.沖縄の移民
2.移民地でのくらし
3.戦争と移民
4.戦後沖縄と移民
5.もうひとつのオキナワ社会と文化
6.オキナワから世界へ
(P)ハワイのさとうきびプランテーション労働
(P)ダバオの麻製造風景
(P)「ニューカレドニア」行移民募集
(P)移民大至急募集
(P)農業労働契約書
「沖縄史」
「南島記事外篇」
(P)宮山久三一家
(P)金武尋常小学校校舎
(P)県内年次別出移民数
(P)国内府県別移民数
(P)沖縄系移民百年史年表
宮山久三の立像
木製のバッグ　雲龍バッグ
沖縄県管内全図
沖縄対話
尋常小学校読本
土地登記簿
明治時代の戸籍証明書
レコード盤
宮山久三の履歴書
ハワイ労働契約書
1ドル紙幣
50銭紙幣・紙帯
農業関係証明書
ハワイから持ち帰った衣装帯
ハワイ移民の海外旅券
帰化受験者の心得
第一読本
西日辞典
(P)世界に広がるウチナーンチュ
「南米移住案内」
木綿製対有
1920年度市場砂糖耕地労働運動史
国籍証明書
ハワイで使用された日本語教科書
新聞「五大州」
米国移住の祖西銘徳太
(P)西銘徳太
尋常小学校読本
カナダ移民関係資料
Biographies of the Issei Pioneers～
カナダの移民
(P)牧志安徳
ビデオ
「太平洋五千マイル戦争」（NHK）
「国切りの記憶－南米日系人の強制送行と祖日外交官－」（QAB）
移民関係書類コーナー
ブラジルでの戸籍書
ブラジルの移民
友寄瑞勇校日記
移民のパスポート
ペルーの移民
ペルーでの戸籍書
金城太郎日記
アルゼンチンの身分証明書
アルゼンチンの移民
新垣盛俊氏日記
新垣盛俊氏パスポート
ボリビア第一陣移民名簿
戦後ボリビア移民
月刊ボリビア、ボリビアの移民
メキシコの移民
サイパン島地形図
(P)現在のコロニアオキナワ
キューバの移民
(P)大城孝徳
フィリピンの移民
「ベンゲット道路」
「大城孝徳」
インドネシアの移民
「東印度の経済」
「Sahaba沖縄インドネシア友好協会記念誌」
南洋堂日新聞
(P)パンチボールで眠る沖縄二世
(P)パンチボールで眠る二世
(P)日系人移民経路一覧表
(P)転住所の日系人妻子達
カナダ国政府来訪書
(P)沖縄県により提出された首里城
(P)収容所に向かう人々
(P)海外から届いた救援物資
海外在住世界者寄付名簿
加奈陀政府道路事務
加奈陀沖縄復興基金発行の会報
加奈陀政府道路の開拓者バッジとスタンプ
南風原校建築費募金領収書
沖縄民政府看板
(P)獅子舞写真
ケー（沈黙劇）
上布のワンピース
「ティグナ報告書」
「Report on the～」
「Agriculture and Economic～」
南米移住者募集ポスター
(P)ブラジルの神興すもう
(P)ポリビアの子供達
ポリビア移住地周辺地図
(P)ハワイのDJ宇良啓子さん
(P)ハワイパーランクークラブ
(P)布哇沖縄人連合会の生活改善提案書
(P)ハワイ琉歌パネル
ハワイ移民100周年記念特別展
企画・美術展示室
no scale

4　企画展

企画展　平成11年度「新収蔵品展」（担当：津波古　聰、与那城義春）

会　期：平成12年９月12日（火）～10月22日（日）

場　所：企画展示室

予算額：427千円

【開催趣旨】

「新収蔵品展」は、前年度に寄贈、購入、収集、移管された資料を展示し、広く一般に公開するとともに、寄贈者への顕彰のため、感謝状を贈呈し、博物館活動の普及啓蒙を促進することを目的とする。

【感謝状贈呈】

「平成11年度新収蔵展」開催の初日（９月12日）に寄贈者の代表に感謝状を贈呈した。また、すべての寄贈者に対し、感謝状を郵送した。

【展示内容】

平成11年度の新収蔵品は、寄贈、収集、購入によって２４９点の資料が収蔵された。特徴的な展示品として、戦前首里城を詳細に調査し、その修理に尽力した文部技師・阪谷良之進（1883～1941）が沖縄滞在中に入手した芭蕉布や大島紬などが阪谷澄子氏から寄贈された。なお、阪谷良之進の調査資料は、平成４年の首里城復元の重要な資料となった。

歴史資料としては西洋医学の教育機関であった「医生教習所」の記念碑を波の上宮から、琉球の風物を撮った絵はがきなどを中村氏から寄贈があった。その他、自然、歴史、美術工芸、民俗関係の資料を２９名の方々から寄贈された。

展示は企画展示室で開催したが、新しい博物館資料をすべて展示公開することは、展示室の関係上困難なため、各分野担当の学芸員が資料を抜粋し、80点余を展示した。展示はできるだけ各分野、寄贈者ごとに分けておこなった。(「新収蔵品展展示略図」参照)

平成11年度のすべての新収蔵品及び寄贈者全員の氏名は、刊行した小冊子「平成11年度新収蔵品展」に掲載した。

【展示目録】

寄贈の部

自　　然：チョウゲンボウ、ギンムクドリ、キセキレイ、ツグミ、イシガキシジュウガラ、オオクイナ、ヤンバルクイナなど鳥類の剥製約30点

歴　　史：「沖縄医生教習所記念碑」（写真パネル）、赤羽刀（刀・近江守忠綱他）、琉球政府臨時中央政府時代の辞令書、本場泡盛銘柄一覧、「雄飛」、「史學会」、戦前の写真各種、琉球絵はがき各種、関帝王御画像、琉球切手各種、レコード、計算機など約30点

美術工芸：宮城　峰書「寿山福海」、芭蕉布型染座布団地など8点

民　　俗：三線江戸与那型（鑑定書付）、八重山舞踊勤王流若衆用守飾、柳行李、ジュラルミン製羽釜、膳、曲玉など役10点

購入の部

美術工芸：浦添型見本、木綿白地飛鳥に流水蛇籠葵菖蒲文衣裳（紅型）、麻白地経絣着物

歴　　史：西洋船の図（レプリカ）

収集の部

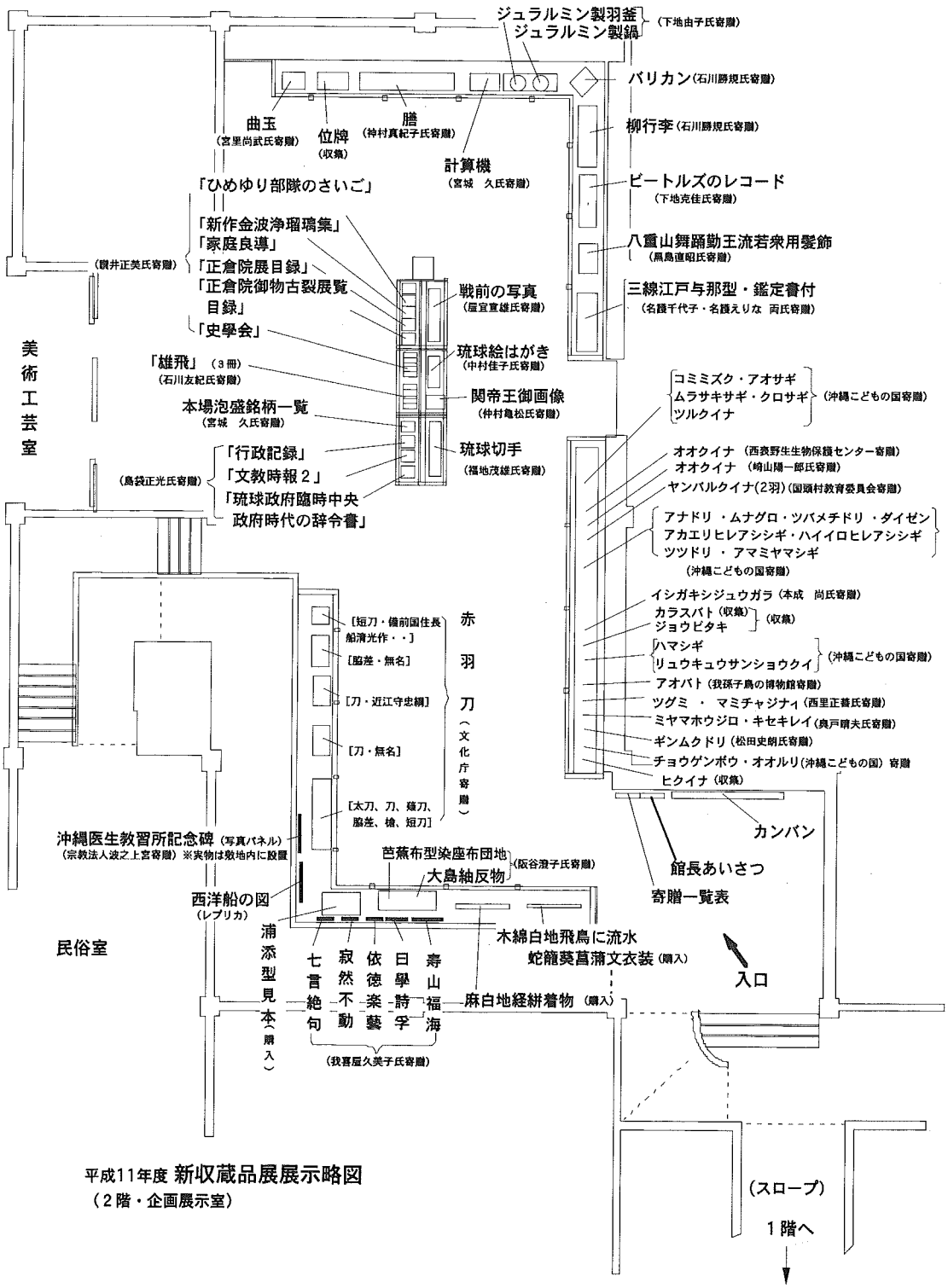
自　　然：カラスバト、ヒクイナなど

【開会式】

平成１２年９月１２日（火）午前10：00に企画展示室入口において、寄贈者への感謝状及びテープカットを行い、企画展「平成11年度新収蔵品展」を開会した。

会　期：平成12年９月12日（火）～10月22日（日）

場　所：企画展示室



平成11年度 新収蔵品展展示略図
（２階・企画展示室）

企画展　沖縄の繊維・染料植物展（担当：嵩原建二、伊波悦子）

会　期：平成13年２月６日（火）～平成13年３月４日（日）

会　場：沖縄県立博物館企画展示室

予算額：1,371千円

【開催趣旨】

人々は古来から天然素材の中から様々な繊維や色素を見いだし利用してきました。衣類を織る素材としては、苧麻や木綿、イトバショウ等様々な植物繊維が利用されました。また、着衣の彩色素材としての染料植物は、藍やフクギ、シャリンバイなどがあり、今日の合成された化学染料が出現するまで重要な染料として使用されてきました。とりわけ染料植物は身近な植物の中から経験的な試行の下に取捨選択され、好適な染色素材として見いだされてきたものであり、こうした染料植物は沖縄で利用されているものだけでも数十種以上にのぼります。

本展示会では主として沖縄の染め織物の素材として利用される苧麻やイトバショウなどの沖縄の繊維植物を紹介するとともに、藍やフクギ、シャリンバイなど県内各地でもふつうに見られ、熱帯・亜熱帯地域で利用されている染料植物と、その色合いの豊かさやその素材を生かした沖縄の染織を紹介しました。さらに、これらの植物を有用な資源植物として再認識する機会とし、県民への普及啓発を図ることを目的に開催されました。

【開催形式】

主　催：沖縄県立博物館

共　催：海洋博記念公園熱帯亜熱帯都市緑化植物園

後　援：沖縄タイムス社

協　力：沖縄県工芸指導所、沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会

【展示内容】

１）沖縄の繊維植物

①伝統的な繊維素材(糸芭蕉、苧麻、木綿)

②新しい繊維素材（ラン（デンファレ)、ケナフ、ローゼル、ストレッチャー）

２）沖縄の染料植物

フクギ、リュウキュウアイ、シャリンバイ、ソメモノイモ、オキナワサルトリイバラ、ウコン、ヤエヤマアオキなど

３）沖縄の伝統的な染め織り

喜如嘉の芭蕉布、久米島紬、宮古上布、八重山上布、読谷山花織

４）沖縄の織物における天然素材の利用と展望及び課題

①新しい繊維

ラン（デンファレ）織り、ローゼル染め織り、ストレッチャー織り、ケナフ織り

②新しい染料

ヒルギ染め、藍染め、カリー染め

５）屋外展示

館の正面入口手前にフクギ、リュウキュウアイなど30種の繊維・染料植物の生態展示

＜関連展示＞

第22回児童生徒科学作品

「ゲットウを利用した染色作品」（宮古農林高校）

【関連行事】

文化講座「資源植物としての繊維・染料植物」

日　時：平成13年１月20日（土）午後２時～午後４時まで

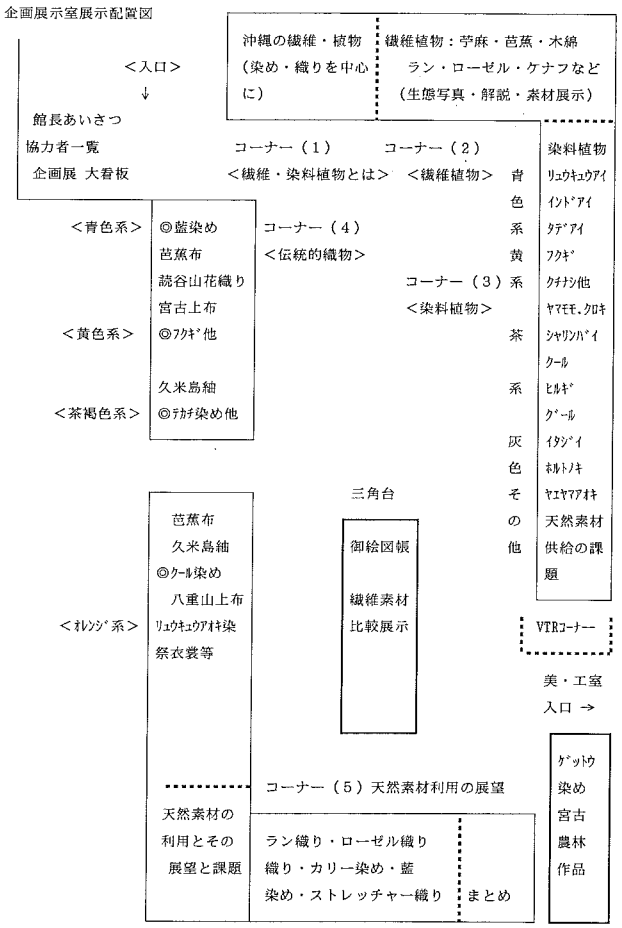
講　師：花城良廣（海洋博記念公園亜熱帯都市緑化植物園長）

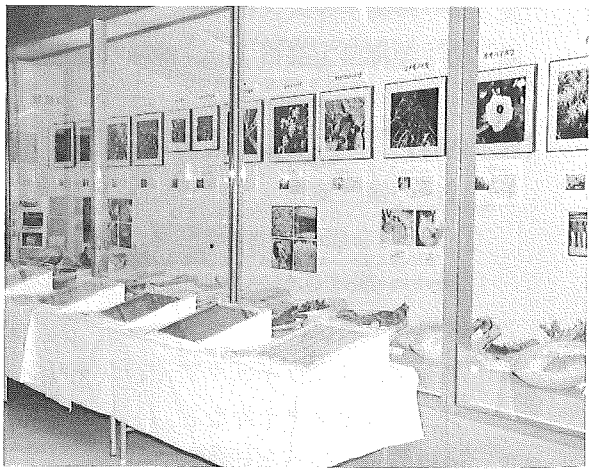
文化講座「染織からみる――染料植物」

日　時：平成13年２月17日（土）午後２時～午後４時まで

講　師：新垣幸子（沖縄県指定無形文化財「八重山上布」保持者）

企画展示室展示配置図





屋外展示

沖縄県無形文化財保存伝承事業
「工芸王国ー人・技・心」（担当：與那嶺一子　津波古　聰）

会　期：平成13年３月13日（火）～平成13年３月25日（日）
会　場：沖縄県立博物館企画展示室・第三展示室

【開催主旨】

沖縄県指定無形文化財には、72年の「芭蕉布」の指定以降、「びん型」（73年）「本場首里の織物」（74年）「読谷山花織」（75年）「久米島紬」（77年）「八重山上布」（78年）「琉球漆器」（91年）の７件の指定物件がある。また、国指定重要無形文化財には、喜如嘉の芭蕉布（72年）、宮古上布（78年）、琉球陶器（85年）、紅型（96年）、首里の織物（98年）、読谷山花織（99年）、芭蕉布（00年）の７件、国選定保存技術には、琉球藍製造（77年）が有り、工芸技術関係無形文化財の国・県の指定件数は合わせて15件を数える。その質の高さと数において本県は全国のトップクラスの工芸王国である。

しかしながら、無形文化財を取り巻く社会状況は、戦後の高度経済成長や近代合理主義、高度情報化などの生活環境や慣習の変化により、年々厳しさを増している。原材料の確保の問題、高価な手わざの成果品の販売不振など、伝統的な手わざの保存・伝承には多くの課題が山積している。

本事業では、多くの県民に対して無形文化財としての工芸技術の価値を再認識していただく機会を提供する共に、保持者の極めたわざと伝承者の若い感性を成果品という形で発表する機会を与える。また、県指定無形文化財、国指定無形文化財の保存会、保持団体の枠をを越えて、保持者や伝承者が横断的な交流、連携を図ることによって、切磋琢磨し、本県の無形文化財の保存伝承、発展を考える機会とすることを目的とする。

本展示会は沖縄県教育委員会文化課が主管となり、沖縄県無形文化財保存伝承事業の一環として行われるものである。本事業は文化庁の伝統文化伝承総合支援事業の採択を受けたものである。

【開催形式】

主　催：沖縄県教育委員会・沖縄県立博物館
共　催：沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会

【展示内容】

1　いろいろな文化財
　文字パネルや図パネルを使い文化財の意味や種類、保存伝承事業について分かりやすく説明する。

2　きらめく手わざの世界
　県の無形文化財の保持者と伝承者の作品を一同に紹介する。
　　県指定無形文化財保持者作品　……　22点
　　伝承者作品　……　27点
　　＊参考展示：
　　国指定無形文化財
　　保存会・保持団体作品　……　３点
　　各個認定者作品　……　５点

市町村指定文化財 …… 1点
特別参考展示 …… 1点

※詳細については展覧会図録「工芸王国ー人・技・心」を作成したので、それを参照のこと。

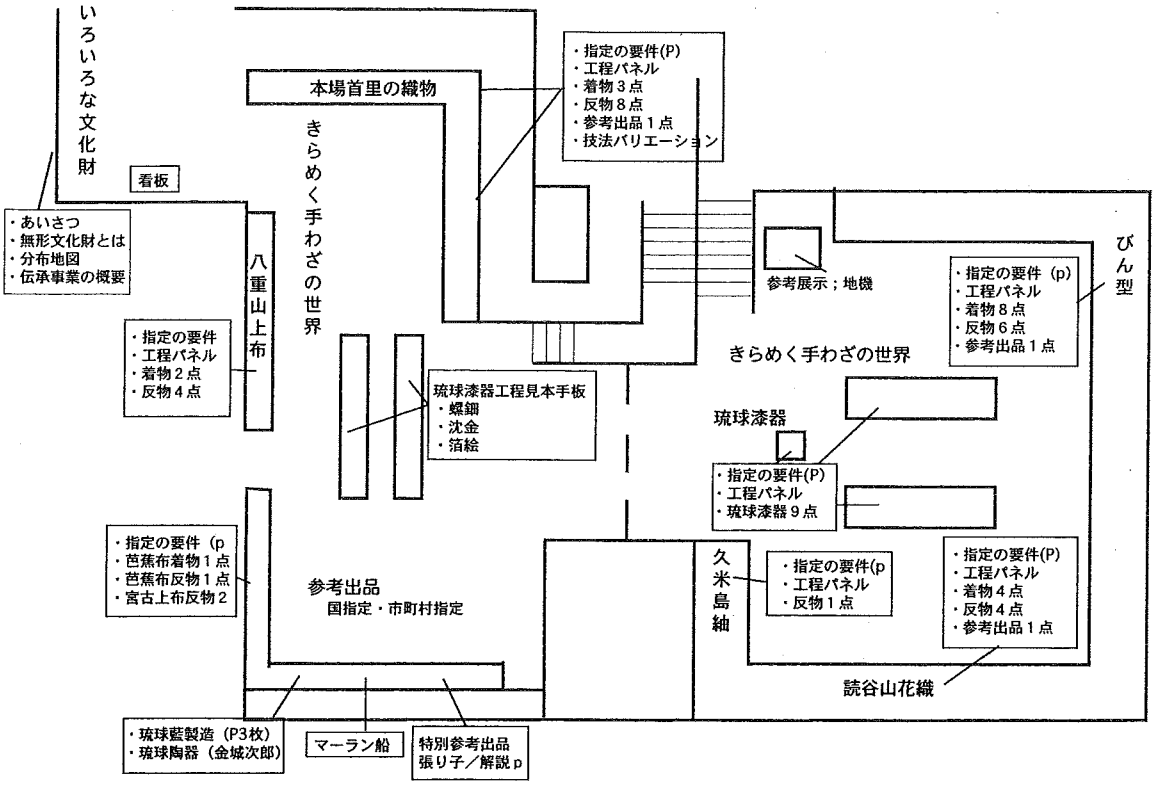
【関連事業】

特別講演

日　時：平成13年3月18日（日）　午後2時～午後4時
場　所：沖縄県立博物館講堂
講　師：富山　弘基（『染織α』雑誌編集長）
演　題：「工芸王国の沖縄のこれから（染織を中心として）」

映写会

日　時：平成13年3月25日（日）　午後2時～午後4時
場　所：沖縄県立博物講堂
作品名：「久米島紬」文化庁久米島紬総合支援事業により制作
「沖縄の焼物ー伝統の現在ー」国立歴史民俗博物館制作（参考上映）



5　移動博物館

第25回移動博物館（担当：瑞慶山　昇）

会　期：2000（平成12）年11月24日（金）～26日（日）３日間開催
開催地：伊江島
主　催：沖縄県立博物館、伊江村、伊江村教育委員会

【趣　旨】

本県は琉球王国時代から独特の文化が創造され、多くの文化遺産が残されている。これらの受け継がれてきた文化は貴重な遺産であり、次代へ保存継承していかなければならない。沖縄県立博物館では、多くの県民が本県の文化を正しく認識できるよう、常設展「沖縄の自然・歴史・文化」の展示を行っておいる。また、当館にふだん足を運ぶことの出来ない離島や、遠隔地の方々にも移動博物館の展示を見てもらうことによって、文化の広域普及を図っている。第25回目は伊江村において開催した。

【内　容】

〈展示会〉〈ビデオ放映〉〈文化講座〉〈野外学習会〉を実施した。展示は「大むかしの生物」「沖縄の自然、歴史、くらし」の２つの大きなテーマから構成した。また展示会場内にビデオコーナーを６ケ所設け、沖縄の伝統文化や自然等に関するビデオを放映した。さらに文化講座や自然や遺跡について学ぶ野外学習会を合わせて実施した。

【展示会】

会　場：伊江村Ｂ&Ｇ海洋センター
会　期：2000年11月24日（金）～26日（日）３日間・午前９時～午後５時
対　象：幼・小・中・高校生、一般
観覧料：無　料

【ビデオ放映】

大むかしの生物コーナー……恐竜関連映像
沖縄の自然コーナー……生物関連映像
〃　先史・古代文化コーナー……港川人関連映像
〃　琉球王国の成立と海外貿易コーナー……琉球王国関連映像
〃　美術工芸コーナー……伝統工芸関連映像
〃　くらしコーナー……民芸関連映像

【文化講座】

会　場：伊江村教育委員会ホール
日　時：2000年11月25日（土）午後６時～午後７時30分
講座名：「伊江島の自然」
講　師：神谷厚昭（沖縄県立博物館学芸員）
　　嵩原建二（　　〃　　）

【野外学習会】

日　時：2000年11月26日（日）午前９時～１２時

講座名：「伊江島の自然と遺跡」

対　象：学生、一般

定　員：24名

講　師：大城　慧（沖縄県立博物館学芸課長）

神谷厚昭（沖縄県立博物館学芸員）

嵩原建二（　　〃　　）

【入場者数】

展 示 会…… 1,327人

文化講座…… 27人

野外学習会…… 24人　　合　計…… 1,378人

【展示品目録】

Ⅰ大むかしの生物

《骨格標本》

マンモス（複製）、サウロロフス（複製）、タルボサウルスの頭骨（複製）

《化石標本》

コレニア　、アンモナイト、三葉虫

《沖縄の化石》

リュウキュウジカ（雄）、リュウキュウムカシキョン（雌）、リュウキュウジカの角、リュウキュウジカの頭骨、リュウキュウジカの上顎骨、リュウキュウジカの下顎骨、リュウキュウジカの上腕骨、リュウキュウジカの大腿骨、リュウキュウジカの中手骨、リュウキュウジカの頸骨、リュウキュウジカの腰骨、リュウキュウムカシキョンの角、リュウキュウヤマガメ、ミヤコノロジカの角、オオヤマリクガメの上腕骨、ハブの脊椎骨

Ⅱ沖縄の自然、歴史、くらし

〔自　然〕《剥製標本》

アカショウビン、オオコノハズク、カラスバト、カルガモ、キンバト、ゴイサギ、ツバメチドリ、コノハズク、サシバ、サンコウチョウ、シロハラ、シロハラクイナ、ズアカアオバト、タゲリ、トラツグミ、シジュウカラ、セッカ、ヤマシギ、ヤンバルクイナ、ヨタカ、リュウキュウヨシゴイ、チョウゲンボウ、タシギ、カワセミ、シロチドリ、セグロカモメ、キアシシギ、チュウシャクシギ、アカハラダカ、ムナグロ、アオサギ、ムラサキサギ、カンムリワシ、コミミズク、コハクチョウ、イリオモテヤマネコ、オリイオオコウモリ、ケナガネズミ、ハブ、サキシマハブ、セマルハコガメ

《写真パネル》

コノハチョウ、ヤンバルテナガコガネ、アサヒナキマダラセセリ、イソヒヨドリ、カワセミ、カンムリワシ、クロサギ、コサギ、アカショウビン、コチドリ、ツバメチドリ、ヤンバルクイナ、シロハラ、シロハラクイナ、アオバズク、アオサギ、カラスバト、キンバト、ダイシャクシギ、タゲリ、ケリ、ノグチゲラ、カイツブリ、バン、コミミズク、ヒヨドリ、ミフウズラ、アカハラダカ、ムナグロ、メジロ、リュウキュウヨシゴイ、マミジロタヒバリオオチドリ、アマミヤマシギ、アマサギ、キョウジョシギ、キアシシギ、ナミエガエル、ホルストガエル、イリオモテヤマネコ、ケラマジカ、クメトカゲモドキ、リュウキュウヤマガメ

〔先史・古代文化〕

港川人想定復元全身像（複製）、港川人頭骨（複製）、爪形文土器（野国貝塚）沖縄県文化課所蔵、カヤウチバンタ式土器 、くびれ平底土器 、荻堂式土器 、伊波式土器 、尖底土器

カムィヤキの壺 、弥生式土器、線刻画石板、炭化米、貝斧、石器、石鏃、自然遺物（貝殻）イモガイ・ゴホウラ（ミホン）含、高麗瓦 、滑石製石鍋、青磁皿、青磁碗、青磁盤、円盤状製品、大山式土器、グスク土器（土鍋）、貝製品、市来式土器

《写真パネル》

発掘のようす（具志川市地荒原遺跡）、層の重なり（今帰仁城跡本殿跡の版築工事）、古代人のくらし 、貝塚の散布状況、渡具知東原遺跡（遠景）、勝連城趾、港川フィッシャー遺跡（近景）、野国貝塚郡Ｂ地点（近景）、勝連城跡（近景）、中城城跡（航空写真）、御物グスク（近景）、具志川グスクの鳥瞰図、首里城跡（正殿跡遺構検出状況）、イモガイの集積、ゴホウラの集積、貝輪装着人骨（具志川島遺跡群岩立地区）、改葬人骨出土状況（具志川島遺跡　群岩立地区）、装身具（貝・骨製品）、沖縄原始・古代史年表、琉球弧の原始・古代史、貝の道、沖縄本島・周辺離島の主要遺跡分布図、石斧の使用予想図

〔琉球王国の成立と海外貿易〕

《拓本・パネル類》

明孝宗勅諭（写真パネル）、万国津梁の鐘（複製）、円覚禅寺記、国王頌徳碑

《古銭類》

琉球通宝（円形）、琉球通宝（楕円形）、金円世宝・世高通宝・大世通宝、洪武通宝、嘉慶通宝、康熙通宝、紹熙通宝、永楽通宝 、咸豊通宝、光緒通宝、大中通宝、淳熙通宝、天聖元宝、嘉泰通宝、開禮通宝、瑞平通宝、元豊通宝、嘉熙通宝、崇寧通宝、咸淳元宝、乾隆通宝、鳩目銭 10（一括）、寛永通宝３束、リング１（18個連）、リング２（８個連）、リング３（８個連）、リング４（小勾玉にビーズ付き）

《印　章》

尚育王の印

《金工品》

かんざし

《古文書・典籍類》

おもろさうし（複製本）＜巻17・20＞ 2冊、中山世鑑（複製本）＜巻１・３＞

琉球三省並三十六島図（朝鮮琉球全図）、沖縄志＜巻１・２＞

《写真パネル》

ランドサット沖縄諸島写真

○戦前の沖縄

初代尚円王御後絵、首里城正殿 、円覚寺仏殿、松並木のある那覇市内景観（以上、鎌倉芳太郎撮影）、識名園、玉陵、サーターグルマ、竹製品を売る店、木臼つくり、壷屋風景、市場風景、魚市（以上、坂本万七撮影）、豚舎（本山桂川撮影）

○沖縄戦

十・十空襲後の那覇の通堂、嘉手納海岸に上陸した米軍、戦闘中の米軍・至近弾をうける、亀甲墓を攻撃する米軍、摩文仁の洞窟にひそむ日本兵に降伏をよびかける、嘉手納村のキャンプに収容された日本兵捕虜、戦い終わって山から下りる避難民

○戦後～現在

戦災をうけた波之上宮、憔悴しきった老人、ＤＤＴ散布、戦後のヤミ市、城前小学校での演芸会、土地を守る会の闘争（伊江島）、第九回沖縄議会の状況ー志喜屋知事、中学生と握手するブース高等弁務官、Ａサインバーの内部・沖縄市、Ｂ52墜落事故、毒ガス輸送、アイゼンハワー大統領来沖（琉球政府ビル前）、主席当選を果たした屋良主席、教公二法、返還協定調印式をテレビで見まもる屋良主席、通貨交換所風景、パンチボールで眠るアーニーパイル、ハワイからの衣類

〔美術工芸〕

《絵　画》

魚売りの図

《漆　器》

黒漆雲双龍螺鈿丸盆、朱漆山水楼閣人物堆錦重箱

《書　跡》

玉川朝達筆「王安石五言絶句・梅花」（軸装）

《彫　刻》

玉陵石獅子（一対）レプリカ

《陶　器》

釘彫抱瓶、白釉黒流からから、獅子（天野コレクション）、線彫魚文大皿（天野コレクション）、線彫飴釉差草花文からから、緑釉嘉瓶、飴釉筒形花生、アンダガーミ、赤絵撫子文碗

《染　織》

芭蕉経縞着物、芭蕉苧麻浅地格子に絣着物、芭蕉木綿絣ティサジ、芭蕉紺地花織ティサジ、苧麻浅地霞に鶴松梅文様衣裳

《写真パネル》

芭蕉布製作パネル、南嶋雑話より芭蕉製するの図

〔くらし〕

《へらと掘串》

ヒラ（奄美大島）、ヒラ（具志頭村）、ヒラ（糸満市）、へら、宮古ヘラ（平良市）、ピラ（石垣島）、マーピラ（波照間島）、ヘラ（西原町）、アサンザニ（今帰仁村）、掘串（中城村の海岸）、カノース（宮古島）、ンプリャ（宮古島）

《クバを使用した生活用具》

クバの葉の箒（徳之島）、ガンシナ（粟国島）、ヘークルサー（久米島）、クバうちわ、クバガサ（石垣島）、クバの葉つと（与那国島）、ウブル〈ビロウの釣瓶〉（与那国島）、クシンキ〈こしき〉（与那国島）

《竹・カヤ等を使用した生活用具》

ムイ〈箕〉（下地町）、ミーゾーキー〈円箕〉（久米島）、ユナバーキ（久米島）、イビラフ、タマンバーキ、ウルワイチズカ（伊平屋島）、ススキの箒、ツツカサ（宮古島）、ブーイリマグ（城辺町）、ガーマキ（黒島）、ガイジ（波照間島）

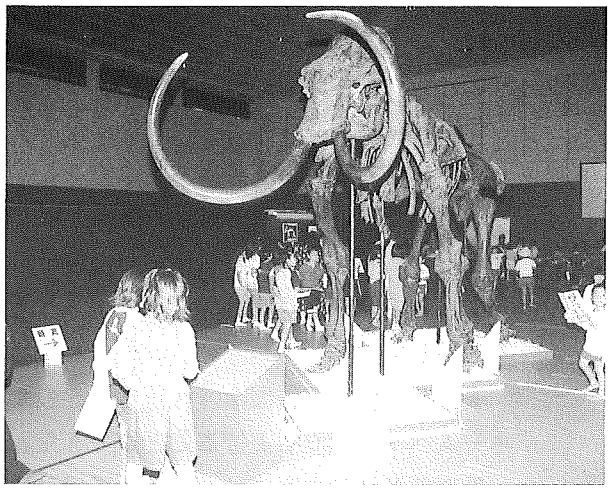
《織機具》

筬〈おさ〉・（大宜味村）、筬〈おさ〉・（大宜味村）、筬〈おさ〉・（大宜味村）、筬〈おさ〉・（大宜味村）、クダ（今帰仁村）、ワク（中城村）、ウーバーラー（佐敷町）、ヤーマ〈糸車〉、伊江島ウジョー（伊江村）

《写真パネル》

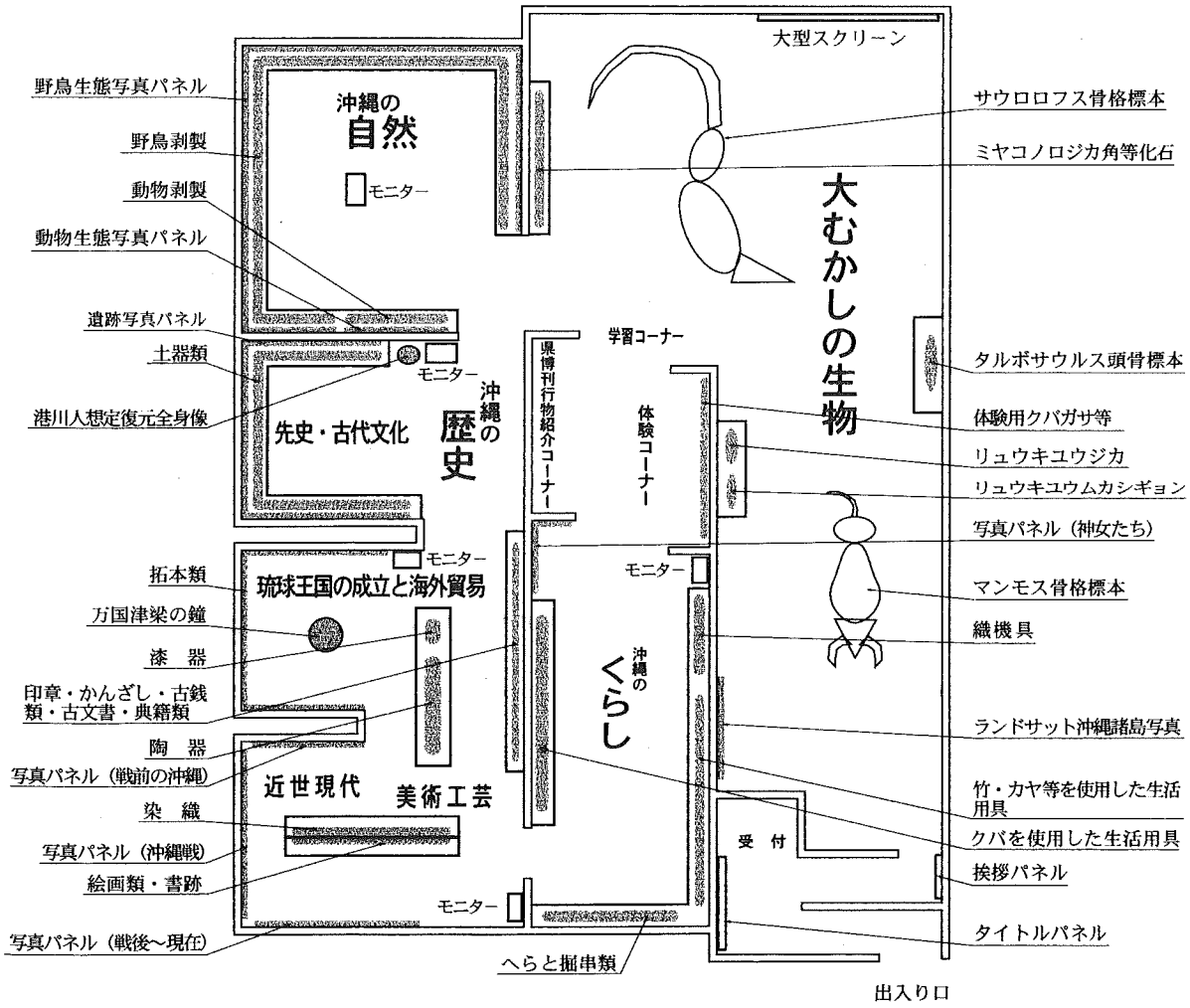
○神女たち

伊平屋島のウンジャミ、伊江島のウプユミ、国頭村与那のウンジャミ、国頭村比地のウンジャミ、久米島の六月ウマチー、渡名喜島のシマノーシ、久高島のイザイホー、平良市狩俣のウヤガン、来間島のヤーマスプナカ



展示略図

伊江村B&G海洋センター



Ⅴ．教育普及活動

1．教育普及活動の概要

本格的な生涯学習時代を迎え、博物館に対する県民の関心は日々高まってきている。博物館は資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としているが、同時に来館者の知的文化的な欲求を充足できるよう地球における文化発信基地としての役割も併せ持っている。とりわけ最近の動向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者それぞれがいろいろな目的を持って来館している。

このような来館者の要求により多く応えていくため、当館では今年度も多くの博物館事業を実施してきた。平成12年度の大きな特徴としては、緊急雇用対策事業により依託製作した生産の道具等を活用して、文部科学省委嘱事業「親しむ博物館づくり事業」を実施したことを挙げることができる。この事業のために用意した仲原遺跡や埋蔵文化財センターでの「古代のくらしを追体験しよう」のプログラムは、今後予想される総合的学習などでパイロットとしての役割を果たしたと確信している。

またサミット開催記念「大琉球展」のオープンに際し、インターネットを導入し、当館の公式ホームページも立ち上げることができた。

教育普及活動の面では、多くの県民が博物館を身近なものとして利用できるよう多彩な事業をこれからも計画し実施していきたい。

以下、今年度に実施した教育普及活動を列挙し、その主な内容について詳述する。

1．緊急雇用対策事業による生産に関する道具等の製作
2．文部科学省委嘱事業「親しむ博物館づくり事業」を実行委員会を組織して実施
3．博物館文化講座の実施（特別文化講座を含め300回～310回）
4．インターネットの導入及び公式ホームページの開設
5．子供放送局事業の実施
6．第２４回移動博物館（伊江村）の開催
7．博物館シアターにおける映画の上映
8．子ども体験学習教室の実施
9．ボランティア活動事業の実施（解説・点字資料の作成・博物館だよりの録音等）
10．教育普及機器整備事業の実施（点字用機器の導入）
11．博物館を利用する団体への研修
12．来館者への展示解説
13 ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だよりの編集・発行
14．学校による博物館学習のための事前打ち合わせ
15．児童生徒の団体見学へのオリエンテーション
16．児童生徒への学習相談
17．団体見学者へのビデオサービス
18．マスコミ等への博物館事業の広報活動
19．博物館活用を呼びかけのための小中高等学校訪問
20．講師派遣による学校支援事業(シーサーづくり・黒糖づくり・講演等)

2　博物館文化講座

「博物館文化講座」は、当博物館の展示内容と関連する沖縄の自然・歴史・文化などについて、分かりやすく学習できることを目的に1974年から始まった事業である。原則として、毎月第３土曜日の午後２時から午後４時までの２時間を利用し、当博物館講堂にて行っている。また、体験学習型の講座形式も取り入れ、屋外での講座も行っている。

2000年度は文化講座、親子文化講座をあわせた11回の講座を実施した。５月に実施した300回記念講演「アジアの民俗と沖縄」では、国立歴史民俗博物館の比嘉政夫氏を講師に迎え、東南アジア及び東アジア地域での自らのフィールド体験を交えながら、ビデオやスライドを使用し、これから研究を進めるべきいくつかの課題を、爬龍船などを例にしながら提示した。

1997年度から始めた「文化講座受講者アンケート」を参考に、年間の講座内容が企画される。これからも受講者の生の声を反映させるためにアンケート調査を継続していく予定である。

第300回「アジアの民俗と沖縄」

講　師：比嘉　政夫（国立歴史民俗博物館教授）
日　時・場所：５月14日（日）当館講堂
内　容：アジアの民俗と沖縄の民俗を比較することでアジアの中の沖縄を再発見する
参加者：272名

第301回「沖縄戦のまなび方」

講　師：大城　将保（沖縄平和ネットワーク代表）
日　時・場所：６月11日（日）　当館講堂
内　容：慰霊の日を前に沖縄戦について学ぶ。平和学習の一環として、学校を通して学生への参加を呼びかける
参加者：104名

第302回「グスクと英雄の墓めぐり－本島中部地区－」

講　師：嵩元　政秀（沖縄考古学会長）
　　仲宗根　求（読谷村教育委員会）
日　時・場所：８月５日（土）　読谷村内
内　容：本島中部地区のグスクや墓、伝説の地等を実際にめぐりながら地域の歴史を学ぶ
参加者：34名（40名の定員）

第303回「歴史散歩道－東御廻り」

講　師：大城　秀子（知念村教育委員会社会教育課主査）
日　時・場所：８月19日（土）　知念村斎場御嶽、玉城村玉城グスク他
内　容：東御廻りの拝所や聖地をめぐりながら、解説する
参加者：38名（40名の定員）

第304回「収蔵品解説会－陶器－」

講　師：津波古　聰（県立博物館学芸員）
日　時・場所：９月16日（土）　当館講堂
内　容：当館所蔵の陶器について解説する
参加者：29名

第305回「尚家文書がかたる世界」

講　師：田名　真之（那覇市経済文化部歴史資料室長）

日　時・場所：10月21日（土）　当館講堂

内　容：尚家文書から琉球王朝や琉球の歴史を分かりやすく学ぶ

参加者：104名

第306回「沖縄の移民」

講　師：石川　友紀（琉球大学教授）

日　時・場所：11月18日（土）　当館講堂

内　容：特別展関連催事。ハワイ移民100周年を記念し、「沖縄の移民」についてその歴史を学ぶ

参加者：139名

第307回「沖縄人の来た道」

講　師：土肥　直美（琉球大学助教授）

日　時・場所：12月９日（土）　当館講堂

内　容：沖縄人の来た道を最新の研究成果をふまえて分かりやすく解説する

参加者：124名

第308回「資源植物としての繊維・染料植物」

講　師：花城　良廣（海洋博記念公園亜熱帯都市緑化植物園長）

日　時・場所：１月20日（土）　当館講堂

内　容：企画展関連催事。資源植物としての染料植物を自然の分野から解説する

参加者：90名

第309回「染織からみる－染料植物」

講　師：新垣　幸子（県指定無形文化財「八重山上布」保持者）

日　時・場所：２月17日（土）　当館講堂

内　容：企画展関連催事。染料植物を染織技術を通して、美術工芸の分野から解説する

参加者：137名

第310回「北部の野鳥観察会」

講　師：嵩原　建二（沖縄県立博物館　指導主事）

日　時・場所：３月10日（土）　金武町億首川周辺

内　容：億首川周辺の野鳥や自然を観察し、解説する

参加者：39名（40名の定員）

3　親子文化講座

当博物館の親子文化講座は、親子が広い視野から郷土の自然や歴史、文化について分かりやすく、楽しく学ぶことができるよう企画された教育普及事業の一つである。

2000年度は「夏休み親子文化講座」という名称を「親子文化講座」へと変更した。但し、親子参加型ではあるが、一般のグループの参加も可能とした。

しかし、実際には親子の参加よりも一般のグループの参加が多くあり、2001年度からは文化講座にまとめることとする。

親子文化講座「グスクと英雄の墓めぐり－本島中部地区－」
講　師：嵩元　政秀（沖縄考古学会長）
　　仲宗根　求（読谷村教育委員会）
日　時・場所：８月５日（土）　読谷村内
内　容：本島中部地区のグスクや墓、伝説の地等を実際にめぐりながら地域の歴史を学ぶ
参加者：34名（40名の定員）

親子文化講座「歴史散歩道－東御廻り」
講　師：大城　秀子（知念村教育委員会社会教育課主査）
日　時・場所：８月19日（土）　知念村斎場御嶽、玉城村玉城グスク他
内　容：東御廻りの拝所や聖地をめぐりながら、解説する
参加者：38名（40名の定員）

親子文化講座「北部の野鳥観察会」
講　師：嵩原　建二（沖縄県立博物館　指導主事）
日　時・場所：３月10日（土）　金武町億首川周辺
内　容：億首川周辺の野鳥や自然を観察し、解説する
参加者：39名（40名の定員）

4　衛星通信を利用した子供放送局
主　　催：文部省生涯学習局
受信会場：沖縄県立博物館
【主旨】
この事業は、完全学校週５日制のスタートまでに地域で子供を育てる環境を整備し、親と子のさまざまな活動を支援する「全国子供プラン」の一環として、文部省により平成11年度から土曜休業日に実施された。

【内容】
子ども放送局は、放送をとおして子供たちの「心の教育」や「科学技術への夢をはぐくむ」ことを目的として平成11年７月31日から第２・第４土曜休業日に実施され、スポーツ選手や科学者、ボランティア活動のリーダーたちがそれぞれの分野の魅力について子供たちに語りかける内容となっている。

【取り組みの方法】
①子ども放送局番組の広報については、チラシを公民館・図書館・児童館・学童など12の施設に郵送している。
②月一回持たれる首里地区行政連絡協議会の席でチラシを配布する。
③子ども放送局上映２週間前に正門前に立て看板を設置している。

【総括】
この事業は、衛星通信を利用して子供放送局の番組を多くの子供たちに見てもらうようになっているが、参加者が少ない。また第２・第４土曜休業日には他の活動（子ども体験学習教室）を実施していることもあり、上映を控えたこともある。博物館文化講座の持たれる日や、移動博物館と重なり担当が不在になることもあり、子ども放送局の取り組みには課題があった。

5　博物館シアター

映像や音響をとおして、郷土文化と世界の芸術文化を、広く県民に紹介するために平成６年度から実施している事業である。

自然、歴史、民俗などをテーマにした映像、および世界の芸術文化をあつかった映像等の映写会を内容とし、県立博物館講堂において午後２時より実施している。

平成12年度は、映像でみる沖縄・「ＯＫＩＮＡＷＡ物語」と言うタイトルで沖縄を舞台にして製作された映画の中から、２本を紹介した。また「なつかしの名作」と言うタイトルで世界の名作の中から、1970年（イタリア）製作「ひまわり」を紹介した。

シリーズ〔映像でみる沖縄・「ＯＫＩＮＡＷＡ物語」〕

第48回　期　日：2000（平成12）年7月30日（日）
映　画：「遥かなる甲子園」カラービスタ103分
内　容：1990年製作。毎年夏、感動と興奮を呼ぶ全国高校野球、そこにもうひとつの胸熱くするドラマが語り継がれている。聴覚障害児のために建てられた「北城ろう学校」で、耳が、そして会話が不自由な子供達が自ら見い出した途方もない夢、挫折を乗り越えてその夢へ一歩一歩近付く歓びを描いた作品。彼ら球児と女子マネージャーたちの勇気と闘志の記録は、高校野球のもうひとつのドラマであり、そして何よりもハンディと闘いながら夢を追った青春の魂の記録である。監督は、戦争の悲劇を訴えた多くの作品が高い評価をうけている大澤豊。出演は、三浦友和や田中美佐子など。文部省選定作品。
入場者：34名

第49回　期　日：2000（平成12）年8月6日（日）
映　画：「うみ・そら・さんごのいいつたえ」カラービスタ105分
内　容：1991年製作。オキナワチルダイ。沖縄独特の暑くけだるい一夏を背景にして、海を巡る幾種類もの人間ドラマが点描式に、リアルに、ときにはコミカルにテンポよく語られてゆく。監督は椎名誠、出演者は実力派女優の余貴美子をはじめ、一般から選ばれた子供達や、地元の漁師も出演している。
入場者：95名

シリーズ〔なつかしの名作〕

第50回　期　日：2000（平成12）年12月10日（日）
映　画：「ひまわり」カラービスタ106分
内　容：1970年（イタリア）製作。戦争を背景にした悲しい愛の物語。ヘンリー・マンシーニのメロディと、広大なひまわり畑の景観で話題となった名作。監督はヴィットリオ・デ・シーカ。出演は、マルチェロ・マストロヤンニ、ソフィア・ローレン、リュドミラ・サベーリエワ、ほかにアンナ・カレーナ、ジェルマーノ・ロンゴ、グラウコ・オノラート、カルロ・ポンティ・ジュニアなど。
入場者：116名。

6　子ども体験学習教室

＜事業の経過＞

子ども体験学習教室の事業は、平成５年度から博物館の新規事業として開始し、本年度で９年目に入りました。

＜趣　旨＞

平成４年度から第２土曜日が学校休業日になり、さらには平成６年度からは第４土曜日も学校が休業日となりました。それにともない子どもたちの学校外で活動する機会も増えてきました。当館でも「休業日」や「日曜日」を利用して子どもたちが郷土の自然や歴史・文化を自ら進んで学べるように平成５年度からこの事業をスタートしました。

ともすれば生活体験の乏しくなりがちな子どもたちに多くの体験活動の場を提供し、心身ともに豊かでたくましい子どもを育てていこうとするのが本教室の目的である。

＜実施講座＞

「豆とサトウキビづくり」

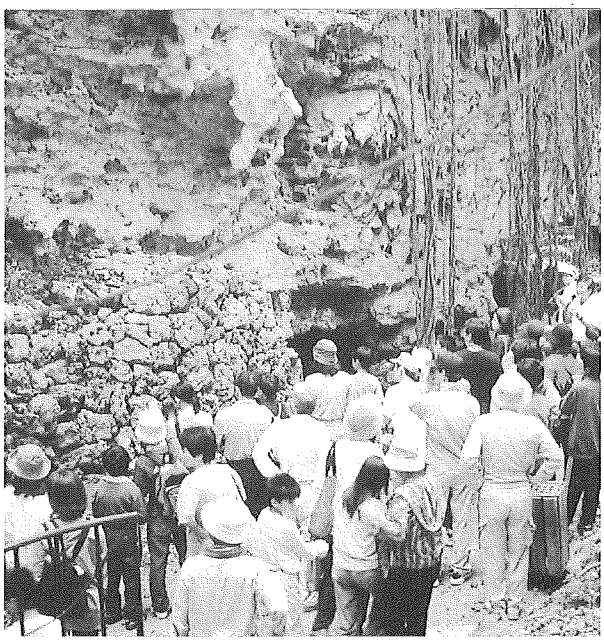
講　師：仲底善章（沖縄県立博物館指導主事）

期　日：４月22日（土）、５月27日（土）、７月８日（土）、７月29日（日）、10月21日（土）、２月10日（土）

場　所：県立博物館講堂及び体験農場・県立博物館前庭

参加者：のべ３２４名

内　容：豆とサトウキビの特性とその栽培方法について学んだ後、実際に体験農場に出かけ、植え付け作業をおこなった。その後、除草、肥育管理、収穫、調理までの一連の作業をほぼ１年間を通した企画でした。昔ながらの方法で伝統的な道具を用いながら、自分で栽培した豆を使っての豆腐づくり、自らの手で育てたサトウキビを使っての黒砂糖づくりなどについて学習した。



「鍾乳洞を探検しよう」

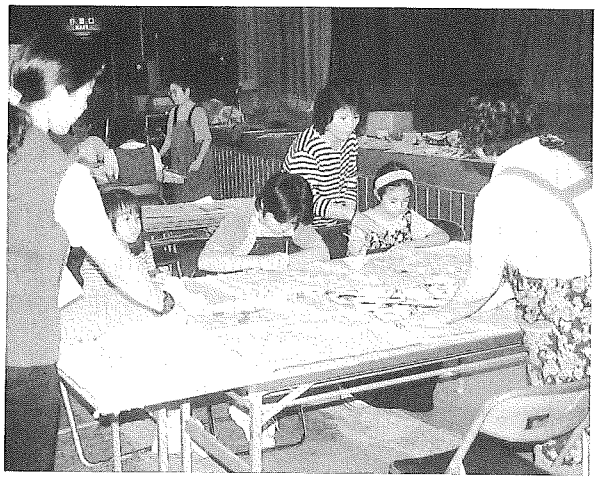
講　師：山内平三郎先生（沖縄ケービング協会会長）

期　日：６月10日（土）、６月24日（土）、８月20日（日）

場　所：県立博物館講堂及び玉泉洞

参加者：のべ138名

内　容：スライドで鍾乳洞のなりたちや沖縄の地層及び鍾乳洞の種類など、鍾乳洞の探検に必要な基本的な学習を行った。学習した後、玉城村の玉泉洞で鍾乳洞の探検と採取した化石で学習を深め、化石鑑定をしながら鍾乳洞の不思議さについて子どもたち一人一人の学びを深めていった。



「しっくいシーサーをつくろう」

講　師：宮城光男先生（八洲工房主宰）
　　伊波悦子（沖縄県立博物館学芸員）

期　日：パート１　８月５日（土）、８月６日（日）
　　パート２　８月26日（土）、８月27日（日）

場　所：県立博物館講堂及び博物館前庭

参加者：のべ１７４名

内　容：沖縄のシーサーの歴史やその役割等を学習した後、シーサーの製作方法について学び、その後製作作業に入った。自分のイメージに合わせて骨組みを組み立てたり、瓦の素材を生かした色つけをしたりして個性あふれる作品を完成させ、講師から高い評価を得た。

「紅型をつくろう」

講　師：屋富祖幸子先生（屋富祖紅型工房主宰）

期　日：11月11日（土）、11月25日（土）、12月17日（日）

場　所：県立博物館講堂及び前庭

参加者：のべ６０名

内　容：紅型づくりの工程を実物資料で説明した後、初日はその工程の初めにあたる型染めから作業を始めた。二日目は色染めについて学び、色差し、二度塗り、ぼかし、色止めなど全神経を集中させながら時間を延長して紅型づくりにチャレンジした。最終日は、手で糊を落とす「水元」の作業から始まり、天日干しで作品を乾燥させて全員が最高のできばえで作品を完成させた。

「竪穴式住居で古代の暮らしを体験しよう」（追加事業）

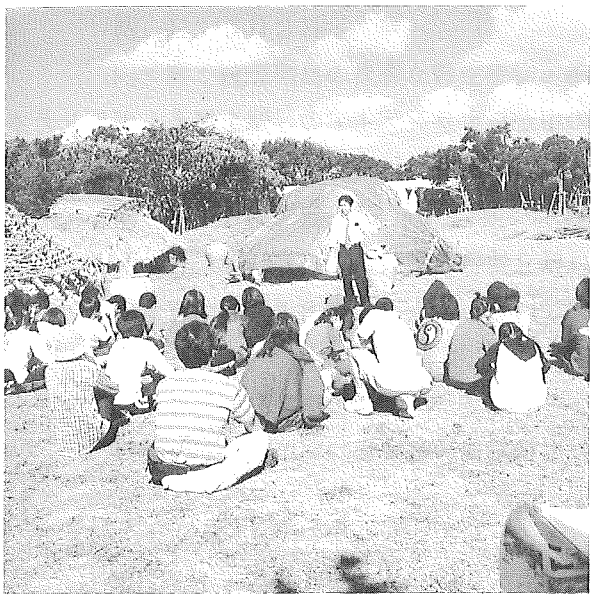
講　師：比嘉賀盛先生（沖縄県考古学会員）
与儀喜邦先生（元高校教諭））
前田真之、仲底善章、神谷厚昭、柏木祐（県立博物館学芸員）

期　日：5月21日（日）、5月28日（日）、6月4日（日）、6月11日（日）、8月18日（金）、8月19日（土）

場　所：県立博物館講堂及び前庭

参加者：のべ２４０名

内　容：当館では、緊急雇用対策事業で委託製作をした「移動用竪穴式住居」を活用して事業を進めた。学校の教育課程と連動した教育プログラムを計画して実施した。具体的な活動内容として、竪穴式住居の組み立て、土器づくり、火起こし機の製作と火起こし体験、星座観察、野焼きと住居内での土器を使った煮炊き活動や寝泊まり体験を行った。



7　ボランティア活動

〈ボランティア活動の事業の経過〉

平成５年７月１日に沖縄県立博物館ボランティア活動実施要項が施行され、これに基づき教育ボランティアと資料ボランティアの育成に努めてきた。教育ボランティアは展示解説・文化講座・子ども体験学習教室・相談室における対応などの教育普及活動全般にわたる補助的な活動を行う。資料ボランティアは調査研究活動に必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動を行う。ボランティアとして登録できるものは、ボランティア養成講座を修了した者などで、登録後はボランティア専門講座で研修を重ねながら、活動を続けてきた。

〈趣旨〉

週休２日制が定着しつつあるなかで、生涯学習への要求が高まりつつある。この様な時代に多くの県民に学習の機会を提供し、自己啓発の場とすることを目的として、本事業を実施した。

〈事業の実施〉

ボランティア養成講座を企画し、その修了者の中からボランティアの登録を終え、ボランティア活動の充実を図った。登録は４月に43名、９月に21名あった。

1　ボランティア養成講座（受講者33名）講師は県立博物館学芸員

第１回「博物館の活動」

講　師：伊波　悦子

期　日：６月７日

内　容：博物館の意味・目的・機能や沖縄県立博物館の概要について。

第２回「博物館の岩石、化石」

講　師：神谷　厚昭

期　日：６月１４日

内　容：琉球列島の生い立ちを草創期から現在に至るまで分かり易く解説。

第３回「絣の源流を求めて」

講　師：伊波 悦子

期　日：６月２１日

内　容：沖縄の絣のルーツはどこか。インド・インドネシアのビデオ・実物資料を見せながら解説した。

第４回「博物館活動・展示室解説」

講　師：仲底　善章

期　日：６月２８日

内　容：民俗展示室に展示されている道具はどの様に使うのか、体験教室との関わりなど。

第５回「博物館をめぐるアメリカの動向――来館者主権の実際」

講　師：前田　真之

期　日：７月５日

内　容：勇気度テスト・聞き上手テスト・親切度テストを盛り込んだユニーク講座。

第６回「歴史展示室の解説について」

講　師：大城慧

期　日：７月26日

内　容：とくに考古の資料の用語・解説について。

第７回「自然展示室の話」

講　師：与那城　義春

期　日：８月２日

内　容：琉球列島の代表な野生生物・絶滅危惧種を紹介。

第８回「沖縄の民俗～三線について」

講　師：太田　健一

期　日：８月９日

内　容：沖縄の代表的な三線について、スライドで解説。

2　ボランティア専門講座

登録ボランティアに対しさらに専門知識を身につけるための講座を開設する。

月　日	演題	氏名	備考
10月４日	シーサーのルーツ	玉城淳博	沖縄映像センター社長
10月18日	沖縄の女性史	宮城晴美	那覇市女性センター
11月１日	今帰仁城趾めぐり	仲原弘哲	今帰仁歴史文化センター館長
11月15日	座喜味城趾と読谷の歴史	山内徳信	元沖縄県出納長
11月22日	東うまーい	大城秀子	知念村教育委員会
12月６日	沖縄の自然観察	宮里幸利	石川少年自然の家
12月13日	南部のグスクめぐり	宮里朝光	郷土歴史家
12月20日	ミバエ対策事業所視察	山岸正明	増殖照射課長

8　支援活動

団体への学習支援

生涯学習時代を迎え、郷土の歴史や文化、自然に対する関心は児童生徒のみならず多くの階層にまたがってきている。そのためそれぞれのニーズに対応した形で研修を進めていくことが課題となってきている。

1．小中学校への取り組み

・小中学校の児童に対しては、見る・触る・体験するの五感を活用した学習を展開するため、とりわけ３年生を対象とする学芸資料などを収集し、学習で活用してきた。

・３年生の博物館学習が定着してきた。

・暮らしの道具を使う中から学習課題等について理解が深まるよう取り組む。

・緊急雇用対策事業で製作した黒糖搾り機・高機・竪穴住居・移動式展示セットをもとに、「古代のくらしを追体験しよう」のプログラムを実施し、総合的学習などで活用できるプログラムの開発に努めた。

・黒糖づくりや総合的学習などで、担当指導主事及びボランティアが学校支援に出かけた。

・総合的学習における博物館の活用について、ゲストティーチャーとして校内研修で報告した。

・日系移民１世紀展では、学校と連携した教育プログラムを実践した。

2．高等学校への取り組み・県立学校長会で博物館利用の呼びかけを行う。

・県外高校生の博物館学習は、班別・テーマ別学習の形態を取るようになってきており、博物館の担当者によるコーディネイトにより、きめ細かく対応できるようになった。

・学校訪問を実施した知念高校が、選択コースの授業の一環として見学を行った。

3．矯正施設の児童の見学受け入れ

4．企業等による博物館研修

・平成７年度に行われた琉球銀行の新入行員研修では博物館を活用した郷土学習が行われたが、平成１１年度は博物館と連携した形での企業研修は実施されなかった。

5．デイ・サービス事業等の一環としての博物館来館

・デイ・サービスの一環として来館される団体が、あった。

・休息なしの長時間見学は無理なので、リラクゼーションの観点から今後博物館がどのような対応を取れるのか検討を要する。

Ⅵ　博物館実習

県内の３つの大学では、現在、博物館学芸員資格取得のための博物館学の講座が開設されているところである。本館では平成５年度まで県外の大学から10名前後の実習生を受け入れてきたが、平成６年度からは沖縄国際大学の学生を実習生として受け入れることになり、さらに平成７年度から琉球大学でも同科目が開設されたことに伴い、実習生を受け入れてきた。

県内大学からは琉球大学、沖縄国際大学、沖縄県立芸術大学の３大学からの学生を対象とし、県外大学からの実習生については、地元出身の学生を対象として受け入れてきた。

平成11年度までに県内外の大学から178名の実習生を受け入れ実習指導を行ってきた。

平成12年度は、琉球大学15名、沖縄国際大学10名、沖縄県立芸術大学10名の他に佐賀大学１名、広島大学１名、久留米大学１名、熊本大学１名、四国大学１名、桜美林大学１名の合計41名を受け入れて実習を行った。

実習した科目と指導学芸員及び実習期間と実習生は下記のとおりであった。

実習科目と指導学芸員

①博物館関係法規・組織・博物館関係団体（新垣　末子）
②博物館の予算（比嘉　敏子）
③保存施設と保存環境（真保栄　勝）
④民俗資料の取扱実習（太田　健一）
⑤美術工芸資料（染織・書跡）の取扱実習（與那嶺一子）
⑥展示解説の実際と教育普及補助業務（上原　敏子・喜久川智子）
⑦歴史資料の取扱実習（園原　謙）
⑧博物館資料受入・分類・原簿記載実習（與那嶺一子）
⑨美術工芸資料（漆器・陶器・書画）の取扱実習（津波古　聰）
⑩教育普及の考え方と実際（前田　真之）
⑪教育普及活動・（瑞慶山　昇・伊波　悦子・仲底　善章）
⑫博物館資料取扱実習（展示会の準備と片付）（與那嶺一子、津波古　聰）
⑬博物館資料（自然史資料）取扱実習（嵩原　建二・神谷　厚昭・与那城善春）
⑭博物館資料取扱実習（津波古　聡・太田　健一・與那嶺一子・与那城義春）
⑮博物館活動の概要（大城　慧）
⑯学芸業務の考え方と実際（大城　慧）
⑰考古資料の取扱実習（大城　慧、柏木　祐）
⑱自然史資料の取扱実習（動物）（嵩原　建二）

実習期間

第１回　沖縄国際大学・久留米大学・熊本大学・四国大学・桜美林大学
　　平成12年８月21日（月）～９月１日（金）
第２回　沖縄県立芸術大学・佐賀大学・広島大学
　　平成12年10月16日（月）～10月27日（金）
第３回　琉球大学
　　平成12年11月27日（月）～12月８日（金）

実習生

第１回　沖縄国際大学（10名）・久留米大学（１名）・熊本大学（１名）・四国大学（１名）・桜美林大学（１名）

久高　清香	沖縄国際大学（国文学科）	時志奈津子	沖縄国際大学（社会学科）
福士　竜太	〃　（　〃　）	西玉得哲也	〃　（　〃　）
新垣　聖子	〃　（社会学科）	伊集　綾子	〃　（科目履修生）
宜保　友司	〃　（　〃　）	山田　葉子	久留米大学（人間学科）
小嶋　良平	〃　（　〃　）	國吉　大介	熊本大学（人間科学科）
小松　直幸	〃　（　〃　）	棚原はとり	四国大学（国語国文学科）
知念　政樹	〃　（　〃　）	知念　志穂	桜美林大学（経済学科）

第２回　沖縄県立芸術大学（10名）、佐賀大学（１名）、広島大学（１名）

村田　双葉	県立芸術大学（工　芸）	林　　真人	県立芸術大学(デザイン)
平良　沙織	〃　（　〃　）	石崎美奈子	〃　（工　芸）
村田美由紀	〃　（　〃　）	大城　千晶	〃　（　〃　）
新　　美穂	〃　（芸術学）	照屋　弥生	〃　（科目等履修生）
花城　康治	〃　（　〃　）	金城みどり	佐賀大学(デザイン)
上野　　梓	〃　（工　芸）	仲宗根瑞香	広島大学(考古学)

第３回　琉球大学（15名）

石嶺　智史	琉球大学（国際言語学科）	塚田　　学	琉球大学　（人間科学科）
上池　藤江	〃　（　〃　）	岡田　　彩	〃　（生産環境学科）
浦崎由香利	〃　（人間科学科）	一ノ瀬文絵	〃　（海洋自然科学科）
金城亜矢香	〃　（　〃　）	金田真智子	〃　（　〃　）
島袋まき子	〃　（　〃　）	知花　静香	〃　（　〃　）
具志堅智昭	〃　（　〃　）	大城寿賀子	〃　（　〃　）
下野　栄高	〃　（　〃　）	榎戸　　綾	〃　（　〃　）
上野　　拡	〃　（　〃　）		

Ⅶ　資料の収集・保存管理

1．収蔵資料現在高

平成13年３月31日現在

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	602	25,429	6	2	26,039	47,345
	動物	1,105	18,334	489	13	19,941	
	植物	15	1,350	0	0	1,365	
美術工芸	絵画	82	519	5	4	610	10,399
	書跡	511	869	50	6	1,436	
	彫刻	5	114	137	7	263	
	陶磁器	442	3,287	457	534	4,720	
	漆器	240	203	192	19	654	
	染織	1,090	1,548	50	27	2,715	
	工芸	0	1	0	0	1	
歴史資料		2,458	6,249	339	129	9,175	9,175
考古資料		8	3,583	2,676	15	6,282	6,282
民俗資料		543	3,575	1,070	137	5,325	5,325
総計		7,101	65,061	5,471	893	78,526	78,526

2　平成12年度（2000）新収蔵資料高

平成12年４月１日～平成13年３月31日

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質					0	515
	動物		13	2		15	
	植物		500			500	
美術工芸	絵画	1			4	5	390
	書跡		1	2	3	6	
	彫刻			5	7	12	
	陶磁器			208	39	247	
	漆器			30	19	49	
	染織		4	40	27	71	
	工芸					0	
歴史資料		1	30		4	35	35
考古資料				1,701		1,701	1,701
民俗資料			175	488	59	722	722
総計		2	723	2,476	162	3,363	3,363

3　平成12年度（2000）新収蔵資料目録

【寄贈の部】　（平成12年４月１日～平成13年３月31日）

分類		品名	数量	寄贈者名	所在地
自然史	動物	ミヤマホオジロ	1	奥土晴夫	糸満市
	〃	コミミズク他	7	沖縄こどもの国	沖縄市
	〃	カンムリワシ他	2	本成　尚	石垣市
	〃	カツオドリ他	3	西里正善	竹富町
	植物	新城・立石植物標本コレクション	500	新城和治・立石庸一	西原町
美術工芸	書跡	徐葆光書「七言絶句」	1	西林昭一	東京都
	染織	絹紺地総絣着物他	2	大城廣四郎	南風原町
	〃	絹紫地花模様絞染着物(辻が花)他	2	入谷初子	埼玉県
歴史資料		新２千円札・贈呈書	2	日本銀行	東京都
〃		記念メダル等資料	10	財団法人印刷朝陽会	東京都
〃		琉球神道記（上・下）他	18	平山敏治郎	京都府
民俗資料		木綿紺地総絣	1	赤崎義房	那覇市
〃		普天間神宮寺の護符他	75	岡本恵昭	平良市
〃		ニクブク（稲藁製筵）他	5	新垣喜孝	中城村
〃		巾着・（赤色）他	7	宮城　久	那覇市
〃		ピラ（宮古ヘラ）	1	嵩原建二	読谷村
〃		甕型厨子甕（荒焼マンガン掛け焼締厨子甕）他	13	徳山政彦	福岡県
〃		山内盛彬『作曲編曲特集號』第１號	1	Bonnie Naomi Miyashiro	Hawaii
〃		レコード１（桑名正博）他	68	仲底善章	西原町
〃		足袋	3	伊波悦子	西原町
〃		甕型厨子甕(荒焼マンガン掛け庇つき焼締め)	1	屋部憲次郎	那覇市

【移管の部】

分類		品名	数量	所管元
美術工芸	絵画	琉球国地図他	4	沖縄県文化環境部文化国際局文化振興課
	書跡	魏学詩書（軸装）他	3	〃
	彫刻	インドの神像他	7	〃
	陶磁器	三島手急須（象嵌線状花文土瓶）他	39	〃
	漆器	堆朱の漆器（朱漆猿漆絵丸櫃）他	19	〃
	染織	藍型(葡萄文藍型着物）他	27	〃
歴史資料		進貢船模型他	4	沖縄県文化環境部文化国際局文化振興課
民俗資料		御殿型厨子甕他	59	沖縄県文化環境部文化国際局文化振興課

【収集の部】

分類		品名	数量
動物		イッテンフエダイ他	2
美術工芸	書跡	漢詩（未表具）	2
	彫刻	木製土俗像他	5
	陶磁器	青釉香炉（緑釉香炉）他	208
	漆器	漆器の煙草入れ（黒漆人物唐草文煙草入）他	30
	染織	与那国花織ドタテ他	40
考古資料		中国元明初青磁破片他	1,701
民俗資料		ヤーマ（糸取、座繰り）他	488

【購入の部】

分類		品名	数量
美工	絵画	写生「伊平屋阿母嘉那志」	1
歴史資料		袋中上人肖像図（レプリカ）	1

4　所蔵の指定文化財

国指定文化財（重要文化財）　　平成13年３月31日現在

種　別	名　　称	員　数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書・典籍	おもろさうし	22冊	昭48．6．6	沖縄県立博物館	沖縄県
〃	混効験集	2冊	〃	〃	〃
工　芸　品	銅鐘（旧首里城正殿鐘）	1口	昭53．6．15	沖縄県立博物館	沖縄県
〃	梵鐘（旧円覚寺殿前鐘）	3口	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺殿中鐘）				
〃	梵鐘（旧円覚寺楼鐘）				
歴史資料	明孝宗勅諭　琉球国中山王尚真宛	1巻	平11．6．7	沖縄県立博物館	沖縄県

県指定文化財（有形文化財）　　平成12年３月31日現在

種　別	名　　称	員　数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫　　刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書木札	1躰1枚	昭31.12.14	沖縄県立博物館	沖縄県
〃	世持橋匂欄羽目	1括	〃	〃	
絵　　画	絹本着色花鳥図（殷元良筆）	1幅	昭54．4．9	沖縄県立博物館	沖縄県
〃	紙本着色雪中雉子の図（殷元良筆）	〃	〃	〃	〃
〃	紙本墨画竹の図（殷元良筆）	〃	昭57．3．4	〃	〃
〃	紙本着色奉使琉球図（朱崔年筆）	1巻	〃	〃	〃
工　芸　品	三線江戸与那	1丁	昭31.12.14	沖縄県立博物館	沖縄県
〃	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1本	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	〃	〃	〃
〃	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	1口	〃	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵椀	〃	昭54．9．3	〃	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
〃	色象嵌粟絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
〃	象嵌色差面取抱瓶	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧霊応寺鐘）	1口	昭60．6．18	〃	〃
〃	梵鐘（旧普門禅寺鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧天竜精舎鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧天尊殿鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧天妃宮鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧一品権現鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘残欠（旧波之上宮朝鮮鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧大安禅寺鐘）	〃	昭63．1．12	〃	〃
〃	黒漆薔薇堆錦軸盆	1枚	平２．２．６	〃	〃
〃	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1基	〃	〃	〃
〃	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1具	〃	〃	〃
〃	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	〃	〃	〃	〃
〃	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1枚	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧永福寺鐘）	1口	〃	〃	〃
〃	三線盛嶋開鐘	1丁	平６．３．15	〃	〃
典　　籍	評定所格護定本　中山世鑑	6冊	昭31.12.14	沖縄県立博物館	沖縄県
〃	〃　中山世譜	19冊	〃	〃	〃
書　　跡	程順則の書	1巻	昭42．4．11	沖縄県立博物館	沖縄県
〃	扁額「徳高」鄭元偉書	1面	平元．9．29	〃	〃
〃	扁額「凌雲」林麟焻書	1面	〃	〃	〃
古　文　書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31.12.14	沖縄県立博物館	沖縄県
〃	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1通	昭53．4．1	〃	〃
〃	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56．3．20	〃	〃
歴史資料	安国山樹花木記碑	1基	平元．9．29	沖縄県立博物館	沖縄県

5　収蔵資料整理事業概要　（担当：嵩原建二・津波古聰・太田健一）

①　事業の目的と経過

沖縄県立博物館は、沖縄陳列館（昭和20年開館）を前身として56年の歴史を有し、現在75,163件の資料が収蔵されている。この約50年間に合併、移転さらに復帰による機構改革などにより、収蔵資料の保管場所においては、一部に未整備の状況が見られる。このことから平成13年以降の新館開館移転のために、統一された収蔵資料の整理を早急に行うことが求められ、未登録資料の整理登録や収蔵資料の整理等を行い、収蔵資料の移動にもれがないような効率的な移転準備作業の一環として、収蔵資料整理事業は取り組まれてきた。これまで、本事業をとおして、特に厨子甕の実測整理や収蔵古写真の複製と分類・整理等については、委託業務として実施した結果、分類・整理作業にかなりの進捗がみられる。また、各分野で有する収蔵資料についても点検照合作業が進展してきている。

さらに、移転作業による収蔵品の出し入れ作業を支援し、さらにマルチメデア時代に対応して、収蔵品台帳や原簿等による収蔵資料の管理保管だけでなく、博物館収蔵資料情報のデータベース化を推進するため、平成６年度にコンピューターによる収蔵資料管理データベースシステムを構築（委託）した。その結果、利用に応じた収蔵資料一覧表の作成や収蔵資料の検索等が行えるデータベースシステムが稼働中である。本事業においては、さらに充実したデータベースシステムにとなるようハードウエアの整備とともに、収蔵資料データに関する継続的なデータ整備を実施してきている。

②　これまでの事業の内容

◎収蔵資料整理作業
- 収蔵資料の台帳整理・未登録資料の分類・整理登録
- 保管庫・整理棚の設置（委託）
- 写真パネル等の作成・整理（委託）
- 厨子甕の実測・整理作業（委託）
- 自然史標本（剥製）の作成（委託）

◎台帳電子化（コンピュータ化）作業
- データベースシステムの開発構築・運用
- システム用のハード機器及びソフトウエアの整備
- 収蔵資料データ入力（文字・画像データ）等データ整備
- 台帳原簿の印刷

◎写真撮影及び写真整理作業
- 収蔵資料（重要資料）の写真撮影と写真・フィルムの整理・保管
- 収蔵古写真の複製・整理作業
- 歴史資料のマイクロ化

③　平成12年度事業主な実績

(1)　資料整理作業
- ◎各分野収蔵資料の分類・整理作業（台帳照合及び未登録資料の整理等）
- ◎自然史資料の分類・整理・点検作業
- ◎未整理自然史資料（剥製）の製作
- ◎資料保管棚の製作

(2)　データベースシステム整備（委託）
- ◎収蔵資料管理用データベースへのデータ整備（図書受入資料データ・新収蔵資料データ）
- ◎データベースシステムの点検・一部拡張
- ◎収蔵資料目録作成のためのデータ変換作業

6　資料貸出

(1)　展示会名：常設展「日本文化のあけぼの」
主　　催：国立歴史民俗博物館
開催場所：同　上
貸出期間：平成12年４月１日～平成13年３月31日
貸出資料：考古資料／市来式土器

(2)　展示会名：常設展示
主　　催：沖縄県平和祈念資料館
開催場所：同　上
貸出期間：平成12年４月29日～平成13年４月29日
貸出資料：美術工芸資料・民俗資料・歴史資料／クリ形菓子器他33件54点

(3)　展示会名：沖縄県立埋蔵文化財センター常設展
主　　催：沖縄県立埋蔵文化財センター
開催場所：同　上
貸出期間：平成12年５月１日～平成13年３月31日
貸出資料：自然史資料／伊江島ゴヘズ洞産リュウキュウジカ化石12点

(4)　展示会名：沖縄の美「技と心」伝統工芸展
主　　催：浦添市美術館
開催場所：同　上
貸出期間：平成12年５月16日～８月10日
貸出資料：美術工芸資料／金城次郎作「イッチン魚文四耳壺」１点

(5)　展示会名：特別展「沖縄の古窯ー古我知焼」
主　　催：名護博物館
開催場所：同　上
貸出期間：平成12年７月12日～８月４日
貸出資料：美術工芸資料／古我知焼水甕１点

(6)　展示会名：企画展「水辺の花と生きものたち」
主　　催：宮崎総合博物館
開催場所：同　上
貸出期間：平成12年７月13日～９月５日
貸出資料：自然史資料／剥製８点・模型２点

(7)　展示会名：「南の森の物語ー八重山の自然誌」
主　　催：橿原市昆虫館
開催場所：同　上
貸出期間：平成12年７月28日～10月９日
貸出資料：自然史資料／剥製５点

(8)　展示会名：「女子美術大学創立100周年記念展」
主　　催：学校法人女子美術大学創立100周年記念展実行委員会
開催場所：日本橋三越
貸出期間：平成12年８月18日～12年11月18日

貸出資料：美術工芸資料／大城志津子作「タピストリー未知」１点

(9) 展示会名：「日本の技と美」展－重要無形文化財とそれを支える人々－
主　　催：文化庁・滋賀県教育委員会・滋賀県立近代美術館・京都新聞社・青森県教育委員会・青森郷土館
貸出期間：平成12年８月28日～12月15日
貸出資料：美術工芸資料／與那嶺貞作「木綿紺地格子緯絣緯浮花織衣裳」１点

(10) 展示会名：人間国宝「首里の織物」宮平初子「織の響き」展－優雅・彩る技と心－
主　　催：浦添市美術館／沖縄タイムス社
開催場所：浦添市美術館
貸出期間：平成12年９月25日～12月25日
貸出資料：美術工芸資料／宮平初子作「絹茶地三玉ムルドゥッチリ平織衣裳」他２点

(11) 展示会名：「浦添ようどれ発掘展」
主　　催：浦添市教育委員会
開催場所：浦添市美術館
貸出期間：平成12年10月19日～11月７日
貸出資料：美術工芸資料／浦添ようどれの石獅子他３点

(12) 展示会名：常設ミニ企画『堆錦』
主　　催：浦添市美術館
開催場所：同上
貸出期間：平成12年10月31日～11月23日
貸出資料：美術工芸資料／堆錦総貼珠取龍文庫他２点

7　燻蒸処理

当博物館には、国・県指定文化財及びこれまでに購入・寄贈ならびに収集活動で得た文化財や資料が約７万５千点余ある。それらの資料は害虫その他の有害菌から防除し、資料の適切な保存を行うために、館内の燻蒸による害虫駆除を年１回行っている。

平成12年度は５月22日から26日までの期間を閉館して実施した。

地下・１階・２階の各収蔵庫のほかに、各展示室、首里城正殿模型、扁額「徳高」、湧田窯プレハブをメチルプロマイドによって燻蒸し、その他の事務室・講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除を行った。

Ⅷ　刊行物

刊　行　物　名	種 類	部 数	規格（頁）	内　　容
沖縄県立博物館年報　No.33 (平成12年度版)	定　期	1,000	A4（80）	平成12年度の当館の活動状況や概要
沖縄県立博物館紀要　第27号	定　期	1,000	B5(139)	学芸員の調査研究報告書
西表島総合調査報告書	不定期	1,000	B5(190)	平成10年度～12年度の当館学芸員等による西表島の総合調査報告書
九州・沖縄サミット開催記念特別展「大琉球展―シマ・島・海」図録	不定期	1,000	A4（63）	７月11日から８月27日まで開催された特別展の図録
ハワイ移民百周年記念特別展 「日系移民１世紀展― From Bentō to Mixed Plate」図録	不定期	1,000	A4(136)	11月10日から12月10日まで開催された特別展の図録
企画展「平成11年度新収蔵品展」図録	定　期	1,000	A4（14）	11年度に寄贈・購入・収集等で収蔵された資料を紹介する企画展の図録
企画展「沖縄の繊維・染料植物展」図録	不定期	1,000	A4（24）	２月６日から３月４日まで開催された企画展の図録
平成12年度子ども体験教室	定　期	1,000	A4（88）	12年度の教育普及事業としての児童生徒を対象とした体験学習の記録
平成12年度ボランティア活動	不定期	1,000	B5（97）	12年度のボランティア活動記録集
博物館だより　　No.44	不定期	1,500	A4（４）	当館の行事等を紹介する広報誌
博物館だより　　No.45	不定期	1,500	A4（４）	〃
年間行事案内リーフレット	定　期	10,000	変形 A4	平成12年度の年間行事案内
年間ポスター	定　期	1,000	B2 変形	平成12年度の年間行事案内
日本文リーフレット	定　期	66,000	変形 A4	当館の展示内容紹介
英文リーフレット	定　期	66,000	変形 A4	当館の展示内容紹介
第25回移動博物館リーフレット	定　期	2,000	B5（12）	伊江村で開催された移動博の展示資料を紹介したリーフレット

Ⅸ　その他の活動

1　沖縄県博物館協会

2000年度の理事会・総会・春期研修会が、５月25日（木）～26日（金）の２日間にわたって那覇市民会館（那覇市立壺屋焼物博物館）で開催され、85名の参加を得た。総会では会長の大城将保氏と副会長の宮城篤正氏の退職に伴い感謝状が授与された。

初日は「博物館等におけるホームページの作製と活用」をテーマに研修会がもたれた。研修会は、まず、金城秀治氏（メルファースト・デジタルメディア開発室長）による「『琉球文化アーカイブ』の制作とその意義」の報告、続いて渡名喜明氏（那覇市立焼物博物館館長）の那覇市立壺屋焼物博物館のホームページの制作と活用」、さらに徳松安一郎（那覇市立上間小学校教諭）による「学校現場におけるホームページの制作と活用」というタイトルで報告を受け、質疑応答に入った。インターネットが国内外で多くの人びとに利用されている今日、21世紀を迎えるに当たって、いかにして博物館がホットな情報を発信していくか、様々な面から活発な意見交換がなされ、有意義な研修がもてた。また、研修会のテーマに合わせて、ＮＴＴ西日本沖縄支店とメルファースト・ハグハウス・コロニー社の協力で、会場では機器やソフトのデモンストレーションも行われた。

２日目は、午前中は壺屋焼物博物館の周辺、国場清二氏（那覇市史跡巡り案内講師）と内間靖氏（那覇市壺屋焼物博物館）の案内で壺屋地域の工房や登窯などの史跡と焼物博物館を見学、午後は識名園・玉陵・福州園・那覇市伝統工芸館などを各自で自由見学した。

秋期研修会は、10月12日（木）～13日（金）の２日間にわたって宜野座村で開催された。当初は「十五夜アシビ」の持たれる日に合わせて９月12日～13日を予定していたが、台風14号の影響で延期になり、１ヶ月後の開催となった。参加者は90名。

１日目は、宜野座村立中央公民館を会場に、講演と情報交換会が持たれた。講師は知名定順氏（宜野座村立博物館主幹）で、演題は「沖縄戦と宜野座村」。沖縄戦開戦前夜から戦乱期を経て、戦後の混乱期までの宜野座村内における社会情勢の詳しい報告がなされた。とりわけ印象に残ったのは、戦後の混乱期の話で、当時の沖縄県全人口の３分の１にもあたる10万以上の人々が宜野座村内に集まったとのことである。多くの人々が宜野座村に集まったことで、多くの人がそこで亡くなり、共同墓地に埋葬されたらしい。とりわけ老人や子どもたちの死が多かったということであるが、いつの時代も、どこの地でも、戦争の時真っ先に犠牲になるのが年寄りと子どもたちであることを強く感じた。

２日目は、知名定順氏をはじめとする博物館職員の案内で、「宜野座村内の遺跡と伝説の地を訪ねて」というテーマで現地研修会を持った。国際交流村近くのブルシ御嶽から始まり、字宜野座の平松毛、惣慶の石敢當、漢那の唐ぬ浜と見学したが、いずれの見学地でも、博物館職員による紙芝居を使っての伝説の説明が加わり、楽しくかつなかなかユニークな現地研修会を持つことができた。

2　沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に協力し、さらに会員の教養を高めることと相互の親睦をはかる」ことを目的として1980年の1月に発足してから20年目を迎えた。その間会員も増加の傾向にある。本年は家族会員が８１家族となり、家族ぐるみで博物館友の会と関わりを持つ人が増えてきている。また友の会の活動も年間をとおしての事業に加えサークルなどの活動も活発化し、充実してきている。

2000年度決算報告書による実績は、7,877,560円であった。また会員は511名、準会員6人、賛助会員11団体、家族会員81族となっている。

2001年５月21日（月）には2001年度の総会が本館講堂で開かれ、新役員や予算および事業計画等が審議・決定されて新たな活動を開始した。

2001年度に実施した活動内容と事業内容は次のとおりであった。

(1) 事　業

① 20周年記念講演会：５月20日（土）
「四つの鐘の物語」の演題で大城将保氏を招いて記念講演を実施した。
参加者：120名

② 体験教室：６月７日（水）、９日（金）、14日（水）、16日（金）
「織物を知ろう」をテーマに山田葉子氏を迎えて織物の初歩を体験した。
参加者：20人

③ 浦添グスク見学会：６月18日（土）
浦添グスク跡での見学会を、浦添市教育委員会文化課長の安里進氏の解説で実施した。
参加者：27名

④ 首里古地図の世界を歩こう：７月15日（土）
首里古地図をもとに首里の町（鳥小堀・赤田界隈）を、沖縄県資料編集室の小野まさ子氏の解説で実施した。
参加者：21名

⑤ 離島めぐり：７月22日（土）～23日（日）
渡嘉敷島研修を沖縄県立博物館学芸員神谷厚昭氏の解説で、地質、星座、海の生物の観察会を実施した。
参加者：21名

⑥ 文化施設見学会：８月19日（土）
沖縄県立埋蔵文化財センターを所長の知念勇氏の案内で見学会を実施した。
参加者：20名

⑦ 体験教室：８月19日（土）、９月２日（土）、９日（土）、16日（土）
前盛弘吉氏を迎えて「アンツク作り」を体験した。
参加者：17名

⑧ 県外研修旅行：９月15日（金）～18日（月）
「南伊予から豊後水道を渡る～地域のくらしと仏教文化」をテーマに沖縄県立博物館教育普及課長前田真之氏の解説で実施した。
参加者：20名

⑨ グスクめぐり：10月22日（日）
「琉球歴史上の英雄たちの墓めぐり」をテーマに沖縄考古学会会長嵩元政秀氏を講師に招いて実施した。
参加者：47名

⑩ 海外研修：10月５日（木）～10日（火）
「台湾少数民族探訪の旅」をテーマに実施した。
参加者：19名

⑪ 文化キャラバン隊：11月25日（土）～26日（日）
伊江島で開催され移動博物館の文化キャラバン隊として参加し、受付や解説の補佐を行った。
参加者：９名

⑫ 展示室解説会：11月18日（土）
特別展「日系移民１世紀展 」の展示解説を沖縄県立博物館学芸員園原謙氏の解説で実施した。
参加者：15名

⑬ 収蔵品解説会：２月14日（土）
沖縄県立博物館所蔵の陶器を当館学芸員の津波古聰氏の解説で実施した。
参加者：13名

⑭ 講演と映写会：３月17日（土）

「シーサーのルーツ」と題して沖縄映像センター社長玉城惇博氏 による講演と映写会を実施した。

参加者：145名

(2) 会員への情報提供

○博物館事業及び催し物の案内状発送

○友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送

○博物館発行印刷物の復刻販売サービス

3．会誌（博友）15号・会報（赤い瓦）21号の発行

4．ミュージアムショップの経営

出版物・ミニ絵巻・絵はがき・委託図書・紅型・テレホンカード・フイルム・飲み物等の販売サービス

5．その他

○サークル活動：歴史サークル、グスクサークル、民俗サークル

○総会及び懇親会（2000年５月20日）参加者：58名

○新年会　　（2001年１月18日）参加者：61名

X　関係法規抄録

○博物館法　　昭和26.12.　法律第285号
〔最近改正〕　平成11.7.16　法律第87号

第1章　総則

（この法律の目的）

第1条　この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第2条　この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治29年法律第89号）第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2　この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3　この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

（博物館の事業）

第3条　博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

(1)　実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。

(2)　分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。

(3)　一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。

(4)　博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。

(5)　博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。

(6)　博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。

(7)　博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。

(8)　当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。

(9)　他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。

(10)　学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2　博物館は、その事業を行うに当つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

（館長、学芸員その他の職員）

第4条　博物館に、館長を置く。

2　館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

3　博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

4　学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

5　博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。

6　学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

（学芸員の資格）

第５条　次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

(1)　学士の学位を有する者で、大学において文部省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの。

(2)　大学に２年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、３年以上学芸員補の職にあったもの。

(3)　文部大臣が、文部省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者。

2　前項第２号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部大臣が指定するものを含むものとする。

（学芸員補の資格）

第６条　学校教育法（昭和22年法律第26号）第56条の規定により大学に入学することができる者は、学芸員補となる資格を有する。

第７条削除

（設置及び運営上望ましい基準）

第８条　文部大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第９条削除

第２章　登録

（登録）

第10条　博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

（登録の申請）

第11条　前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

(1)　設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所

(2)　名称

(3)　所在地

2　前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。

(1)　公立博物館にあつては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(2)　私立博物館にあつては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

（登録要件の審査）

第12条　都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第１項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録した旨を当該申請書に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で登録申請書に通知しなければならない。

(1)　第２条第１項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。

(2)　第２条第１項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。

(3)　第２条第１項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。

(4)　１年を通じて150日以上開館すること。

（登録事項等の変更）

第13条　博物館の設置者は、第11条第１項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第２項に規定する添付書類の記載事項に重要な変更があつたときは、その旨を都道府県教育委員会に届け出なければならない。

２　都道府県の教育委員会は、第11条第１項各号に掲げる事項に変更があつたことを知つたときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

（登録の取消）

第14条　都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむ得ない事由により要件を欠くに至った場合においては、その要件を欠くに至った日から２年間はこの限りでない。

２　都道府県の教育委員会は、前項の規定によう登録の取消しをしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

（博物館の廃止）

第15条　博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

２　都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

（規則への委任）

第16条　この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県教育会の規則で定める。

第17条 削除

第３章　公立博物館

（設置）

第18条　公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

（所管）

第19条　公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

（博物館協議会）

第20条　公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

２　博物館協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条　博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条　博物館の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

２　削除

（入館料）

第23条　公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情がある場合は、必要な対価を徴収することができる。

（博物館の補助）

第24条　国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

２　前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条　削除

（補助金の交付中止及び補助金の返還）

第26条　国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第１号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである湯合には、既に交付した補助金を、第３号及び第４号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

(1)　当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があつたとき。

(2)　地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。

(3)　地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。

(4)　地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第４章　私立博物館

（都道府県の教育委員会との関係）

第27条　都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

２　都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

（国及び地方公共団体との関係）

第28条　国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第５章　雑則

（博物館に相当する施設）

第29条　博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあつては文部大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第２項の規定を準用する。

附　則

（施行期日）

１　この法律は、交付の日から起算して３箇月を経過した日から施行する。

（経過規定）

２　第６条に規定する者には、旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）、旧高等学校令又は旧青年学校令（昭和14年勅令第254号）の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令

昭和27．３．20　政令第47号

〔最近改正〕昭和34年４月30日　政令第157号

（政令で定める法人）

第１条　博物館法（以下「法」という。）第２条第１項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

１　日本赤十字社

２　日本放送協会

（施設、設備に要する経費の範囲）

第２条　法第24条第１項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

１　施設費　施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費

２　設備費　博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

附　則

この政令は、交付の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例（抄）　昭和47．5．15条例第24号
〔最終改正〕平成６年12月27日 条例第42号

（趣旨）

第１条　この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条、図書館法（昭和25年法律第118号）第10条及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

（博物館）

第５条　歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名　　称	位　　置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町１丁目１番地

２　博物館は、博物館法第３条第１項各号に掲げる業務を行う。

（博物館協議会）

第６条　博物館に、博物館協議会を置く。

２　博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

３　委員の任期は、２年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

４　前２項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則（抄）　昭和47．5．15教育委員会規則第２号
〔最終改正〕平成10年３月31日教育委員会規則第５号

（趣旨）

第１条　この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

（博物館）

第４条　沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に、次の課を置く。

庶務課
学芸課
教育普及課

２　博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

(1)　予算、決算その他会計事務に関すること。
(2)　公印の管守に関すること。
(3)　施設設備の管理に関すること。
(4)　職員の服務及び福利厚生に関すること。
(5)　博物館協議会に関すること。
(6)　他課の所掌に属さない事務に関すること。

学芸課

(1)　博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
(2)　博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
(3)　博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
(4)　博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

教育普及課

(1)　博物館資料の利用相談に関すること。
(2)　展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
(3)　学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則　昭和47. 5.45教育委員会規則第13号

〔最終改正〕平成12年3月30日教育委員会規則第16号

（趣旨）

第１条　この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（管理の責任）

第２条　館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

（諸帳簿）

第３条　館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならない。

（施設設備の亡失）

第４条　館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損修し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示をうけなければならない。

（警備防災の計画）

第５条　消防法（昭和23年法律第186号）第８条第１項に規定する防火管理者は、館長とする。

２　館長は、年度始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

（当直）

第６条　館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

２　前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第４号）の定めるところによる。

（職員の服務等）

第７条　職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

第８条　文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第２号）の定めるところによる。

（開館時間）

第９条　博物館の開館時間は、午前９時から午後５時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

（休館日）

第10条　博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1)　定期休館日　月曜日

(2)　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）の規定する日（こどもの日及び文化の日を除く。）

(3)　慰霊の日　６月23日

(4)　年始休館日　１月２日から１月４日

(5)　年末休館日　12月28日から12月31日

(6)　臨時休館日　特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

２　前項第第２号及び第３号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもつて、これを替えるものとする。

３　前２項の規定にかかわらず、館長が特に必要と認めた場合は、開館することができる。

（寄贈及び寄託）

第11条　博物館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第１号様式）又は寄託申込書（第２号様式）を提出しなければならない。

２　委託を決定したものについては、受託承認書（第３号様式）を交付するものとする。

３　前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

（寄託資料の保管）

第12条　寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

（寄託資料の返付）

第13条　寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

（経費の負担）

第14条　寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条　寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

（入館料の交付）

第16条博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

（入館料の免除）

第16条の２　沖縄県立教育機関使用徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）第４条規定により入館料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

(1)　県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として常設展を観覧する場合

(2)　県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒が学校週５日制の休業土曜日に常設展を観覧する場合

(3)　前各号に定めるもののほか、館長が特に必要と認めた場合

２　前項第１号又は第３号の規定により入館料の免除を受けようとする者は、あらかじめ入館料免除申請書（第４号様式）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

（入館の禁止等）

第17条　館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1)　館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者

(2)　伝染病患者及びめいてい者と認められる者

(3)　その他館長が適当でないと認められる者

（施設使用の許可等）

第18条　博物館施設（講堂、第２陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下、同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第５号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

２　館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合には博物館施設の使用を許可することができる。

(1)　専ら営利を目的とする事業を行うもの

(2)　特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの

(3)　特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの

(4)　社会教育上不適切であると認められるもの

３　館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

（現状回復の義務）

第19条　使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び附属設備を現状に復さなければならない。

（損害の賠償）

第20条　観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し、又は免除することができる。

（報告）

第21条　館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10月までに、教育長に提出しなければならない。

（補則）

第22条　この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附　則

この規則は、公布の日から施行する。

附　則（平成元年３月31日教育委員会規則第４号）

この規則は、平成元年４月１日から施行する。

第１号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館長　殿

申込者

住所

氏名　　㊞

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。

記

1　種　別
2　作者名
3　作品名
4　製作年月日
5　附属品
6　資料の所在地
7　時価見積額
8　寄贈の理由

受　諾　書

上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第３項の規定により返却されません。

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館長　　印

第２号様式（第11条関係）

博物館資料寄託申請書

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館長　殿

申請者

住所

氏名　　㊞

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受諾くださるよう申込みます。

記

1　種　別
2　作者名
3　作品名
4　製作年月日
5　附属品
6　資料の所在地
7　寄託期間　　平成　　年　　月　　日から
　　平成　　年　　月　　日まで

第３号様式（第11条関係）

博物館資料受託承認書

平成　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館長　　印

平成　　年　　月　　日付け申請のあった博物館資料の寄託については、下記により受託します。

記

1　種　別
2　作者名
3　作品名
4　製作年月日
5　附属品
6　受託期間　　平成　　年　　月　　日から
　　平成　　年　　月　　日まで
7　備　考

第４号様式（第16条の２関係）

入館料免除申請書

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館長　殿

申請者住所
氏名　　㊞
電話

下記の理由により博物館入館料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第37号）第16条の２第２項の規定に基づき申請します。

記

1　入館者　　団体名
　　引率者名
2　入館者数　　人
3　入館日時　　年　　月　　日（　　曜日）　　時～　　時
4　申請理由

承認証

殿

年　　月　　日付け申請の博物館の入館料免除の件、申請どおり承認します。

年　　月　　日

沖縄県立博物館長　　印

第５号様式（第18条関係）

博物館施設使用許可申請書

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館長　殿

申請者氏名

電　話

下記により貴館施設を使用したいので、許可してくださるようお願いします。

記

1　使用者

団体名及び

代表者名　　職業（　　）

住　　所　　電話

2　使用目的

3　使用する施設：1　ホール　　2　臨時陳列室

4　使用する日時及び期間

自：平成　　年　　月　　日　午　　時　　分
至：平成　　年　　月　　日　午　　時　　分
（　　）日間

5　予定参加人員

6　その他必要な資料（プログラム等）

許　　可　　書

月　　日付申請の（　　）使用の件、申請どおり許可します。

平成　　年　　月　　日

沖縄県立博物館長　　印

附　則（平成４年８月28日教育委員会規則第７号）
この規則は、平成４年９月１日から施行する。
附　則（平成５年２月16日教育委員会規則第１号）
この規則は、公布の日から施行する。
附　則（平成７年５月２日教育委員会規則第９号）
この規則は、公布の日から施行する。
附　則（平成12年３月30日教育委員会規則第17号）
この規則は、平成12年４月１日から施行する。

○沖縄県立博物館協議会規則　　昭和47．10．2　教育委員会規則第29号

（趣旨）
第１条　この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第６条第４項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。
（組織）
第２条　協議会は、委員10人で組織する。
（委員）
第３条　協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。
２　委員は、非常勤とする。
（任期）
第４条　委員の任期は２年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
２　委員は、再任されることができる。
（会長及び副会長）
第５条　協議会に会長及び副会長を置く。
２　会長及び副会長は、委員の互選による。
３　会長は、会務を総理する。
４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。
（会議）
第６条　協議会は、必要に応じ会長が招集する。
２　協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
（費用弁償）
第７条　委員は、その職務を行うために要する費用の弁償を受けることができる。
（庶務）
第８条　協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。
（雑則）
第９条　この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関して必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。
附　則
この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例　　昭和47．5．15　条例第37号
〔最終改正〕平成９年７月16日条例第23号

（趣旨）
第１条　この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。
（使用料の徴収）
第２条　教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第１又は別表第２に定める額の使用料を徴収する。

2　教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

（使用料の納期）

第3条　使用料は、前納とする。

（使用料の減免）

第4条　第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

（使用料の不還付）

第5条　既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（罰則）

第6条　虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

（教育委員会規則への委任）

第7条　この条例に定めるもののほか、使用料金の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則

この条例は、公布の日から施行する。

附　則（平成9年7月16日条例第23号）

この条例は、平成9年8月1日から施行する。

別表第1（博物館の入館料）（第2条関係）

使　用　者	入　館　料
一　般	210円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体（20人以上）	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖縄県立博物館年報　No.34

2001年6月5日

編 集・発 行：沖縄県立博物館
住　　所：〒903-0823　那覇市首里大中町１－１
ＴＥＬ 098－884－2243
ＦＡＸ 098－886－4353
ホームページ：http://wl.nirai.ne.jp/oki-muse/
印　　刷：東洋企画印刷
住　　所：〒900-0024　那覇市古波蔵4-1-1
ＴＥＬ 098－831－7404

2001年度沖縄県立博物館年間行事一覧

○特別展

平成13年度国立博物館・美術館巡回展

かざりとかたち……2001年11月13日(火)～12月９日(日)

○企画展

新収蔵品展……2001年６月５日(火)～７月１日(日)

○第26回 移動博物館ー南大東村― ……2001年11月24日(土)～11月25日(日)

○博物館文化講座

第311回世界遺産を支えた人々 ……2001年５月20日(日)

講師　宜保　榮治郎（沖縄大学教授）

第312回資料収集こぼれ話し ……６月17日(日)

講師　宮城　篤正（前浦添市美術館長）

第313回首里の地名を語る ……７月28日(日)

講師　久手堅憲夫（南島地名研究センター幹事）

第314回海の生物の観察 ……８月18日(土)

講師　屋比久壮実（フリーカメラマン）

第315回心から好きな糸の話し ……８月26日(日)

講師　宮平　初子（重要無形文化財「首里の織物」保持者）

第316回沖縄の地形 ……９月29日(土)

講師　前門　　晃（琉球大学教授）

第317回イノーの利用と漁具・漁法 ……10月20日(土)

講師　上田不二夫（沖縄大学教授）

第318回琉球庭園の歴史 ……2002年１月19日(土)

講師　古塚　達朗（那覇市教育委員会文化財課主幹兼文化財係長）

第319回東アジアからみたグスク時代 ……２月23日(土)

講師　池田　榮史（琉球大学教授）

第320回中部の遺跡めぐり ……３月16日(土)

講師　新田　重清（沖縄考古学会副会長）

○博物館体験学習教室（定員あり）

①豆を栽培して豆腐をつくろう ……4月28日(土)／5月26日(土)／7月28日(土)／８月４日(土)

②サトウキビを栽培して黒砂糖をつくろう4月28日(土)／5月26日(土)／10月27日(土) ／12月8日(土)

③指導者養成の豆腐づくり……７月21日(土)

④漆喰シーサーをつくろう……８月11日(土)～12(日)／10月13日(土)～14日(日)

⑤ウチナーそばをつくろう……11月18日(日)、11月24日(土)

⑥指導者養成の黒砂糖づくり……２月９日(土)

○博物館シアター（会場：県立博物館講堂、開演時間：午後２時～）

①映像で考える戦争と子供たち……６月10日(日)

戦争ー子どもたちの遺言（カラー・約53分）

戦場ぬ童（カラー・約30分）

②アニメを楽しむ……７月29日(日)、８月５日(日)、８月12日(日)

ニルスの不思議な旅、ジャングル大帝、アニメ三銃士

③世界の人と馬の文化……２月24日(日)

アンダルシアに生きる―馬と祭り（カラー・約47分）

大草原のまつりナーダム（カラー・約47分）

バリオの祝祭―古都シェナに生きる馬の伝統（カラー・約47分）